

※①「プロローグ」

【登場人物】語りⅡ勇者、メーテル、メリッサ

メリッサ

「はい勇者ちゃまあ？あなた様のデカパイメイド、メリッサママでちゅよお」

メーテル

「はい坊やあ、あなたの実のおっぱいお母さん。メーテルママでちゅよお。今日はママたちと**全裸汗だくおんぎゃあ**プレイをたのちみまちよーねえ？」

勇者

「なんだこれ…夢…？」

メリッサ

「ああ、ヨチヨチいい子。安心癒されバブバブは初めてでちゅか？大丈夫でちゅよお、リラックスちていいでちゅよ？一般的に男性はみな、表面上は赤ちゃんプレイをバカにしつつも、実際に大人バブバブした際の勃起率はほぼ100%と言われていまちゅからね」

メリッサ

「だから今日はあんちんちて**おんぎゃあおんぎゃあ**とバブリまくって癒されチンポであっあっだっだちまちようねえ」

メーテル

「イイイヤちたって無駄でちゅよお？赤ちゃんプレイを嫌う人は、『はまってしまって自分のチンポがダメになるかも』と心のどこかで分かっているからなのでちゅよっ」

メーテル

「そういう人ほど重度の赤プレマニア予備軍なの」

メーテル

「どんな殿方でも懐かしきママおっぱいの温もりには勝てないということでちゅねえ？母親という母性溢れる異性と『濃厚授乳パイパイプレイ』を日常的にちていた男の子にとって、赤ちゃん**おんぎゃああ**プレイは男子共通のチンポ性癖と言えるでちようねえ」

メリッサ

「それに男性は優しくされたり褒められたりするとチンポが本能的にそそり立つそうです。その根源はやはり、**おんぎゃああああ**あ**おんぎゃああああ**にあると思いますか？」

←メーテル【右耳元で囁き】 開始 章終わりまで

メーテル

「うふふ男の子はみんなあヨチヨチ赤ちゃんになりたいマ・ジャ・コ・ン・しゃんでちゅねえ？」

←メリッサ【左耳元で囁き】 開始 章終わりまで

メリッサ

「男性は皆さん、おつきなおっ・ぱ・い・あ・か・ちゃん」

メーテル

「チンポはみんな**甘えんぼ**赤ちゃんプレイがだあいちゅきい」

メリッサ

「チンポはみんな**甘えんぼ**赤ちゃんプレイがだあいちゅきい」

メーテル

「みいんなみんな、おっぱいバブバブでチンポいい子いい子ちゅきちゅきだあ。ああよかったねえ」

メリッサ

「だからもう、赤ちゃんプレイで安らぎチンポ、又キ又キちて大丈夫でちゅねえ」

メーテル

「もう、しゅなおになっていいんでちゅよ」

メーテル

「バブちゃん一杯頑張ったから…もう**おっぱい**赤ちゃんの時間に
ちまちようねえ」

メーテル

「だから 坊や 私たちのことを呼んで？」

メリッサ

「それは赤ちゃんに許される数少ない言葉」

メーテル

「ねえ」

メリッサ

「呼んでくだちゃい」

メーテル

「おねだりして」

メリッサ

「私たちの赤ちゃんになってくだちゃい？」

メーテル

「よく頑張ったね」

メリッサ

「ちゅらかったでちゅよね」

メーテル

「もう大丈夫でちゅからね」

メリッサ

「甘えてもいいのでちゅよ」

メーテル

「ママがちよばにいるからね」

メリッサ

「だから赤ちゃんみたいに泣いていいのでちゅよ」

メーテル

「ぴゅっぴゅちてもいいんでちゅよ」

メリッサ

「ゲームオーバーの呪文、ちってまちゅよね」

メーテル

「坊やの甘えた泣き声…ママたちに聞かせて…」

勇者

「ママあああああああああああああああ！」

勇者

「はああ、はああはああ」

勇者

「なんだ…今の…夢…？」

勇者

「そうか、また あの夢だ…」

勇者

「どうしてまたボクは…ボクは勇者だぞ…なのになんで…」

勇者

クソ…

ボクは勇者なのに

どうしてあんな変態な夢を…

何が赤ちゃんだ…

あれがボクの欲求だっていうのか…

いやボクはそこまで欲してなんていない…

甘えなくなる時はあってもあそこまでは…

勇者として自覚が甘いからこうなるんだ

もっともっと男らしくならなきゃ

ボクは勇者だ ボクは勇者だ ボクは勇者なんだ！

勇者

「ん…はあ…でも…どうして」

勇者

ボクは宿屋のベッドでため息をつく

こうして今日もまた冒険の1日が始まった

ボクは今、魔王討伐の旅の途中にいる

ボクのようにバブバブリア王家に生まれた男児は皆、勇者になるように運命付けられる

その証拠に勇者の男性器には、魔王が現れると魔法の印が浮かび上がるようになっている

しかもこの「勇者の刻印」を持つ者は、一切の射精ができなくなるおまけ付きだ

魔王が現れたら倒さない限り、バブバブリア王家の種子は枯れ、根絶してしまうというわけだ

それがボクがひたすらに強さを求める一つの理由だ

だけど魔王を倒さなくちゃいけない最大の理由はそれじゃない
魔王城にボクの母上、バブバブリア現国王が囚われている

ボクが旅立ったほんの数日後に、魔王は母上を誘拐したらしいのだ

だからボクはこの刻印にかけて戦わなきゃいけない

それ以上の理由は必要なかった

でも…だけど…

この刻印のおかげでボクは今まで一度も射精をしたことがない

ペニスをしづいても最後まで気持ちよくなれない

むらむらする気持ちだけが日に日に高まっていき、終いにはさっきのような卑猥な夢を来る日も来る日も見るようになってしまった

だけど…これはきつと勇者であるボクに対する試練なんだ

性欲に溺れず、甘えを許さず、ボクがもっともっと強い男になる為の試練

だから今日もボクは戦い続ける

それに魔物退治の方はすごぶる調子がいい

レベル100になる日もそう遠くない

もうすぐだ…

もうすぐ魔王を屠り、母上を取り戻し、そして勇者の使命を果たす

時だ…

ここまで本当に長かった

あの旅立ちの日から一体どれくらい立っただろうか

※②「旅立ちの日」

【登場人物】語りⅡ勇者、勇者、メーテル、メリッサ、ティア、エリオ

メーテル 「本当に行くのですね坊や…」

勇者 「母上…そんなに心配しないでください。ボクは必ず帰ってきます」

メーテル 「でも…ん…」

勇者 この人はボクの母親であり、このバブバブリアの女王、メーテル・

バブバブリア

優しくて気品があり、民にも慕われる完璧なお人

問題があるとすれば、その上品さとアンバランスな程おっぱいが

大きくて、いつも無防備なところくらい

未だに母乳が出るみたいで、暇があったら搾乳機を使って母乳を

絞っている

だから母上はいつも少し母乳臭い

本人はあまり気にしていないし、悪い匂いではないんだけど

メリッサ 「メーテル様、心配のしすぎはお肌に毒ですよ。確かに少々頼りな

くはありますが、ここはご主人様を信じてみては？」

勇者 この人はボクの専属メイドでメイド長のメリッサ

クールでたまに毒舌のメイドさんで、その…やっぱりおっぱいが
すっごく大きい

冷たそうに見えるけど頼めば何でもしてくれる第二のお母さんみ
たいな人

何年もの間ボクに仕えていて母上も家族同然に扱っている

ティア

「そうですよ母上…この子はもう大人だろう…なあエリオ」

エリオ

「え？ええ。まあ…」

勇者

この凛々しい女性はボクの姉上であり王女のティア・バブバブリ
ア

そして姉上にくっついているボクそっくりの男の子がボクの子

の弟、エリオ・バブバブリア

姉上は何事にも厳しい王宮騎士でもある

麗しく真面目で、そして強い まさに騎士の鏡のようなお人

今はエリオの師匠として修行の日々を送っている

もちろん姉上も母上に負けず劣らずおっぱいが大きい

しかも最近母乳が出るようになったとか…

姉上は結婚していないはずなのにどうしてなんだろうか

勇者

「姉上…それにエリオも…いつの間に…。二人で修行していたの

ではないのですか？見送りはいららないと言ったじゃないですか」

ティア

「バカいえ。大事な弟の門出だ。見送らない訳にもいかないだろう」

エリオ

「兄上…その…頑張ってくださいね」

勇者

「もちろんだ。エリオも修行頑張るんだぞ。時がきたら一緒に冒険しよう」

エリオ

「ええ。喜んでお供します」

メリッサ

「こほん、皆様様方、そろそろ時間ですよ」

メーテル

「あらもうそんな時間。坊や…最後に一度だけ母にあなたを抱きしめさせてくれませんか」

勇者

「ええ…いいですけどその わっ」

メーテル

「坊や…愛していますよ んぎゅっっっっっっっっっっっっっっっっ」

←勇者【息をいつらそっぴに】 開始

勇者

「むう、は、ははっえ、その、胸が…」

メーテル

「いいのです、坊やは母から別れ、真の意味で乳離れしてしまうのですから。今だけは母を感じて、母のお乳に甘えなさい」

勇者

「んむう、でも、これ…息が…」

メーテル

「おうちよちよちよち。いいこでちゅねえ。ほおら最後にママのパイパイちゅうちゅうちてもいいいでちゅよお」

勇者

「んむっうっう　むっう」

メリッサ

「メーテル様…品がありませんよ…」

エリオ

「ああ♡兄上…」

←ティア【小声・笑みを浮かべながら】この台詞のみ

ティア

「ん？エリオ？どうした…？」

エリオ

「い、いえ、なんでも」

勇者

「ぷはあ…はあはあ…母上…お気持ちは嬉しいですがボクはもう

勇者なのですよ！それにもう行かなくては…」

→勇者【息をじゅらそくに】　終了

メーテル

「うう…ごめんなさい　私ったらつい」

勇者

「いえ、では…行ってまいります…必ずやこの手で魔王を倒して
みせますよ」

メーテル

「ああ待つて。最後にお別れのキスを。ちゅ」

勇者

「母上…」

メーテル

「行ってらっしゃい。我愛しの息子よ。これだけは忘れないでくだ

さいまし。何があっても私はあなたの母親…この絆は永遠だと…」

勇者

「ええもちろんです。絶対忘れません」

メーテル

「必ず帰ってくるのですよ」

ティア 「元気だな」

エリオ 「お兄様、また会える日を楽しみにしています」

メリッサ 「お気を付けくださいませ」

勇者 「ええ。もちろん。ではまた会いましょう」

【扉の音】

ティア 「行ってしまったな…では私たちも修行に戻るとするか。なあエ

リオ」

←エリオ「とろけながら」 この台詞のみ

エリオ 「ええ。早く行きましょう。ボクもう待ちきれないです」

ティア 「ふふふ。そうか…。お前はほんとに甘えんぼだな。では母上、メ

リッサ。私たちはこれで失礼する」

メーテル 「ええ。修行頑張ってくださいね」

【扉の音】

←メーテル「おっぱいを揉みながら」 開始

メーテル 「はあ…行っちゃいましたね。んあ、はあはあ」

メリッサ 「あら、メーテル様？そんなにお乳をまさぐって…はしたないで

すよ」

メーテル

「ええ、でも、このお乳はあの子の唯一の残り香…体があの子を求めて勝手に動いてしまいますわ…。ん。んふう、もっともつとこの下品に実ったデカパイお乳で挟んであげたかった」

メリッサ

「まったくお盛んなこと。ですがお乳遊びは後にしてください、あとで搾乳機を用意しますから」

メーテル

「ん、ごめんなさい。私ったらつい」

→メーテル「おっぱいを揉みながら」 終了

←メリッサ【声のトーン低め】 この台詞のみ

メリッサ

「はあ…それで…どういたしましょうか？」

メーテル

「ん…もう手段は残されていないようですね…」

メリッサ

「…ティア様たちはどうするおつもりですか？」

メーテル

「ティアとエリオは大丈夫です。あの仲睦まじさを見たでしょう？ あれはもう姉弟のものではありません。気づきましたか？ お別れの時だというのに、エリオはティアにくつつくフリをしてひたすら姉のデカ尻を甘えるようにまさぐっていました。二人は私たちより先んじて愛を育んでいるようすわ」

メリッサ

「まあ。真面目なフリをしてお下品なこと」

メーテル

「ええ…全く。イケナイ娘にイケナイ息子です」

メリッサ

「そしてイケナイ母親…ではありませんこと？」

メーテル

「メリッサ…ああ、あまり仰らないで」

メリッサ

「申し訳ございません。ですが私も…その…お気持ちは同じなのですから」

メーテル

「うふ、あなたもスケベなこと…。うふふ。そうですね。ではこの計画の成功の暁にはそんなあなたには素晴らしい位を授けましょう」

メリッサ

「ああ、陛下…♡ ありがたき幸せ…」

メーテル

「待っていなさい、勇者様…。私の、いいえ私たちのお乳からは絶対に逃がしません…うふふふふ」

※③「敗北」

【登場人物】語りⅡ勇者、勇者、メーテル、メリッサ、ティア、エリオ、淫魔

勇者
長い旅だった

孤独で過酷な旅

何度も心折れそうになったけれどついにここまで来たんだ…

目の前にあるこの城に母上と憎き魔王がいるはず

この日の為にわざわざレベルを100まであげたんだ…

負け知らずのボクに倒せない敵はいない！

勇者
「魔王、待っている…今日がお前の命日だ…！」

【BGM終了】

勇者
「やめろ！離せ！離せえ！一体どこに連れて行こうっていうんだ！」

淫魔
「はぁいい子いい子。暴れないでくだちゃあい。今、魔王様のお

部屋にお連れちまちゅからねえ」

勇者
「ボクの装備と服をかえせ！この…このこの…！」

淫魔
「くす、すごいです…。勇者ともあろう方が私に抱っこされて暴れ

ています。まさか私のような下級サキュバスが勝てるなんて思っ

ても見ませんでした…」

淫魔

「本当に勇者様はレベル100もあるんでしょうか…」

勇者

「うつうつるさい！こんなはずじゃ…こんなはずじゃなかったんだ

…お前に装備さえ取られなきゃ…！」

淫魔

「装備を溶かすのもれっきとした戦術です。それに、そのおかげで

こうして魔王城の中を全裸で露出散歩できているではありませんか。ああよかったねえ。裸ん坊はとっっても気持ちいいでちゅね

え？」

勇者

「うつるさい！うつるさい！うつるさい！」

淫魔

「またそんなに暴れて…魔王様の言う通りやはり勇者様は無力な赤ん坊だったのですね…私が勝てたのも納得です」

勇者

「ボクは赤ちゃんじゃない！」

淫魔

「ふふふ それはどうでちゅかねえ。つと、ああ、もう着いてしま

いました。ここが魔王様のお部屋です。この扉の向こうにあなたのお母様がいらっしやいます」

勇者

「母上が…？本当か？」

淫魔

「ええ。でもどうしましょうか？勇者様はお母様に会いたいですか？それとも会いたくないですか？」

勇者

「…どういう意味だ」

淫魔

「分かりませんか？下級サキュバス如きに敗北したあなたのお姿、お母様に見せられるのですか？それはきつと勇者様にとって屈辱かと」

勇者

「それは…」

淫魔

「さあどうでしょうか？せつかく選択の自由を与えているのですから早くお決めになってください」

淫魔

「3、2、1」

勇者

「待て！待って…！」

勇者

「頼む！あ、開けないでくれ！」

淫魔

「くすくす、開けないのですか…？本当にそれでよろしくって？」

勇者

「ああ、やめてくれ、もうこんなの嫌だ！ボクを殺せ、殺すんだ！」

淫魔

「ご心配なさらずに。殺しなんてしませんよ。ただ…」

【扉の開く音】

勇者

「な、開けないと言ったじゃないか！」

淫魔

「ああー残念でちたねえ？赤ん坊に選択の自由なんてあるわけないでちゅよお？ひちゃちぶりのママとのちやいかい、樂ちんでくだちやいねえ」

勇者

「ああ、どうしてこんな…」

【扉の閉まる音】

メーテル

「ああ坊や…」

勇者

「その声は…は、母上…!」

メーテル

「久しぶりですね…坊や。ずっとあなたを待っていました…」

勇者

「ああ…母…上?どうしたのですかその卑猥な恰好は…まさか魔王にやられたのですか!?!」

メーテル

「いいえ。坊や。これは辱めなどではありませんのよ。これは私が自分でしていること。だからいいのです」

勇者

「そんな…いったいどういう…」

メーテル

「坊や、そんなことより二人の再開を祝しましょう」

←メーテル【立ち位置・近づいて密着】

メーテル

「おかえりなさい…ぎゅっっっっっっ」

勇者

「ああ…は、母上、ぼく…その…」

メーテル

「ええ。いいですよ…ママは全てをわかっていますよ」

勇者

「うっう、母上…。でも…でも僕にはわかりません。母上はどうしてそんな恰好を…」

メーテル

「言ったでしょう？これは自分の意志で着ているのですよ。どうです？久しぶりの母のパイパイ丸出しどたぶんボディは？あなたのことを想って毎日毎日このドスケベなデカチチ哺乳瓶を**むにゅ**にゅ**タプ**タプっとこねくり回していたらまた一回りお乳が大きくなったのですよ？」

勇者

「は、母上？な、なにを言ってる…」

メーテル

「ああん。ダメ。ダメでちゅよ。逃げちゃメツ。ほら…どうでちゅか？甘えん坊赤ちゃんちえんよ**うの爆乳バブ**バブ**うパイ**パイでちゅよお？坊やのおっぱいさんにおちちゅけて一杯仲良しさんちてあげまちゅよお」

メーテル

「**むにゅ**うん**むにゅ**ううと、乳搾りするようにお母さんお乳をちゅぶしてっ、んはあ♥坊やのチンポを**バブバブおんぎ**やあさせてあげまちゅよ」

←勇者【吐息交じり】 開始 章終わりまで

勇者

「は、母上…や、やめてください！魔王に何かされたのですか！ボクの母上はそんなこと言いませんー！」

メーテル

「うふふ。このお下劣でチンシ」特化の赤ちゃん言葉が気になり
まちゆか？でもあなたぐらいの**おんぎゃあ**赤ちゃんにはこれぐら
い頭の悪いデカパイ淫語がお似合いでちゅよ？」

メーテル

「はあ はあ もっとも…これがあなたの母の正体にすぎません。
長い間、息子への爆乳デカパイ授乳もチン」キヨチヨチも禁じら
れた母親の姿です。魔王に何かされた訳ではありません。なぜなら
今の魔王は…この私なのですから…」

勇者

「ま、魔王？そ、そんなウソです…ボクの母上はそんな…」

メリッサ

「ウソではありませんよ。メーテル様は今、偉大なる魔王様なので
す」

勇者

「その声は…？まさか…」

メリッサ

「ああお久しゅうございますご主人様。この卑しい乳便器のこと
を覚えていらすのですね」

勇者

「んあ、メリッサまで…そんな奴隷のような恰好で…」

メリッサ

「奴隷のようではございません。奴隷なのです。ずっとずっとバブ
バブリア家の性奴隷として全裸でご奉仕することを夢見ておりま
した。そして今この乳便器は魔王様の全裸奴隷に昇格させて頂い
たのです」

勇者

「う、嘘だ…」

メーテル

「嘘ではありませんよ。試しにほら…そのパイ肉ぶら下げチン媚び女よ。私の足を綺麗にしなさい」

←メリッサ【立ち位置・下方】

メリッサ

「ああ♡魔王様、ありがたき幸せ…！では失礼いたします。えろお、じゅうつつむう、ちゅうつつつつ、えろお、れろおじゅむうつつ、魔王様あ♡じゅうつつむうえろおれろおまおおさまあの指チンポお♡ちゅうつつつつむ」

勇者

「ああ、ああ、そんな…そんなメリッサ…」

メリッサ

「指チンポお指チンポおじゅうつつうんちゅう、バッキバッキのくさチンポおいしいですう、ちゅうつつつ、ぶるんぶるんつとドデカパイ肉揺らしながら爆乳フェラチオいたしますうっえろお、えろお、チンポっチンポっじゅう、じゅつぷぶつつつうつ」

メーテル

「うふふ。私の指をおったてチンポに見立てるとは、お下品なデカ乳便器なこと。でもこれで分かったでしょう。旧魔王の玉座を奪つて以来、ママは新たな魔王としてすべてを支配しようとしているのです。このデカパイ女をこうして支配したように…」

勇者

「魔王の…玉座を奪った…？いったいどういう…」

メーテル

「んふ。私たちは坊やより先に魔王を打ち破った。そしてその魔族からマザーサキュバスの力を得た後、私は新たな魔王となったのです…」

メーテル

「あなたの追いかけていた先代の魔王はもういないのですよ。だから旅もここで終わりです」

←メリッサ「立ち位置・立ち上がる」

メリッサ

「えろお、はあはあ。ご主人様、先代の魔王は思っていたより大したことありませんでしたよ。はあはあ、二人で乳揺れ色仕掛けで毟にはめた後はメーテル様の爆乳母性魔法でイチコロでした。もっとも、メーテル様の母性魔法は最強。男性であれば耐えられる者はいないはずですが」

メーテル

「うふふふ。あなたの倒したがっていた魔王は今頃、我眷属の赤ん坊として**ばぶうばぶう**と幸せに暮らしていることでしょうね」

勇者

「まさか…そんな…ありえない…どうして母上がボクより先に…だいたいなんでそんなことを」

メリッサ

「ご主人様がぐずぐずしているからですよ。全く、ご主人様はどこまで行ってもバブちゃんですね」

メーテル

「ふふふ、全てはあなたの為なのですよ。坊やを先代の魔王から守る為、そして坊やを呪いから解き放ち、私の…いいえ私たちの永遠の赤ん坊にする為です」

勇者

「あか…、な、今なんて？」

メーテル

「私たちの**赤ちゃん**…にするといったのです。んふう、坊やは敗北赤ちゃんになるのちゆきでちゆよね？今だってデカパイオッパイママのパイパイをむにゅむにゅおしちゅけられて頭の中では**おぎやつおぎやつ**って大人バブバブちてまちゆよね？チンポだってほら、オギャリアクメきめながらマジヤコンおむちゅで**どっぴゅん**する準備を整えていまちゆよ」

勇者

「母上っ、何を馬鹿な事を、んあ」

メーテル

「ああん、それに坊やみてくだちゃい？ママのデカチチパイパイから**Pカップおっぱいミルク**が一杯出てきまちたよお。ちゅごいねえ。坊やはママの爆乳おっぱいミルク大ちゅきだよねえ。いいでちゆよお。もっとちゅよくおちちゅけてパイパイまみれになりまちようねえ」

勇者

「ああつ 母上！こんな下品なことはおやめください！お願いですから離してください！くっ なんだこの凄い力は…動きようにも動け…ない…」

メーテル

「あらあら、うふふ。何を言うのです。下品なことこそ母性なのですよ。下品なオチンポを受け入れてこそ初めて人は母になり、それ故に子を産み、そして母性が花開くのです。チンカスマミれのオチンポもお、くっちゃいバブバブおちっちも母は何もかも受け止めるのです。下品さも、あらゆる穢れも、無力な赤ん坊も、闇の力さえも。だから私は魔王となったのです。全てを受け入れ包み込む為に」

勇者

「…そんな…」

メリッサ

「はあ、これは全てご主人様のせいでもあるのですよ。魔王様は本当は旅などさせたくなかったのです。でも勇者の呪いがそうはさせなかった」

勇者

「はあはあ、勇者の…呪いだって？」

メーテル

「ええ。あなたの**オンギヤア**チンポさんにある勇者の印です。これがある限り坊やは苦しむ。これでは爆乳授乳チンコキで白いおちっこのお世話もできません。しかも坊やには魔王など到底勝てる相手ではないでしょう。例え勝てたとしてもまた新たな魔王が生まれれば坊やは勇者という名の奴隷になってしまう。んっ」

メリッサ

「それが勇者の呪いですわ。使命なんかじゃありません。バブバブリアの血統にかけられた強力な呪いです」

勇者

「はあああ…でもそれじゃあ…この呪いは解けない…ボクが魔王を倒さないとこの印は消えることはないじゃないか！」

メリッサ

「ですから、見つけたのですよ。呪い自体を消してしまう方法を」

メーテル

「この呪いは、赤ん坊の時点では発現しません。それはこの呪いは勇者の自覚と誇りから発現するものだからです。つまりその元を断てば呪いは消え去るのです」

勇者

「元を断つ…？」

メーテル

「それが坊やにあえて旅をさせた理由でもあるのですよ…。全ては勇者としての誇りを完膚なきまでに溶かし尽くし、敗北という甘い蜜を送る為。勇者から最も遠い存在、あらゆるクラスの中でも最も弱い、おっぱい赤ちゃんへとクラスチェンジさせる為に」

メーテル

「そして同時に私はこの世界の頂点に君臨するのです。坊やがこの旅の中で溜めたレベルをおキンタマから全て吸い取り、私は最強の母親、最強の魔王になる…」

勇者

「や、やめてください母上！そんな間違っています！」

メーテル

「はあはあ。例えそれが過ちだとしても、全てあなたの為なのです。いいですか坊や？私は全ての魔族の母となるのです。そしてゆくゆくは私の母性、そしてこの**たっばんたっばん**と震えるパイパイで、世界を支配し包み込むのです。全ては坊やの安心の為、この冷たい世界を変えるのです。あなたのようなチンポ弱き赤ん坊の為の世界…母性溢れる桃源郷『バプトピア』に変えるのです」

メリッサ

「お喜びになってください。おんぎゃあおんぎゃあ止まらないクソザコよわよわご主人様でも安心して暮らせる世界を魔王様は作ろうというのですよ」

勇者

「んはあ、ボクは弱くなんかないんです母上！ボクはレベル100になったんだ！ボクは勇者なんだ！ドラゴンだって一人で倒せる！だからそんな世界は望んでいません！」

メリッサ

「うふふ、くすくす、あードラゴンたおちえたのお？しゅーいでしゅよお。ご主人ちゃまは偉い偉いでちゅねえ♡いい子いい子お」

勇者

「な、なんだ…」

メーテル

「坊や…あなたが今まで倒してきたのは…私たちが放ったレベル上げ用のエサに過ぎません。あれは全てあなたでも十分倒せるレベルの命なき人形たち。じゅっと勘違いしてたんでちゅね。でも大丈夫。坊やはよく頑張りまちたあ♡とーっても偉い子さんでちゅよお。おおよおちよおち」

メリッサ

「まるで赤ん坊のお人形あちよびですね。どうでちたかあ？勇者ごっこは楽しかったでちゅか？」

勇者

「そんな…嘘だ…嘘だ嘘あ」

メーテル

「先ほどの下級サキュバスとの戦いで分かったでしょう？私も遠くで見えていましたが、まるで赤子の手を捻るようでした。レベル100と言っても、母性属性に耐性のない坊やにはそれが限界。坊やは文字通り、よわあいよわあいデカチン赤ちゃんなんでちゅよ？」

勇者

「そんな…嘘だ…」

メーテル

「坊や…とっても弱い子でちたね…。でもいいんでちゅよ。はじめかちくないでちゅよ？だってあなたは**クソザ**「赤ちゃん」…ですもの。ね？むぎゅっっっっっっっっっっっっっっっ」

勇者

「ああん、母上っ…！だめえ」

メリッサ

「さあご主人ちゃま…？敗北を認めるのはまだ早いでちゅよ？これから始まるのが最後の大ボス戦、勇者対デカパイ魔王メーテル様なんでちゅからねえ。ああ心配しないでくだちゃい。武器ならちゅんとありまちゅよお。その皮被りなおんぎゃあオチンポソードを使ってパイパイ魔王を倒すんでちゅよお」

勇者

「やめて、ボクは戦いたくなんて… ああん、さわらないでえ！」

メーテル

「うふふ、はあい勇者ちゃまあ、デカパイマンマのぼっきんチズリ攻撃でちゅよお。坊やの顔を爆乳ママパイサンドイッチでマジャコンチンポをおんぎゃああだあだあさせまちゅよお」

勇者

「ああ、だめえ」

メーテル

「ほおら、ミルクくつちゃい谷間を一杯ヨチヨチたぽたぽちてバブポイントアップでちゅよお。乳圧もちゅよめて、バルンバルンパイパイとお顔で**おんぎゃあ**親子交尾ちまちようねっ、えいっ

♡えいっ♡」

勇者

「んむう、おっぱいがっんむうっ」

メーテル

「うふふ、ちゅよおいちゅよおい勇者ちゃまあ？どうでちゅかあ？魔王はたおせちようでちゅかあ？ほおらほおらガンバレガンバレっ♡」

勇者

「ああ、母上、だめですっ」

メーテル

「あらあら、うふふ。なかなかてごわいでちゅねえ。ならそうでちゅねえ…ママたちがもつと甘えんぼ赤ちゃんの世界にちゅれていつてあげまちゅからねえ」

勇者

「な、なにを…ああ！なんだこれえ触手か？」

メーテル

「ほら、ドデカ赤ちゃんにはドデカベビーベッドがお似合いでちゅよ。さあ、アンヨを触手でちゅかんで、ベビーベッドでパイパイ大ちゅきチンポを大公開ちまちようねえ。大丈夫。おっぱいママが隣にいてあげまちゅからね、んしょっと」

勇者

「ああ、触手に足があ、開かれてえ、や、やめて…ああ、見ないでえ」

メーテル

「うふふ、かわいい。赤ちゃんちえんようベッドで大人おんぎやしゆる坊やとってもかわいいでちゅよお」

メーテル

「ほらその乳奴隷もあがりなさい。特別に母子赤ちゃんプレイに参加させてあげますわ」

メリッサ

「ああ、魔王様あ♡この卑しくはしたない乳肉めにそのようなことを。はあはあ♡ありがとうございます…！ありがとうございます！すう！」

メーテル

「まったく、さあ全裸土下座などいいから早くこちらに來なさい。あなたの土下座のあとはマン汁臭くて敵いませんわ」

メリッサ

「はい、ただちに♡」

メーテル

「ん、分かっているでしょうが、ここにあがってきた以上今日からあなたはこの子の専属おっぱいママ奴隷ですわ。性奴隷として、乳肉おまるとして、そして淫らな母親として、この子のチンポおんぎやあに尽くしなさい」

メーテル

「それとあなたは奴隷ではあるけれど、この子は赤ちゃん。奉仕はせど支配権はあなたにある」

メーテル

「この子がいかに下等で無力な存在か、しカップチン媚び奴隷であるあなたが分らせてやるのです」

メリッサ

「ああ♡ではこんな私でも**だっばんだっばん**とヤワチチ下品パイパイを揺らしながらご主人さまをマンズリチンヨチレイプをして
もよろしいのでしょうか？」

メーテル

「私が許可すればいいでしょう」

メリッサ

「ああ♡承知いたしました。ママ奴隷として、一所懸命奉仕させて
頂きます」

勇者

「何をバカなことを…はなせ、はなせっ」

メリッサ

「ああご主人様、此度はデカパイ性奴隷ママとしてお仕えさせて
頂きます。爆乳しカップパイパイの谷間やくっさいおまんこおま
るに好きなだけチン汁ぶっこんでバブバブ甘えてくだちやいまち
え」

メリッサ

「私のお母さん穴はいつでも乳揺れママプレイでおかえりなさい
チンポができるようになっておりまぢゅよ。ああ、当然のことなが
らご所望であればたぶたぶ震えるこのドデカ尻のくっさいケツ穴
でオギヤオギヤ胎内回帰も可能です」

勇者

「ああ、何を言つて…メリッサ、正氣に戻ってくれ…頼むう…お前
はもつと清楚で…そんな奴じゃなかったはずだ！」

メリッサ

「いいえ、私はもうメリッサではありませんよ。爆乳母性奉仕に飢えたチンシ〇性奴隷です。こうして熟れたお母さん穴をひくひく匂わせて、巨大赤ちゃんをバブバブさせることに悦びを得る私が本当の私なのです」

勇者

「うそだあ…、うそだっ！くそお、はなせ、はなせえ！」

メーテル

「あらあらそんなこと言ってオチンポソードちゃんがちゅっかりおつきおつきちてまちゅねえ。ちえん属ママ奴隷が気に入ったのかなあ？ちよれともおっぱいママたちに負けちゃうのが楽ちみでドキドキちてるのかなあ？」

メリッサ

「ん、やはりバブバブ赤ちゃんプレイがだいちゅきな特殊オチンチンなのでちゅね。それがご主人様だなんてとても誇らしいですわ」

勇者

「これはっ違うつ　み、見るなあ」

メリッサ

「くすくす、このおったちよう…もちや日常的に隠れて赤プレおんぎやあちてたのでちゅか？妄想で私や魔王様のデカチチをちゅるちゅるジュバジュバ吸い込みながら、**おんぎやつおんぎやつマンマっマンマっ**と自分でチンポを**いっ子っいっ子**おちていたのでちゅか？」

メリッサ

「我が主は勇者ちゃまでちゅのに、セルフ**おんぎゃあ**バブバブとはとんでもないお下劣チンポをお持ちのようでちゅね」

メリッサ

「皆々様にこのおっきん甘えんぼチンポがばれたら一発でアウトでしょう」

勇者

「やめろぉーボクは赤ちゃんプレイなんて好きじゃない！くそつ、どうして、う、うごけない…」

メーテル

「うふふ、じたばたすると本物の赤ちゃんみたいでとってもカワイイ。でもそれよりもみてくだчайい？坊やのおちんちんの下にある物を」

勇者

「は？下に…？」

勇者

「ああ、これってもしかして…」

メーテル

「うふふ。いちゅでも坊やがバブバブだっただけのようにママがおむちゅ敷いておきまちたあ♡これでいちゅでも赤ちゃんなれるねえ。よかつたねえ。でもまだ履くのはダメ。まじゅは坊やのお

んぎゃあオッパイ願望をチェックちてあげまちゅよお？」

勇者

「ふうーふうー、どのみちこんなのいらない…」

メリッサ

「ああ素敵ですご主人様。この状況で**おんぎ**や**あオッパイ**願望に抗おうと言うのですね。それでこそ誇り高きご主人様ですわ。我が主は立派な勇者様なのですからやはりおむちゅなんていらないのかもしれない」

勇者

「な、なんだと…」

メーテル

「うふふ。ですが男児はおんぎやあオッパイ願望に勝てはしません。男の子は強い者に憧れる。裏を返せばいかに自分が弱いかを知っているのです。その隠していた弱さを肯定してあげた時、**おんぎ**や**あ**赤ちゃん沼が始まるのです」

メーテル

「チンポは既にその弱さを認めていまちゅよ？勇者ともあろうお方が、ママたちのバブバブ赤ちゃん言葉で**チンポおんぎ**や**あ**させちゃっていいんでちゅかね？」

←メーテル【右耳元で囁き】 この台詞のみ

メーテル

「やっぱり勇者ちゃまは**おっぱい赤ちゃん**になりたいんでちゅかあ？おっぱいママにい**爆乳**育児プレイされたいのお？」

勇者

「こ、これは…違ってっそんなんじゃないってっ」

メーテル

「違う…？ふ、ならこれはどうでちゅかあ？」

メーテル

「ほら、例えばこんな風につ、アン㊦を掴んだ触手を動かしてえ強制バブバブだっでちゅよお？はあい**ばぶうううばぶううう**」

勇者

「ああ、やめてえ」

メーテル

「ガラガラも振ってえお手手もいっちょにうごかちて、パイパイおねだりちゆるように、**ばあぶ、ばあぶ、おんぎゃあおんぎゃあ**。

変態的な安らぎをチンポに直撃させまちようねえ」

勇者

「ああ、見ないでえ見ないでええええええ」

メリッサ

「ああ大きな大人が赤ちゃんのまねっこでオチンポビクビクさせていまちゅよお。不釣り合いなドデカボディでバブバブ**おっぱい**願望さらけ出ちてまちゅねえ。ママ変態すぎて卒倒しそうです」

勇者

「や、やめて、やめてくださいお母様あ！」

メーテル

「ほらいいのでしゅよ。もつとしゅなおになつて『**ママおっぱい、**

ママパイパイ』と変態大人バブバブちていいんでちゅよ？」

メーテル

「息を吸ってえ吐いてえ、リラックス変態バブバブ気持ちいいでちゅねえ。バブバブとってもチンポにくるねえ」

←メーテル【右耳元で囁き】 この台詞のみ

メーテル

「ほおら赤ちゃん、赤ちゃん、赤ちゃん。ばぶうばぶう
うとパイパイほちがる**おっぱい赤ちゃん**。赤ちゃんなりたいよお、
赤ちゃんっ赤ちゃんっ」

勇者

「んんん、やめてっもうやめてっ」

メーテル

「もう坊やったらそればかり。ちんちんしゃんだけね正直なのは。ああそうですわ。ならそんない子で恥知らずの赤プレマニア
オチンポにはママ、^ご褒美あげちゃいまちゅね。爆乳美母の高速手
コキピストンでチンヨチヌキヌキちてあげまちゅよお、よいちよ
っと」

勇者

「ひゃう、ああらめえ」

メーテル

「こうやって添い寝ちてえ、ママパイを押し付けながら、チュコチ
ユコチュコチュコチュコってムスコチンポをヨチヨチ手コキでち
ゅよお」

メーテル

「ああ手が馴染みますわあ。ママがちよだてたチンポがお手手で
あうあうだだあちてるねえ」

メーテル

「ぴゅっぴゅできない坊やが幾度となくマジヤコンチンズリこいたチンポ皮をお母さんママがにぎにぎちてまちゅよ。じゅっとじゅっとママの手でこうちてチンジュリされたかったんでちゅよね。ほんとはお母さんの前でぶっといチンポちぎいて、ドデカパイパイおねだりほちほちしながら、**おんぎゃあおんぎゅあ**クメキメたかったんだよねえ」

メーテル

「うふふ、でも実のデカチチお母さんにチンポのおちえわちて貰いたいなんて、甘えんぼドデカ赤ちゃんみたいではじゅかちいねえ？ほんとにオトナ勇者ちゃまなのかにゃあ？」

勇者

「はあはあおつ、おお♡や、やめてっ」

メリッサ

「ああ、私の知っているご主人様がそんなマジヤコンチンコキ男な訳ありませんわ」

メリッサ

「強くて逞しいご主人様は私のようなデカチチお母さん奴隷におキンタマちやまをタマヨチいい子いい子されても決して負けないはずです。それを今証明してみせますわ」

メリッサ

「赤ちゃんの頭をヨチヨチしゅるみたいにい、**くっちやい**おキンタマをドスケベお母さんお手手でちゅちゅみこんで**ヨチヨチいい子いい子お**」

勇者

「くはあ、め、めりっさまで…やめっ」

メーテル

「ああん。バブオギヤチンポとってもあちゅいねえ。でもおこのままじゃ勇者の呪いのせいで白いおちっこぴゅっぴゅできにゃいねえ？でももうくるちむひちゅようはないんでちゅよ？バブちゃんが勇者ナイナイちて『赤ちゃんなりまちゅうばぶううばぶうううマンマあマンマあ』と甘えれば、気持ちいい気持ちいいマジヤン」
おちっこ、ぴゅっぴゅち放題でちゅよあ」

勇者

「ふううう、ふううう…ボクはあ、赤ちゃんなんか絶対ならぬ…っ、ボクは負けない…みんなきつと何かに操られているんだ…だからボクがここで負けるわけには…ああん」

メリッサ

「ああん。ご主人ちゃまかつこいいでちゅねえ。男らしくて素敵でちゅよあ。負けないように頑張れ頑張れえ、キンタママッサージぎゅゅゅゅゅゅゅゅ」

勇者

「おおおお♡マケにゃい♡ぜったいまけないいいいいいい」

メーテル

「あらあらあ。坊やは敗北**おんぎゃあ**ちたぐにゃいのお？それは困ったさんでちゅねえ？」

メーテル

「でも坊やあ？もう冒険は終わったのでちゅよお？みんなおちごとちゅんだら、お家で癒しのおんぎゃあちゅるのよ。ママあボクが**んばったよお、褒めて褒めて**えって、よわよわチンポ振って赤ちゃんになるの。だからもう負けてちまってもいいの。お母さんのおっぱい赤ちゃんになれば、もう戦うひちゅようはないの。ちあわちえで**バブ・バブ**な日常にかえっていいのよお」

勇者

「まだ…終わってなんか…母上を…闇の力から…救わなきゃ…」

メーテル

「あら坊やったら…。よちよちよちよち。いい子ね。ママのことそんなに想ってくれているのね」

←メーテル【右耳元で囁き】 開始

メーテル

「でももうちゅよがなくていいの。今まで一人でよく頑張ったね…。いい子だね…。ちゅらかったね…。くるちかったね…。でももう大丈夫でちゅよお。これからはじゅつとじゅつと**ムツチムチPカップ**ママといっちょ。だからもう頑張らなくていいの」

勇者

「あん、母上…そんなこと言わないで…」

メーテル

「んはあ、いいんでちゅよいいいんでちゅよお。チュ〇チュ〇チュ〇チュ〇チュ〇チュ〇♡」

メーテル

「ほおら、おつきな赤ちゃんに特化した爆乳オッパイもむっちゅんっむっちゅんっておちちゆけてあげまちゅからねえ。たぶたぶ波打って汗ばんだ谷間の母乳くっちやいパイパイ臭をこびりつけるように、ドデカパイパイ、むにゅん、どたぶん♡ああん、じゅっと母乳風呂ちか浴びてないからあくっちやいパイカスチーズ臭がしゅごいねえ。坊やの大ちゅきなお母さんの臭いでマジヤコンチンポおったってだあだあしゆるねえ」

←メリッサ【左耳元で囁き】 開始

メリッサ

「ああん。ご主人ちゃま顔がふやけてまちゅよー？ほおらがんばれがんばれえ！勇者なんだから魔王にバブバブ手コキされてヌキヌキ赤ちゃん言葉かけられたぐらいで負けちゃダメでちゅよお！」

勇者

メーテル

「くっ はあはあー、僕はこんなのじゃ負けません…はあはあ」
「大丈夫。怖くない怖くない」

メーテル

「チンザコよわわ勇者でいいんでちゅよ。真人間を卒業ちてマ
ゾチンポバキバキにさせながら**おっぱいっおっぱいぱい!**って人
生敗北おんぎやあしゅるの。『勇者できにゃい、大人できにゃい、
パイパイくれるママがいないと生きていけにゃいよお、**まんまあ**
まんまあ』って大人ちあわちえドロップアウトでちゅよ」

→メーテル【右耳元で囁き】 終了

勇者

「はあはあはあはあ…ボクはそんなに弱くありませんっああ母上
っいけません…裏筋は…ああん」

メリッサ

「ああん。ご主人ちゃまがなばれえ！男の子でちよう？ちゅよい
ところみせちゅけてくだちゃい。**おんぎやおんぎ**やってオチン
ポソードをふるってわるういママをやっちゅてくだちゃい！」

→メリッサ【左耳元で囁き】 終了

勇者

「メリッサも、やめてっ、たのむっ」

メリッサ

「あらあら赤ちゃんご主人ちゃま？自分の立場わかってまちゅ
か？メリッサではなくて**マ・マ**でちゅよ？」

勇者

「バカなことをいうなっ、お前はボクのメイドだっ」

メリッサ

「はあ、これはご主人ちゃまに分らせてあげるひちゅようがおりまちゅねえ。ほおらママの**ドデカすけ**おっぱいも添い寝でoshiちゅけてあげまちゅよお！**たぶん、たつぷん**とダブルママパイサンドイッチでじえんしんヨチヨチいい子いい子ちてあげまちゅからねえ」

メリッサ

「お手手も使ってスケベなオギャパイ揉み揉みちてくだちあい。
ムチムチチュベチュベの乳肉にお指喰いこませてえ、**むにゅむにゅぷるぷる**うってたくさん形かえて揉みこねて…、はあんいい子でちゅねえ」

勇者

「はあはあ、おっぱいがっ」

メリッサ

「くすくす、**母性たつぷりのやわやわママおっぱい**気持ちいいでちゅね。でもママはご主人ちゃまのこと信じていまちゅからね。誇り高き私の主ちゃまはこんなことされたぐらいでマゾチンバブバブちないでちゅよね？**ママのおっぱい**は赤ちゃんの大好物。
まさか勇者ちゃまがちつつ振りまき赤ちゃんと同レベルなんてありえせんわ」

勇者

「ん…はあ…ならその手はなんで…」

メリッサ

「私はご主人ちゃまを信じておりますので。ご主人ちゃまならきつと赤ブレパイチバブバブになんか負けまちなよ。だから頑張れ頑張れえ。悪いお母さんに負けるなあ、奴隷如きに負けるなあ」

メーテル

「くすくす。ここまで**おっぱい♡パイパイ♡**ちゃれて**もんぎゃあおんぎゃあ**とおぎゃりおちっこぴゅっぴゅちたかないのかにゃあ？バブちゃんは白いおちっこぴゅっぴゅちたことにゃい大人赤ちゃんだからおちっこちっちの気持ち良さがわからにゃいのかなあ？」

メーテル

「あー大丈夫、大丈夫う。ちんばいちないいいからねえ。今日は坊やの大先輩が敗北おんぎゃあの気持ち良さをとくべちゅにおちえてくれるみたいでちゅよお」

勇者

「先…輩…っ？」

メーテル

「じゃあとくべちゅゲストの方にご入場願いまちようねえ。はあいティアちゃんにエリオちゃんゝ入ってきていいですよお」

【扉のがらがら音】

エリオ

「あうう、あぶう、ああ、ああ、ふぎゅっつ、っつっつ」

勇者

「え、エリオっ！ティアお姉様！」

ティア

「ほおらエリオお。久しぶりのお兄ちゃんでしゅよお。おむちゅバブバブじょうじゅになったエリオのかっこいいところ、お兄ちゃんに一杯みせてあげまちょうねえ」

エリオ

「あぶう、きゃきゃ」

ティア

「ああいいこでしゅねえ。ちゃちゅがお姉ちゃんママの赤ちゃんだあ」

勇者

「嘘だ…うしよだあ…」

メリッサ

「まあエリオ様ったら少し見ない内にまた一段とベビーカーが似あうようになりましたね。一体どんなバブバブ調教を施しているのでしょうか」

勇者

「あねうええ…！どうして…どうしてそんなことを…」

ティア

「ふふ、久しぶりだな…我弟よ。どうだ？このエリオの幸せそうな顔…。私はエリオのデカパイ子育てで手が空かんが、母上とメリッサがお前をバブバブさせてくれるらしいじゃないか。ちょうどエリオもバブ友を欲しがっていたところだ。お前もエリオのようになってみたらどうだ？」

エリオ

「あぶう だっだあ」

ティア

「あくいい子でしゅねえ。もちかちてうれちいのかなあ。お兄ちゃんといっちょにバブバブ甘えんぼできるのがうれちいのお？あく良かったね」

勇者

「こんなの、こんなのおかひい…！」

メーテル

「あらあら、そんなこと言ってるくちえに弟のバブバブっぷりを見ただけでこのマゾおちんポがどっぴゅん準備を始めていまちゅよ。バブバブエリオがちゃんなにうらやまちいでちゅかあ？お兄ちゃんも敗北赤ちゃんなりたいのお？」

勇者

「しよ、しよんなわけ、あん、や、やめてっくだ…ああ」

メーテル

「うふふ、でもちようがないでちゅねえ。エリオは坊やの分身のよななもの」

メーテル

「未来の自分の姿にパイパイ大ちゅきチンポがあうあうだっあうだっあ、ほんぎやああああほんぎやあああなんでちゅよねえ」

メリッサ

「あーんだメでちゅよお！チンピクさせたらマジヤ」ン赤ちゃんチンポ確定しちゃいまちゅよお。もっと頑張って耐えてくだちゅあう」

勇者

「くう、だ、だめっ」

メーテル

「くすくす、大人チンポヨチヨチと全身パイヨチをスピードアップちてあげまちゅからねえ」

勇者

「ああ、だめつやめ…てえ、んぐうう、ばくおかしくなっちゃうううううううう」

エリオ

「ぶう、あぶう」

メーテル

「ふふふふ。自分と同じ顔をしたおっぱい赤ちゃんがちあわちえそうに敗北バブバブちてるんだもの、羨ましくなって、あったかチンポおんぎゃーちてちまうのはちようがないでちゅねえ。バツキンバッキンに肉チンポ固めて、ママのお手手にバブバブおっぱい性癖カミングアウトしゆるの気持ちいいでちゅねえ。でも本番はこれからでちゅよお」

メーテル

「ティア？例のあれ、頼みましたわよ」

ティア

「ん、母上の頼みならば仕方がないな。あまり人に見せるものでもないのだが」

ティア

「こほん。ほおらエリオお。それじゃあパイパイちゅっちゅの時間にちまちようかあ」

エリオ

「あぶう！きゃきゃ、まんま！まんま！」

メリッサ

「ああん。エリオちゃまのだいちゅきな爆乳ちゅうちゅつタイムの時間みたいでちゅねえ。今からエリオ様がぁ、**ばぶうばぶう**とティア様の**たゅんたゅん**なパイパイにちゅぱちゅぱ吸いちゅきまちゅよぉ」

ティア

「はあい。エリオお、ママのドデカパイパイでしゅよぉ。一杯飲んで、ちあわちえバブバブしゅるところをお兄ちゃんにみせちゅけようねえ」

←エリオ「おっぱいを吸いながら」

開始

エリオ

「まんまああああ、ちゅつちゅつちゅぱちゅぱ」

ティア

「あくん。かわいいい、エリオはおっぱいちゅつちゅじょうじゅでちゅねえ。よぉちよぉち」

勇者

「はああ、エリオおが姉上のおっぱいをお…しよんな…はあはあ」

メリッサ

「くすくす、あんなにちゅうちゅうむちゃぶりちゅいて…ティア様のパイパイが**むにゅんむにゅん**ともみくちやに…。ああ、乳首をあんなに吸い伸ばして…バキューム授乳ちてまちゅねえ。エリオ様ったらとんだ甘えんぼ赤ちゃんでちゅね」

エリオ

「ちゅうちゅう　パイパイ　パイパイ　ちゅきい！ちゅう
うううう」

→エリオ「おっぱいを吸いながら」

終了

メーテル

「あくポインポインパイパイおいちようだねえ。坊やもじよう
じゅに勇者ナイナイちて、赤ちゃんバブバブできれば、ママたちの
このバストはゆうに超えた、むにゅむにゅでたつぶたぶなパ
イパイをお、ちゅうちゅうむじゅうううううううううてできるんだ
よお。ちかも坊やはママが二人だからお母さんパイパイよちゅ
も一人占めできちゃうんでちゅよお。ちゅごいねえ。おっぱいが一
杯だあ」

メーテル

「坊やの頭の上によちゅのデカパイ哺乳瓶がたぶたぶ垂れ下が
ってえ手でぐにゅってすると爆乳ミルクがぶうしゃああああつ
てお顔にかかるのよお。坊やがあうあうとパイパイっ！おっぱ
い！しゅる度にデカ乳輪と「リ」リ乳首さんからくつちやい変態
甘えミルクだちてあげまちゅからねえ」

勇者

「はあはあおっぱいにやんかに、ボクはまけない…。ボクは赤ちゃ
んひゃない」

メリッサ

「くすくす。その意気でちゅよお。ご主人ちゃまはママのパイパイなんてほしくないはずでちゅよね？こんな年になってもお下劣赤ちゃんプレイヤーのようにみつともなくパイパイバブバブなんておぞましいでちゅよね？」

メーテル

「いいえ、年齢なんて気にしないでいいんでちゅよお。エリオもあんやに大きな体でバブバブ甘えてるでちょう？おじさまも子供もみんな本当はおんぎゃあパイパイが大ちゅきなんでちゅよお」

メーテル

「だからほら、坊やも見てえ。ママたちのたばんたばんパイパイとつてもおいちいでちゅよお？」

メーテル

「お鼻くんくんちてごらあん？ママたちのたぶたぶ爆乳ミルクのあまあい香りがちまちゅよねえ。匂いだけでもバブバブだあたあちたくなるくらい甘々でちゅからねえ。この濃厚パイパイミルクはじえんぶ坊やのもの。マンマアマンマあデカパイチュパチュパミルクほちいいいい、ちゅうちゅうちてじゅばじゅばじゅるのおって甘えてぽんぽん一杯にちてもいいの。もちろん体やチンポにめがけて**おんぎゃあ**確定母乳噴射ちたっていいんでちゅよお」

メーテル

「ほおらママたちのビンビンおったて乳首さんも変態赤ちゃんにちゅってほちがってるのわかりゅねえ。今ならとっても「リ」リで大人用おちゃぶりみたいに**ちゅうちゅ**うできまちゅよお」

勇者

「いらにゃい…おっぱいなんか…おっぱいにゃんか…」

メーテル

「あらあ。ママのぼにゅぼにゅパイパイいらにゃいのお？赤ちゃんになればエリオちゃんのようにちゅっちゅち放題なんでちゅけどねえ」

メリッサ

「いえいえ魔王様？ご主人様は立派な大人ということですね。でも変ですね…、なぜこのオチンポ様はこんなにバキバキビキキにおつきおつきしてるのでしょうか？」

メリッサ

「でもしない種付けの準備を整えて、実の母親たちの淫臭まんにぶっこみピストンのおつもりでちゅか？うふふ、ですがそれは種付けレース敗北者たるご主人ちゃまには到底不可能。そこでパイパイおねだりしながらの**敗北おんぎゃあドッピュン**で手を打とうという所でしょうか」

メリッサ

「ママそれならっかりでちゅよ。勇者ちゃまの癖にそんなお下劣バブバブプレイ愛好家だなんて」

←メリッサ【左耳元で囁き】 この台詞のみ

メリッサ

「赤ちゃんプレイなどこの世でもっともはじゆかちいはじゆかち
イド変態行為なのをわかっていまちゆか？こんなに大きな体で赤
ちゃんの真似などはじゆかちくないんでちゆかあ？」

メリッサ

「その上バブオギャチンコキマニアの癖に、エリオ様のほうがよ
っぽどバブバブもおじょうじゆだなんて…それはそれで兄として
少し恥ずかしい気がします」

メーテル

「うふふ？ですって坊や？お兄ちゃんとちて赤ちゃんおんぎゃあ
もできにゃいなんて、坊やはママの子宮の中がお似合いでちゆ
え」

勇者

「ああ…やめて…それ以上は…言わないで…」

←メーテル【最後におっぱいを吸う演技】 この台詞のみ

メーテル

「でも大丈夫でちゆよお、ママが今ちよんな困った胎児赤ちゃん
でも甘えんぼ**おんぎゃあ**できるようにパイパイあげまちゆよお。
生パイ直飲み**おんぎゃあ**は、乳ねだり赤ちゃんになれた時のご褒
美でちゆから、お試しひよこさんコースとちて口うちゆしちてあ
げまちゆよお？じゅうううううううう」

勇者

「な…なにをお」

メリッサ

「ああん。魔王様ったら自分でおっぱいを持ち上げて…爆乳にのみ許された口移し授乳をするんですね。ほおらご主人ちゃま？お口あけなちゃあい？**実のお母さんのお口とパイパイミルクが待つてまちゅよお**、はあいあーん」

←勇者「ディープキス10秒」

勇者

「は、ははうえ…んちゅ はむ」

←メーテル「ディープキス」

メーテル

「んちゅ はむ、んじゅつつつつ、じゅぷう、じゅううう、えろおえろお、むじゅつつつつ、えろえろおえろえろお、じゅぷううつつつつじゅつつつつ、ちゅぷうじゅちゅううううう」

←メリッサ【左耳元で囁き】 この台詞のみ

メリッサ

「はあいパイパイごくごくんちゅ、んちゅ、おっぱい、ぼにゅぼにゅパイパイ、お母さんのおつきいパイパイミルク、んちゅんちゅうつつつつ、むじゅつつつつううう」

メーテル

「れろお。はあ はあ パイパイ飲めたねーいい子いい子」

←メーテル【右耳元で囁き】 この台詞のみ

メーテル

「どうでちたかあ？ひちゃちぶりのママのパイパイのお味は？おいちかったでちゆかあ？」

勇者

「はあはあ ははうええの…おっばい…」

メーテル

「うふふ、ママの味、思い出すよねえ？またあのちあわちえな時間に戻りたいよねえ？ちゅらい勇者なんてやめて、赤ちゃん**あうあう**だ**あだ**あちながらもっとも**とおっばい**飲みたいでちゆよねえ。ほんとはドデカおむちゅ履いて、よだれかけちゅけて直接ママのデカ乳首からはむはむちゅっちゅちたいよねえ」

勇者

「んああ、ちたくない… ボクはおっばい…おっばいにやかに…」

メリッサ

「あら、ご主人ちゃまはもうとくに限界超えているようです。このまま意識を失ってしまうのも何ですから、ご主人様にあれを見せてあげたらいかがでしょうか？」

メーテル

「うふふ。そうですね。坊やにはもっと赤ちゃんの喜びを教えてあげなくてはけません。そうですね。ティアちゃん」

勇者

「今度は、な、なにを…しゅるきでしゅかあ…」

ティア

「ふふふ。赤ちゃんの喜び。それはお漏らし以外あるわけがないだろう」

ティア

「エリオはとってもいい子でな。パイパイを十分あげた後にエリオの大好きなガラガラであやしてやると嬉しくなって黄色いおちっこをおむちゅにぶっしやあしてしまうんだ…。嬉シヨン…というやつだな」

メーテル

「敗北バブバブだあいちゅき坊やは黄色いおちっこお漏らしだいいちゅきだよねえ？」

勇者

「はあ、まさかエリオ、だめだあ…だめだエリオお！」

メーテル

「ほおら、あなたと同じの顔の弟の、おむちゅお漏らし見ながら、

オチンポボッキンヌキヌキちまちゅよお、チンポボッキンヌキヌキ」♥

勇者

「ああ、やめてえ」

【ガラガラの音】

ティア

「ほおらエリオお。ガラガラでちゅよお。お兄ちゃまにおむちゅをまっきつきに汚しちゃうところ見て貰おうねえ」

エリオ

「ああうっ♡」

ティア

「ガラガラさんかららんからーん。おっぱい赤ちゃんおちっこしー

しー」

「ああ坊やお子んポ更におったててまちゅねえ。うらやまち

[illegible]

「んあ、ん、んあ、エリオお…だめだ…お漏らしにやんかあ…しち

「んあ、ん、んあ、エリオお…だめだ…お漏らしにやんかあ…しちや…、んんんあ♡」

「ああぶう、ママあ……おっぱいマンママあ……んんんんん」

「ガラガラさんからーん」

「んんん、あぶう、ばうう」

「あああああ——、あぶっっっっっっっっっっ」

【おしっこの音】

「んぎゅ
うううう
うううう
うううう
ちっちい
ちっちい
ちっちい
ちゅき
ちゅき
ちゅき
！」

「んぎゃつ、おんぎゃつんぎゃああああああ、んぎゃああああ

あああああ、あんぎゃあああああああああ」

「え、エリオお……おおお♡おおお♡」

「ああん、おむちゅが黄色くしめっていきまっちゃうねえ。ほんとに即

「バブ堕ちちてしまいまちたあ」

メーテル

「あーなちゃけないねえ。あれが**敗北バブバブ**のちあわちえでちゅよお？しっかりと目にやきちゅけておきまちようねえ」

エリオ

「あぶう…だっただあ…」

ティア

「じえんぶ出たあ？じえんぶ出たのお？ああよくちつちできまちたねえ。いい子でちゅねえ。よちよちよちよち。エリオはおちっこお漏らちじようじゅだねえ」

エリオ

「まんまあ…」

勇者

「ああああ…しよんな…エリオが…あのエリオが…」

ティア

「ふふふ。いい子いい子お。じゃあじようじゅにしーしーできたご褒美にお兄ちゃんにおむちゅの中身を見て貰いまちようねえ。お兄ちゃんに、おちっこはこうやってするんだぞおってことをおちえてあげるんだぞお」

エリオ

「あぶう…ぶう、きゃきゃ」

ティア

「はい今おむちゅとりまちゅからねえ…よいちよつと」

エリオ

「ああぶううう…」

勇者

「んあ、エリオっ…」

メリッサ

「ああん。おむちゅに黄色いシミちゅくってまちゅねえ。ちかも巨大赤ちゃんのゲキクサチンポ臭がこちらにまで…。おちっことてもくちやいくちやいでちゅねえ」

ティア

「ふふふ、あー一杯しーしーしちゃってるねえ。エリオはいい子でちゅねえ。エリオは偉い子だあ。よちよちよちよち」

メーテル

「ああ、坊やもエリオみたいに赤ちゃんになってバブバブちゅればあんな風に褒めて貰えるんでちゅよお？くちやいくちやいできちやないきちやないスケベおむちゅをママに見せるだけでヨチヨチいい子いい子お。勿論ちよのあととはご褒美の爆乳バブバブディープキスしながら、ぶるんぶるんのやわパイ肉布団でじえんしん！
圧迫チンヌキタイムでちゅよお。あードデカ赤ちゃんはおんぎやあしちやいまちゅねえ」

←メーテル【右耳元で囁き】 この台詞のみ

メーテル

「赤ちゃん になりたいねえ？赤ちゃんうらやまちいねえ？」

勇者

「んああ、うらやまちくにゃんかない…ん」

メリッサ

「あん、だめでちゅよご主人ちゃまあ、負けちゃめつめっ！勇者ちゃまがバブバブおもらちなんてはじゅかちいはじゅかちいでちゅよお」

メーテル

「いいえ、いいのでちゅよ？ママね、坊やにはまず黄色いおちっこからだちてほちいの。おんぎゃあ生精子は溜めれば溜めるほど甘えチンポにきくだろうし、それに呪われたあなたにも黄色い方はできるでちゅ？」

メーテル

「白いおちっこドッピュンはほんと誰でもできるもの。でも黄色いのはべちゅ。黄色いおちっこじよぼじよぼは尊厳バイバイな
ド変態大人赤プレマニアにちかできないの」

メーテル

「でもね、それでいいの。ママはそれがいいの。普通ならそんなバキバキおむちゅチンポのキモキモデカ赤ちゃんなんて、世のメスマンコたちは種付け拒否して逃げ出すわ。でもママは…お母さんは違うんでちゅよ。ママだけは愛ちてあげられる」

←メーテル【右耳元で囁き】 この台詞のみ

メーテル

「だって子宮が坊やの**チン汁おむちゅ**をかえたがってるもの」

勇者

「ああ、あああ… はは…うえ…それ以上…やめて…、ぼくうぼくっ…もう…んんん」

メリッサ

「くすくす、エリオ様、ご覧になってください？あなたのお兄様の勇姿を…。なんならエリオ様はお兄様のバブバブを鑑賞しながらおむちゅオチンポしごいて頂いたらどうでちゅか？」

エリオ

「あぶうだあっだっ♡マンママンマ」

ティア

「ふ、しょうがないな…また両手をくっちゃいむれむれおむちゅに突っ込んでドッピュンおんぎゃあさせてやるか」

エリオ

「ああぶううううう、おおおおおおおほお、おおっおおっ」

勇者

「お願い…もうやめて…」

←メーテル【右耳元で囁き】 開始

メーテル

「ああ大丈夫。今はただ母性に身を委ねて。より大きな者に、より強き者に、それが**おんぎゃあ赤ちゃん**なのだから」

勇者

「はは、う…え…」

←メリッサ【左耳元で囁き】 開始

メリッサ

「ああ、だめでちゅよお。勇者ちやまが爆乳最低赤ちゃんプレイだなんて変態すぎですわ」

メーテル

「さああ、みなちあい？坊やのおちりにはもう赤ちゃんおむちゅがあるのが分かるよね…。これを大人サイズのデカチンポに被せるんでちゅよ。こうちて、無理やり、大人チンポを0ちあい赤ちゃん御用達のおむちゅに…ちゅちゅみこんでえ」

勇者

「おおおお♡ああ♡ああ♡お、おむちゅっ」

メーテル

「ああ赤ちゃんなれたねえ。いい子でちゅねえ。バブバブ大人チンポでパツパツおむちゅはりさけそうでちゅねえ。大人ドデカチンポで赤ちゃんおむちゅ**おんぎゃあおんぎゃあ**あってチンズリレイプちてるみたいだよ。おっぱい赤ちゃんは**変態**でちゅねえ」

メリッサ

「さあ、更にトドメのベビー帽とよだれかけでちゅよ。オルゴールメリーもかけて、癒しのお**んぎゃあ**甘え空間をママたちがちゅくってあげまちゅからねえ」

メーテル

「触手でアンヨ無理やりバタバタさせてえっと、あらあらあ、巨大ベビーベッドで**パイ媚びおぎゃおぎゃ**しゆる**ドデカ赤ちゃん**の完成でちゅねえ」

勇者

「ああ、やめえ、やめへえてえ、これおかしきゅなるうううう」

メリッサ

「ああ、なんて醜くひどい格好です。民にそんな**変態**赤ちゃんの恰好した勇者ちゃまを見せるちゅもりでちゅかあ？チンピクエロマゾチンポをおむちゅに包んではじゅかちいでちゅねえ。いったいなんちゃいなんでちゅかあ？」

→メリッサ【左耳元で囁き】 終了

メーテル

「いいえ、ママ、大人になってもママにおむちゅ替えて貰って大人バブバブしゆる最低で無能の変態オツパイ坊やが愛しいの。母親にちか到底愛せないお下劣なよわバブちゃん、ママ大ちゅきよ」

勇者

「んふうー、んふうー」

メーテル

「うふふ、坊やったら更にチンポを大人デカマラにさせて大人バブバブ大ちゅき大ちゅきちてまちゅね？本当は心の中ではもうおぎやつてるんでちゅねえ」

メーテル

「『あああ♡赤ちゃんなれた、赤ちゃんになっちゃったあ。おお♡これきくう♡おむちゅチンポきくう♡変態しゅぎいあ♡変態赤ちゃんの一線こえちゃったあ。おお♡あぶう、赤ちゃんっボクおむちゅ赤ちゃんっ♡ばぶうううばぶううう、おぎやつおぎやつおぎやつおぎやつおんぎやああああおんぎやああああ♡おおおおおおおんぎやああああチンポきくうううううう♡まんまあああああああ、おっぱいいいいい、パイパイいいい』
って感じかなあ？」

勇者

「ああ、違ううううう違うのぉ」

メーテル

「ああ、キンタマあがつてきまちたあ。ほんとの気持ちがばれてマ
マチュキチンピク止まらないねえ。じゃあほら、赤ちゃんおむちゅ
できたから、もう黄色いおちっこだちていいいでちゅよ?」

メーテル

「無能あうあうチンポでもお漏らちだっただなら気持ちいい気持ち
いいになれまちゅよ?」

→メーテル「右耳元で囁き」

終了

勇者

「やだあ、そんなのやだあ…」

メーテル

「うふふ、だだこねてもダメでちゅよお。そんな子はママ、トドメ
の抱っこちてあげる…」

メーテル

「ママ仰向けになりまちゅからね。坊やは赤ちゃんみたいに覆い
かぶさって**ばぶうばぶう**つと甘えて激くさだあだあおちっこお漏
らちちまちゅねえ」

勇者

「やめ…て…ああ」

メーテル

「ほおら触手で赤ちゃん軽々持ち上げてえ…」

←メーテル「立ち位置・前方至近距離」

メーテル

「はあいぎゅうううううううう、おっきなおむちゅ赤ちゃん
おかえりなちゃあい。マジャ「コンドデカ赤ちゃんちえん」の爆
乳ママ肉ホルドでちゅよお。大ちゅきムチムチママに寄生ちゅ
るようにお母さんのふかふかパイ肉に埋もれようねえ」

勇者

「あああ♡おっぱいにつパイパイに埋もれるう♡」

メーテル

「いい子おっん、いい子お。ママに乳抱っこされながら黄色いおむ
ちゅ汁お漏らちしていいんでちゅよ？肉布団の中でおぎやおぎや
甘えながらおむちゅの柔らかあい布に黄色いオギヤ汁が広がると
ころ想像なちあい」

勇者

「んはあ、やめてえ、離してお母様あ！」

メーテル

「いいえもう離さないでちゅよお。私のかわいいパイパイ赤ちゃ
んがよつやく**おんぎゃあ**用デカキンタマをおむちゅにぶら下げて
帰ってきてくれたんだもの」

メーテル

「んはあ、離すもんですか、ガッチリ固定ちてバブバブパイパイル
ープさせてあげまちゅよ」

メーテル

「ほら乳まんこ奴隷！あなたは坊やの上に被さりなさい。爆乳肉
布団サンドイッチのお時間です。オムチュチンポを肉汁たっぷり
のたぶたぶママ肉でズリズリチンコキさせるのですよ」

←メリッサ【立ち位置・後方至近距離】

メリッサ

「仰せのままに魔王様。ではドデカ奴隷ママ肉をおんぎゃあブレ
スさせて頂きます。んっしょと。ぎゅうううううううううう」

メリッサ

「背中からおんぎゃあデカパイプレスでちゅよお、母乳汁と汗ま
みれでくっちやいママ肉布団でむれむれぎゅうぎゅうチンポプレ
ス気持ちいいでちゅかあ？もわっと湯気が出るほどデカパイ乳肉
プレスでおんぎゃあ圧迫ちてさちあげまちゅね」

勇者

「はああああ、あひい、やめて」

メーテル

「おおおお♡素晴らしい密着感ですわ。パイ汁母乳がぶしゅぶし
ゅどぐどぐ溢れてしまいます」

メーテル

←メーテル【右耳元で囁き・吐息更に多め】

開始

「ほらたぶたぶるんぶるんとおっぱい揺りかごみたいに坊やを揺さぶってぎゅうちてあげるから、ママ肉の中で限界敗北おもらちしちやいなちやい。おむちゅにドデカ赤ちゃんマーキングしちやいなちやい」

メーテル

「はあい赤ちゃんなるよお、赤ちゃんになれまちゅよお、揺りかごたぶうんたぶん、たつぶんたつぶん。おんぎやつおんぎやつ」

←メリッサ【左耳元で囁き・吐息更に多め】

開始

メリッサ

「パイパイずりずりいずりずりいいん♡腰振りずりずりい」

勇者

「ああ、ああああ、チンチンこしゅれてえ、あうう」

メーテル

「ああまたパイパイの間でバブバブ甘えてまちゅねえ。『ああ、抱っこおママ抱っこお。もつと赤ちゃんなるう、しゃらに一線超えるう、おちっこしーしーちゅるう、だちまーちゅう♡オギャオギャ赤ちゃんなりまーちゅ♡ママ見てえ、おちっこ敗北汁びゅうちゅるところ見てえ。て甘えてる」

メーテル

「いいでちゅよお。ちよのまま尿道刺激ちまくってこのベビーグッズにおんぎゃあ汁ぶっかけて…ママの巨大赤ちゃんになって」

勇者

「あうう、あああ、だめえ、これだめえお母さまあ、おがーさまあ」

メーテル

「ああ素敵、巨大赤ちゃん特有の母性キュンキュンアンモニア臭がもう匂ってきそう。いいでちゅよお、いいでちゅよお、もっと甘えて、マンマに甘えていいんでちゅよお！爆乳デカパイ大ちゅきで性欲ビンビンの大人オスチンポと、**おんぎゃあ**大ちゅきだあだあ赤ちゃんチンポで頭ぐっちゃぐっちゃにちて本能バブバブちなちゃい。**歪なおんぎゃあおつきんおむちゅチンポ**、実のお母さんに愛ちて貰いまちよう？」

勇者

「らめえ、ばく我慢できにやくなるう」

メリッサ

「んはあ、ああダメです、マジヤコン大人おむちゅなんてダメです…、^ご自身が何ちゃいなのか思いだちてくだちゃい、勇者とちての誇りを忘れないでくだちゃい…。^ご主人ちやまは勇者、^ご主人ちやまは勇者チャマ、^ご主人ちやまは誇り高き勇者ちやま」

メーテル

「坊やは赤ちゃん、坊やは無能赤ちゃん、民の期待を裏切ってもオギヤオギヤちたい**最低よわわバブちゃん**」

メーテル

「ほら**たっぽん、たぽおん、ぷるんぷるんぷるんっ**」

勇者

「あああ…」

勇者

「ああああああ♡おっぱいっおっぱいっ、おちっこおちっこ♡」

メーテル

「うふふ、これでトドメでちゅねえさあ最後の敗北バブバタイ
ムでちゅよお。**裏切りおんぎゃあうれし**ょんじょうじゅにできる
かなあ？」

メリッサ

「ああご主人ちゃまつ…負けないでッ！誇りを捨ててはいけませ
ん！」

メリッサ

「ご主人様は勇者様、誇り高き勇者様。民は見ています。民はあな
たに期待していますっ」

メリッサ

「あなた様は民を守り、民を導くお方。母性サキュバスに負けるお
方ではありません」

メーテル

「坊やは**赤ちゃん**、坊やは**よわよわ変態赤ちゃん**」

メーテル

「あったかおむちゅにおちっこしーしー、あったか乳布団におち
っこしー」

メーテル

「お肉一杯のママ肉サンドイッチ一杯味わってください。く
っさいパイ肉**むち**いいいいいい。たっぽたっぽお」

メリッサ

「負けてはいけません！負けてはいけません！信じています！私
勇者様を信じています！」

メーテル

「あー赤ちゃんなるう、赤ちゃんなっちゃう、我慢できじゅにあう
あうだあだしゆるう、ママのデカパイヨチヨチで変態オギヤオ
ギヤしちやいまちゅう、おんぎゃあおむちゅチンポきくう、おむち
ゅバブバブしちやいまちゅう」

メーテル

「赤ちゃん赤ちゃん、ボクはおっきなお**っぱい**赤ちゃん」

メーテル

「ちゆらかったねえ。もういいんでちゆよお、もう頑張らないでお
んぎゃあ赤ちゃんちていいんでちゆよお、よく頑張ったねえ。いい
子でちゆねえ」

メリッサ

「勇者勇者勇者勇者勇者勇者勇者勇者勇者」

メーテル

「赤ちゃんなりたいねえ。赤ちゃんなるねえ」

メーテル

「ママに甘えたい、甘えたい、甘えたいでちゅう、まんまあまんま
ああああああ、おっぱいいパイパイくだちゃあい」

メーテル

「ママちゆきい、ママ大ちゆきい、ママあマンマあ、だっこちてえ、
おむちゅかえてえ」

メリッサ

「ダメですっご主人様は立派なお方、勇者様なのです、勇者様は負
けません。お母さんなど恋しくありません。勇者様はおむちゅなん
て履きません！」

勇者

「んあ…らめえ、らめらめえらめえらめえええ…！」

エリオ

「あぶっうっうっ、おんぎゃあああああああほんぎゃああ
あああああああ」

【おしっこの音】

メーテル

「ああんちっちでたあ♡おむちゅあったかいねえ」

メリッサ

「あああん、ご主人ちゃまったらこんなお年でおちっこお漏らち
してるのですね♡最低な臭いが溢れてますわ」

メーテル

「ああバブ汁くっさあい。ああいい子いい子お。ぎゅううううう。
坊や偉い子お」

←勇者【脱力しながら】 この台詞のみ

勇者

「んふう…んあ…ああ…あああ」

メリッサ

「くすくす、勇者ともあろうお方がこんなにおむちゅにチン汁が
ちまけて。ご主人ちゃまはじゅかちいはじゅかちい**巨大赤ちゃん**
でちゅねえ。お兄ちゃんなのに赤ちゃんエリオちゃまといっちょ
にゲキクサおちっこぴっぴちてなちやけないでちゅね?」

メリッサ

「どうでちゅかあ?民の期待を裏切った最低おちっこ**おんぎゃあ**
は気持ちよかったでちゅかあ?」

→メリッサ【囁き】 終了

勇者

「ああ、ぼくう、ぼくう、見ないでえ見ないでえ」

メーテル

「いいんでちゅよお。なちゃけにやけてもいいの。だって坊やはマの巨大赤ちゃんだから」

メーテル

「坊や…爆乳デカパイママの言うこと聞けて偉いでちゅね。敗北おちっこぴっぴじょうじゅにできて偉いね」

メーテル

「よちよちよちよち。しゅっきりできまちたかあ？とっても気持ち良かったよねえ？」

→メーテル【囁き】 終了

勇者

「んあ…ははうええ…」

ティア

「ふ、エリオもよく頑張ったな…。とはいえあまりの気持ちよさに失神してしまったみたいだが…」

メリッサ

「あらあら、エリオ様も流石のヨフチンポでございますね」

メーテル

「うふふ、母として誇らしいですわ。ですがその奴隷さん？それよりも例の物は用意できてるのですか？」

メリッサ

「は、勿論でございます。例の物は既に…」

勇者

「ああ、それはあ…またおむちゅっ」

メーテル

「うふふ、おちっこお漏らししちゃう子は…おむちゆかえてあげないといけないんでちゅよお。今デカパイママたちがお下劣ミチミチオチンポキレイキレイちてあげまちゅからあちよっと待ってくだちゃいねえ」

勇者

「や…やめ…て…」

←メーテル【立ち位置・正面】

メーテル

「はあいマジヤコンバブバブ抱っこは終わりでちゅよお。今はここに寝ころんでえっと」

勇者

「ああ、また触手う」

メーテル

「はあいチンポでにちゃにちゃおちつけたマジヤコンおむちゆ開けちゃいまちようねえ」

勇者

「らめええええ、やめえ、おおお、お、おおお♡」

メーテル

「はあい幼稚おむちゆ御開帳う。あーんくつさあああああああ
い♡オチンポおったてながらこんなに一杯だちたのねえ、偉いでちゅねえ」

←メリッサ【立ち位置・正面】

メリッサ

「ああ、まっつきおむちゆの上でおちっこまみれのむれむれア
ンモニアチンポがビンビン跳ねましたわ。ご主人ちゃまは自分の
おんぎやあ願望を露出することで性的快感を得る無様赤ちゃんの
ようでちゅねえ」

メーテル

「あらあらバブオギヤマジャコソカミングアウト気持ちいいねえ。
おつきい体でおむちゆに黄色いおちっこひり出すのとっても無能
だねえ？」

メーテル

「みんなにデカパイ好きのドデカおむちゆ赤ちゃんのばれてオ
ギャれまちゆかあ？」

メーテル

「じゃ・あ、ママたちがちゃんなあうあうオチンポ綺麗にちてあげ
まちゆよお」

勇者

「な、なにをしゅるのお、おおお♡」

メーテル

「はあいデカパイ母乳ミルクぴゅっぴゅうううう、おちんちん
しゃんに母乳を吹きかけてキレイキレイい。はあいぴゅっぴゅう
うううう」

勇者

「や、やめへえ、んああ、らめえ」

メーテル

「ん、ほら、そのデカパイ乳奴隷もやりなさい、その下品なドデカパイパイをむにゅっと持ち上げ、ぶつぶつしたお下劣デカ乳首を無茶苦茶にひねって爆乳母乳シャワーを浴びせるのです！」

メリッサ

「かしこまりました魔王様っ、私のこの下賤なデカパイママミルクでよろしければ幾らでも母乳噴射いたします。んはあ　ぴゅっ　ぴゅうう♪　ぴゅううううって、あったか哺乳瓶ミルクをイキリチンポめがけて**むにゅむにゅたばたば**と搾りますう！　んんんはあ」

「んは、はあはあ、ほらティアもこの子におっぱいしてあげるのですよ」

メーテル

ティア

「わ、私か…？ん…まあ家族だしな…わかった。エリオ用に使い古したデカパイ茶色乳首でよければ私も絞ろう」

メーテル

「そうですわ、私たちは家族なのですから助け合うことを忘れてはなりません…んふう」

勇者

「んひい…ちんちんがあちんちんがあ」

ティア

「んっ、うふふ、私のどたぶん母乳はどうだ？エリオはこれを毎日じゅばじゅばんくんくちながらだったちてるんでしゅよ」

勇者

「んあああああんへえ、おかしきゅなるう」

メーテル

「はあいちゅぎは舌でキレイキレイでちゅよあ」

勇者

「おおお♡やめえ、らめえええ♡おほおお♡」

※④「選択」

【登場人物】語り〃勇者、勇者、赤ちゃんの勇者、**メーテル**、**メリッサ**、**ティア**、

エリオ

赤ちゃん 「ねえ、いっちょにドデカ赤ちゃんになろうよ」

勇者 「エリ…オ…？」

赤ちゃん 「いっちょにバブバブおんぎゃあちようよお。とつてもとつても
気持ちいいよ」

勇者 「エリオじゃない…お前は…」

赤ちゃん 「大丈夫だよお、はじゅかちくてもパイパイママたちはじえんぶ
受け止めてくれるよ」

勇者 「お前は…ボクなのか…？」

赤ちゃん 「ボクもうちゆかれちゃった。戦いも…レベル上げも、みんなから
の期待も、本当は大嫌い」

赤ちゃん 「大ちゆきなのはなんでも許してくれるママのおっぱいとこのお
むちゅ♡」

勇者 「やめろ…お前はぼくじゃない…」

赤ちゃん 「ボクがいくら強くなろうとも、外ではみんな愛してなんかくれ
なかった」

赤ちゃん

「でも…ここなら…もう大人なのに赤ちゃんの格好でバブバブしちゃう変態さんなボクでも…こうやって、あぶうあぶうおんぎやつおんぎやつて甘えてもいい。アンヨばんじやいちてよわよわ無能オチンポ大公開ちてもいいんでちゅ」

勇者

「やめろ…それ以上聞きたくない…」

赤ちゃん

「もっと…もっとみてほちい、本当のボク…なんにもできないボク…甘えん坊なボク…ド変態さんなボク…大人ギンギンチンポ振りまくって見て見ておんぎゃあするの大ちゅきなボク」

赤ちゃん

「ねえ、おつきな赤ちゃんになろう」

赤ちゃん

「たった一言、呪文を唱えるだけでそんなボクは本当の意味で赤ちゃんになれる」

勇者

「やめろ…やめろ…」

赤ちゃん

「『ま』からはじまって『ま』で終わる短い呪文」

勇者

「ねえ叫ぼう…。涎らして、アンヨばたばたさせて、お指をしゃぶろう？おつきくて、やわらかくて、あたたかい母乳ぱいぱいに甘えよう？」

勇者

「嫌だ…」

赤ちゃん

「ほらこうだよ…。こうやって、ア～」を曲げて、**おんぎゃっ、おんぎゃっ**って甘えるんだよ」

勇者

「嫌だ…！」

赤ちゃん

「マジヤコンチンポで天を突きながら、**あぶう…ああ…**だったあ、**ふんぎゃあ、ほんぎゃあ**って甘えるんだよ」

勇者

「嫌だ…！」

赤ちゃん

「あうううう、ねえ、いつちよに赤ちゃんに…なる?」

赤ちゃん

「あぶうう、ばぶうううう、だったあ、あうううううう」

←**赤ちゃん勇者**【徐々に激しく】

赤ちゃん

「ふんぎゃっ、んぎゃあ、あううう、おんぎゃああおんぎゃあああ
あ」

勇者

「嫌だ嫌だ嫌だ嫌だ嫌だ」

勇者

「嫌だ！赤ちゃんなんか絶対ならない！」

【飛び起きる音】

勇者

はあああ…ここ、ここは…?そうか…ボクはあの後気を失って…

いや…もしかして…全部夢

いや、違う…。ボクまだ赤ちゃんの格好してる…

【布擦れの音】

←メーテル【耳元で囁き】 開始

メーテル

「うふふ、おつきちまちたかあ？」

←勇者【ディープキス】

勇者

「ははうえ…んむうちゅうむう」

←メーテル【ディープキス 囁きは継続】

メーテル

「ちゅむうう、ちゅううう、はあはあ…。ほおら坊や、お手手をかちてくだちやい？」

勇者

「はあはあ うわあ、な、なにを…」

メーテル

「ママの大きな大きな柔らかデカオチチを揉ませてあげまちゅよ？」

勇者

「ふわあ、おっぱいに指が沈み込んでっ、だ、だめですこんなのっ、ああ、どうして…どうして動けない…」

メーテル

「んふ、坊やはきじゅいてなかったんでちゅかあ？ちよの赤ちゃんのお洋服は坊やの力を1にする呪いがかかっているんでちゅよお。今の坊やは体の大きさ以外は赤ちゃんとおなじなの。装備推奨レベル1のおべべ着ているレベル100の大きな赤ちゃん」

勇者

「そ、そんなっ…」

勇者

「ああ母上、正気に戻ってください…。ボクこのままじゃ…」

メーテル

「んはあ、うふふふ。それでちゅねえ。あなたの言う通り、ママ、狂おしいほどにあなたに恋してるの。母親なのに…親子なのに…。わかりゆ？ママのムチムチたゆんたゆんな体の火照り、止まらな
いお乳母乳、熟女メス穴から放たれる淫臭。これが坊やの…あなたを産んだ母親なのですよ。あなたに似てお下劣でちよう？えろお、んじゅうううう」

←勇者「キスされながら」

勇者

「母上…、やめてください…んんんん」

メーテル

「ちゅうう、うふふふ。こうしていると、初めてあなたを抱いた時のことを思い出します。あの時の悦び、決して忘れることはないでしょう…」

メーテル

「ですが、今の私の気持ちはあの時とは全く違うのですよ。今私が思うことは…私の許可なく大きくなってしまったこの身体を再び支配する、ただそれだけ…」

勇者

「母上…どうして…どうしてそんな…」

メーテル

「どうして…？なぜなら私はあなたのママだから…。ちゅ」

勇者

「ん…だめっ」

←メーテル【最後にディープキス・囁きは継続】

メーテル

「ほおら、これが坊やを育てたぼにゅぼにゅパイパイでちゅよお。
どうでちゅかあ？やわらかいでちゅかあ？**おんぎやあ**赤ちゃんは
毎日このむにゅむにゅパイパイに甘えん坊さんちないと怪獣さん
に食べられちゃうんでちゅよ？こんな風に…んちゅちゅうつうつ、
えろお、もつと…もつと揉んで…えるお…」

→メーテル【耳元で囁き】 終了

←勇者【ディープキス】

勇者

「ふわあ…やめ…んんん」

【フック音】

メリッサ

「よろしいでしょうか？魔王様」

←メーテル【最後にディープキス】

メーテル

「ぷはあ…はあはあ、あらあら、うふふ…いいですわよ。お入りな
さい。ちゅむうちゅうつうつ」

メリッサ

「失礼します。例の支度が整いましたのでご報告にと」

メーテル

「ぷはあ、はあはあ…そうですか…では私たちも参りましょう」

勇者

「はあはあ…待ってください母上！今度は何をするつもりですか」

メーテル

「チャンスを与えるのですよ。坊やの中の勇者様に…」

勇者

ボクはそれから母上に抱っこされながら魔王城のロビーまで連れてこられた

そこにはメリッサと姉上にエリオ、そして大勢のサキュバス達が

無言で佇んでいる

勇者

「ここで一体何をしようっていうんですか」

メリッサ

「ん、ご主人ちゃまにはここでバブバブハイハイレースをちて貰うんでちゅよ？」

勇者

「は？ハイハイ…？」

メリッサ

「そうです、今のオギヤリチンポ脳のご主人ちゃまにはお似合いかと存じまちゅよ。その上もちハイハイでエリオ様にお勝ちになられたらご主人ちゃまを解放ちゅるとのことです」

メリッサ

「どうでちゅかあ？わるい話じゃないでちゅよねえ？」

勇者

「そんな話…そっちに何のメリットがあるって言うんだ…。それにハイハイで勝負なんて仮にもボクは…」

メリッサ

「あらあら？よろしいのでちゅか？ご主人ちゃまは負ける訳には
いかないんじゃないでちゅか？それともずっとこのお城で**おんぎ**
やつおんぎやおっぱいバブバブちていたいのでちゅか？」

勇者

「それは…」

ティア

「ふふふ…まあ私のエリオが負ける訳がないがな。エリオは私と
毎日のようにハイハイの練習をしてるんだ。例え兄であろうと新
生児同然の赤ん坊に負ける訳がない。ねえ、エリオお？そうでしゅ
よねえ」

エリオ

「んぶう だっだあ」

ティア

「うふふ、ハイハイはいいぞ。心と体に自分はデカチンポ赤ちゃん
だと分かせてやる育児調教プレイだ。きつとお前も気に入るぞ」
「うふふ。ではご主人ちゃまもそろそろ位置にちゅいてくだちゃ
い？早速始めまぢゅよお」

メリッサ

勇者

「うう…やれば…やればいいのでしょう…！そのかわりボクが勝
つたら約束は守ってくださいー」

メーテル

「ふふふ、ママたち嘘はちゅかないでちゅよお。だから安心ちてく
だちゃい？」

メリッサ

「クスクス。では…さっそく始めましょう。ゴールはあちらの扉…
このお城の入り口でちゅよお。赤ちゃんにとっては結構な距離に
なるかと存じまちゅが諦めじゅに頑張りまちゅうね」

メーテル

「大丈夫。ママがこの**ポインポイン**オッパイパイをぶるんぶる
んっ、どたぼんどたぼんと揺らしまくってしっかり扉まで案内ち
てあげまちゅから心配しないでいいからね」

メーテル

「ほおら坊や？四つん這いになってくだちゃい？」

勇者

「ううう…こんな格好で…サキュバスたちに見られて…」

ティア

「エリオも頑張るんでちゅよお。ママ一杯応援ちてあげまちゅか
らねえ」

エリオ

「あうう、まんまあ、まんまあ、あううううう」

メリッサ

「はーい、ではいきますよお。いちについてえ。よおい スター

トー」

メーテル

「はあい。アンヨはじょうじゅめ。アンヨはじょうじゅめ、おいっちに、
いっちに」

ティア

「おいっちに、いっちに」

勇者

はあ…はあ…くそ…うまく力が入らない…ただのハイハイなのに
…なんでこんなに…

くう、しかもこんな格好でハイハイだなんて…、これじゃあ本当に赤ちゃんじゃないか…

はあはあ…ボク、大勢に見られながら赤ちゃんの格好でハイハイしちゃってる…

もう大人なのに…変態さんみたいに…ハイハイしてる…

はあはあ…くそ…余計なことを考えるな…今は集中するんだ…

メーテル

「あらあら坊やったら、ハイハイ下手っぴさんでちゅねえ。ちよんなんじゃエリオには勝てまぢえんよお」

メリッサ

「勇者ともあろうお方が、弟のエリオちゃまにもハイハイで勝てないんでちゅか？お兄ちゃまはよわいあいよわあいクソザコ赤やんなんでちゅね」

←勇者【息づきながら】

勇者

「だ、だって…」

メーテル

「うふふ、それじゃあそんな坊やにママがアドバイスちてあげましようかあ？ハイハイのコツは『パイパイ』でちゅよお」

勇者

「はあはあ…なにをいって…」

メーテル

「エリオがあんなにハイハイがおじょうじゅなのはディアのデカミルクオッパイが大好きだからでちゅよ。ご褒美のたぶたぶおっ

ばいがほちいからあんなに頑張れるんでちゅよお？エリオを見習って、坊やもママの大人赤ちゃんちえんようパイパイだけをみちゅめてハイハイちなちやい」

勇者

「はあはあ…ボクは勇者です…母上の胸なんて見てもしようが…ありませんよ」

メーテル

「ううんそんなことないでちゅよ…。坊や…？目をそらさないでくだちやい？淫乱スケベお母さんのじゅぱじゅぱミルクのちゅまった**おっ・ぱ・い**…坊やちゅきでちよう？」

勇者

「ん…」

メーテル

「ほら、坊やの**大ちゅき**なドデカパイパイが目の前にありまちゅよ。**ぶるんぶるん**って柔らかパイパイが揺れて、**んまんま**母乳ミルク噴き出しながら敗北確定赤ちゃんを呼んでまちゅよお」

メーテル

「アンヨはじようじゅ。アンヨはじようじゅ、おいっちに、おいっちに。**おっぱいぶるん、ぶるうん、たっぶうん、たぶうっうん**」

メリッサ

「ああん、魔王様ったらそんなにマジヤコン用巨大お乳をぶるぶる震わせて…そんなものを赤ちゃんに見せてしまったらアンヨぴん立ちバブバブハイハイアクメが止まらなくなってしまうです」

メーテル

「うふふふ、ほらほら坊や？前を見ないとうまく」チンポおったてハイハイ」できないでちょう。だからちゃんとママのおつきすぎて乳くさあいパイパイみなちゃい？じょうじゅにハイハイできたらこの母乳パイパイはじえんぶ坊やのものでちゅよ？だから見て…ママの母乳吹き出るパイパイをみなちゃい？とってもおつきくて、見るだけで**おんぎゃあ**しちゃうやわらかママおっぱいをみなちゃい」

メーテル

「ほら、アンヨはじょうじゅ アンヨはじょうじゅ。汗だくムレムレパイパイの谷間が左右に**ぶるんつぶるん**ってでかすぎオムチュ赤ちゃんをおいでおいでしめるからねえ」

勇者

うう…なんでだ…見ちゃいけないのに…見ちゃいけないのに…ボク…

メリッサ

「ああん、ちゅごおい、魔王様の前かがみになったパイパイが**たぼんたぼん**って揺れて、二つのお乳が柔らかくぶつかってまぢゅねえ」

メリッサ

「お乳がたわんで、波打って、まるでおっぱいで爆乳手拍子しているようですわあ」

メーテル

「ほおらアンヨはじょうじゅ アンヨはじょうじゅ ほおらお下品に垂れ下がったママのお母さんパイパイみなちゃあい。母乳の匂い一杯にちて、おんぎゃあチンポ待ちちてるパイパイの谷間もお、大人用哺乳瓶みたいに大きくなった乳首さんもお、いちゅでも坊やを受けとめることができまぢゅよお」

←メリッサ【左耳元で囁き】 開始

メリッサ

「たぼ…たぼ…たぼ…たぶんっ ぶるんっ たっぽんたっぽん…ぶるんぶるん…」

←メーテル【右耳元で囁き】 開始

メーテル

「ゆっさ、ゆっさ、ぶるんっぶるん、どたぶん、たっぶん、むにゅんむにゅんのぼいんっぼいん」

メリッサ

「おっぱい、おっぱい、パイパイ、ママのパイパイ、ママのおっぱい、マジヤコン用デカパイパイ、バブバブママオッパイ、甘えパイパイ、ママオッパイ、爆乳ぶるぶるおっぱい、おっぱい、おっぱい」

勇者

ああなんだ。頭が、おっぱいで…

メーテル

「デカチチ、Pカップお布団パイパイ、デカパイママミルク、ちゅばちゅばママミルク、おぎやおぎやママオッパイ、爆乳バブバママミルク、おぎやらせママお乳、どたぶんママパイパイ、おんぎやあママパイパイ、授乳用おんぎやあミルクパイオツ、特濃ミルクタンクパイパイ」

→メーテル【右耳元で囁き】 終了

メリッサ

「おっぱいおっぱいおっぱいおっぱいおっぱいおっぱいおっぱいおっぱいパイパイパイパイパイパイパイパイパイパイパイパイパイパイパイ」

→メリッサ【左耳元で囁き】 終了

勇者

ああ、母上のおっぱいがあんなに柔らかかそうに弾んでる…でもボクは…ボクは…

メーテル

「アンヨはじょうじゅアンヨはじょうじゅ…ほおら大人赤ちゃん用ママおっぱいはちゅぐそこでちゅよお。おっきな身体で**おんぎやおんぎ**やつと飲み飲みしゆる特殊性癖用ママパイパイはもうちゅぐでちゅよお？」

勇者

どうして…なんで…だめだとわかっているのに…おっぱいが頭から離れない…

メーテル

「はあいアンヨはじようじゅ アンヨはじようじゅ、ほらほら、赤ちゃんおむちゅに育児待ち大人チンポをじゅりいじゅりいってこすりながら、右足、左足っ」

勇者

体が勝手に…この格好のせいかな…それともなにかの魔法か…はあはあしかも…おむつが…おちんちんにこすれて…これ…まずいよ…ハイハイしてるだけなのに…

はあはあ おっぱい…おっぱい…パイパイ…

はあはあ

ぱいぱいほちいっ…でも…

メーテル

「おいっちに、いつちに、ああ、大の大人がハイハイしながら勇者チンポおんぎゃああつあつさせてまぢゅねえ」

メーテル

「しゅごおい、またおむちゅの布をチンポであんなにいじめて…。坊やはマジヤコンこじらせまくりの**変態おむちゅプレイマニア**でぢゅねえ。赤ちゃん用ベビーグッズを大人**おんぎゃあ**レイプぢゅるの気持ちいいねえ。えらあいえらあいぢゅよお」

勇者

んふう…おむつが…どんどんきちゅうくなっていく…おむちゅうにおちんちんが抱っこされてるみたい…

メーテル

「はあいもうちゅこちでゴールでちゅよお。じょうじゅにゴールできたらマンマの乳揺れ爆乳ドデカパイパイでチンヨチババブのオギヤリフルコースが待ってるよお。アンヨはじょうじゅ ア
ンヨはじょうじゅ、ばあぶ、ばあぶ♥」

勇者

はあはあ …んああ…おっきなおっぱいが目の前にあってえ…こんな姿…みんなに見られて…ぼく…ぼく…

メリッサ

「ご主人ちゃんがんばってえ、ちゅよい勇者ちゃん年下の子に負けちゃだめでちゅよお。このままではハイハイもまともにできにやい、ただのデカパイ爆乳マニアの無能巨大赤ちゃんになつてちまいまちゅからねえ」

勇者

ああ、おっぱい、おっぱいつ、んああおかしくなりゅう…おかしくなつちやうう…はやく…はやくゴールしなきゃあ…

メーテル

「はあいアンヨはじょうじゅ アンヨはじょうじゅ、はあいと
うちやくう。よくできまちたあ。坊やはハイハイじょうじゅでちゅ
ねえ。よちよち いい子いい子お、偉いでちゅよお」

勇者

「や、やった…ボク…エリオよりも先に…」

勇者

「あ、あれ…、ここ何処だ…、入り口じゃない…ま、まさか…」

メリッサ

「あらあら。残念でちゅね。勝ったのはエリオ様の方でちたあ」

エリオ

「あぶう きやつきゃ」

ティア

「あー偉いでちゅねえエリオお。お兄ちゃんにハイハイでかちゅなんてちゅごいねえ。いい子だね。よちよちよちよち」

メーテル

「ごめんなちやいね。ママ、坊やをおちよとに返したくなくて思わずゴールとは別の方向に坊やを導いてしまいましたわ」

勇者

「うそだ…そんな…」

メーテル

「坊やったらママの母乳噴き出しゅさゆさパイパイに夢中で全く気付かなかったみたいでちゅねえ。やっぱり坊やはまだま乳離れのできにやいデカパイ中毒赤ちゃんね」

勇者

「ああ、そんな…そんなあ…」

メーテル

「頭の中**おっぱいおっぱい**！にちて**おんぎゃあおんぎゃあ**しちやつてたんでちゅねえ」

メリッサ

「くすくす。お兄ちゃんにやのに弟にもおっぱいにも負けてしまふなんて、かわいい甘えんぼさんでちゅね。デカパイ敗北オギャオギャ赤ちゃん、弱いでちゅねえ」

メリッサ

「心も体もおっぱい赤ちゃんで無能。まさに奴隷以下の底辺生物で乳首勃起と子宮のママヨ子母性欲求が止まらなくなりそうです」

ティア

「ふっ、まさかお前がエリオ以上のパイパイおっぱいマニアさんだとはな。兄として恥ずかしくないのか？今すぐそこにくっさいアンヨ振り回して敗北おんぎゃあママおっぱいしたほうがいいんじゃないか？」

勇者

「そんな…うそだ…ボクはちゃんと…前だけ見て…」

勇者

「ま、まけてにやい…そんなのずるい…」

←メーテル【囁き】

開始

メーテル

「坊や…いいんでちゅよ…私のバブバブ特化爆乳ママおっぱいに勝てなくても。ママのパイパイで**おんぎゃあ**チンコキ希望になっ
てしまうのはちようがありまちなよ。だって坊やは**巨大赤ちゃん**
なのでちゅから」

勇者

「ちがう… ちがう… ボクは赤ちゃんなんかじゃ」

メーテル

「いいの、いいのでちゅよ、授乳待ちアンヨあうあう赤ちゃんはママの
パイ汁がにやいと生きていけないもの。よちよち ぎゅうう
うううう 抱っこ抱っここのいい子いい子お」

勇者

「でも…」

メーテル

「ううん、いいの。よく頑張りまちたねえ。偉いねえ。坊やがパイ
オツちゅうちゅう求めてハイハイしゅるちゅがた、大人人生ドロ
ップアウトちたド変態しゃんみたいでとってもかわいかったでち
ゅよお」

メーテル

「ママは坊やの**ばぶうばぶう**なかわいいちゅがた見ただけでち
あわちえだよ」

メーテル

「それにママはね、ゴールよりもママのおつきなパイパイを選ん
で貰えてとってもちあわちえなの。負けてくれて…ママを選んで
くれてありがとね…私のかわいいよわよわ赤ちゃん…ちゅ」

勇者

「違うのお…こんなの違う…」

メーテル

「違う…？違うのお？選んでないのお？ううん。坊やはママを選
んだの」

メーテル

「母性ビンビンパイパイ乳首からあったかママミルクがぶしゅつ
と溢れるところ想像ちて、バブバブ敗北ハイハイちたのは**あなた**。
規格外サイズのド変態赤ちゃん**あなた**…でちゅからね？」

→メーテル【耳元で囁き】

終了

メリッサ

「くすくす。魔王様ったら本当に人が悪いのですから。どうです？」

このままぐずられても何ですし、ここは一度ご主人ちゃんに本当に選ばしてあげてはいかがでしょう？」

メーテル

「うふふ、うん、そうですね…。今のままではちょっと坊やが可哀そうですし、いいでしょう…手筈通りになさい」

メリッサ

「よろしいですね魔王様。では」

【指パッチン・ドア開く音】

勇者

「な、扉が…どうして…」

メリッサ

「ご主人様。これが最後のチャンスですよ。端的に言えば、解放して差し上げますわ」

勇者

「な、なんで急に…何が目的なんだ…」

メリッサ

「あら…どうしてそんなに怯えているのですか？この地獄から抜け出したいと思っていたのでしょうか？」

勇者

「それは…」

メリッサ

「くすくす。もし解放を願うのであれば、ハイハイでその扉までどうぞご勝手に」

勇者

「でもどうして…」

メリッサ

「理由なんてどうでもいいではありませんか。それより早く選んで頂けないでしょうか？」

勇者

「でも…そんなこと言われても…」

メーテル

「ああ、だめ…坊やダメ…。行つてはだめ…。めっでちゅよ…。坊やは私の赤ちゃんなんでちゅよ。。またおっぱいおっぱいできるというのに…また離れ離れになんて嫌…」

メリッサ

「あら、どうしたのですか。このチャンスを逃せば外の世界とは永遠のお別れになってしまうかもしれませんよ」

勇者

「そんな…」

メリッサ

「もっとも…今戻ってもご主人ちゃまは世間的に魔王に敗れた敗北者。何も守れず民の期待を裏切った無能勇者に過ぎないでしょう。おまけに赤ん坊の格好までさせられて、ふ、奴隷の身で言うのもなんですが、哀れで仕方ありません…」

メーテル

「だめでちゅよお。ちょんなサキュバスもドン引きするでかすぎ
赤ちゃんがおちよとに出てはめっ。キモイキモイっていじめられ
ちやいまちゅよお。だからここにいなきゃめっ。ここなら変態赤ち
やんもパイパイママにチンチンヨチヨチいい子いい子ちて貰える
んでちゅよ。ここでなら大人チンポおったてながらおむちゅちゅ
けてても大丈夫。じゅうつとじゅつとバブバブおんぎゃあってチ
ンポコキできりゅのよお」

勇者

「うう…そんな…選ばすなんて言ってこれじゃあ…、うう、どうす
れば…」

←メーテル【耳元で囁き】

開始 章終わりまで

メーテル

「ねえ坊や。ここは一つ取引ちまちよう。もち坊やが残ってくれれ
ばもっともつと目をつむりたくなるようなド変態甘え赤ちゃんに
ちてあげる。こうやって上下に爆乳ニルクタンクゆすって…毎日
いい子いい子ってちてあげる」

勇者

「ああ、それ…ああ…おっぱいがあ…こそすれてえ」

メーテル

「ああいい子いい子。毎日毎日ムッチリパイパイぎゅっぎゅっ
うっうって愛ちてあげるからね。もう坊やは何にも考えなくてい
いの。何も選ぶひちゅようも悩むひちゅようもないの」

メーテル

「だって坊やはママの規格外サイズ赤ちゃんだから」

勇者

「はは…うえ…」

メリッサ

「くす。こそそと何をしてるのですか？答えはお決まりでしょうか？」

勇者

「うう…ボク…ボク…」

メーテル

「よちよちいい子いい子。大丈夫。大丈夫でちゅよ。ここはママにまかせてくだちゃい」

メーテル

「坊やはみんなにお母さんパイパイ大ちゅきなチンヨチ中毒さんだっと思われたくないんでちゅよね。だけど今のままでは帰ることもできない…そうでちゅよね？」

メーテル

「なら…こうちまちよう。「ボクは母上たちを助けなきゃいけないんだ！だからここに残って戦う！」って皆に言うの。そちらら皆、坊やのことをカッコイイと思うし、またママとオギャオギャラブラブおっぱい抱っこでいっちょにいられまちゅよ？」

勇者

「え？」

メーテル

「大丈夫。このことはママと坊やの二人だけのひみちゅでちゅよ？ママの入れ知恵なんて誰にも言わないよ。だから大丈夫。大丈夫でちゅよ」

メリッサ

「さあご主人ちゃま、そろそろ答えを出してください」

勇者

「で、でも…」

メーテル

「でもない。ママの言うこと聞けないの？ほら、またママと甘

えんぼ爆乳バブバブプレイちまちょう？ご褒美バブバブ、パイパ

イデカパイお母さんと一杯ちまちょう？」

メーテル

「大丈夫。大丈夫でちゅからね。ママが先ほどのハイハイのように
導いてあげまちゅよ。坊やはママに続いて声を出すだけでちゅか

らね…」

メーテル

「ボクは…さんはい」

勇者

「でもでも…」

メーテル

「大丈夫…おちちゅいて…ゆつくりでいいでちゅからね…坊やな
らきつと言えるよ」

勇者

ああ…ぼくは…ぼくはまた…

メーテル

「ボクは…さんはい…」

勇者

「ああああ…ボクは…」

メーテル

「母上たちを」

勇者

「ははうえ…たちを…」

メーテル

「助けなきゃいけないんだ」

勇者

「助けなきゃいけないんだ」

メーテル

「だからここに残って…戦う」

勇者

「だからここに残って…戦う」

メーテル

「うふふ…いい子でちゅねえ、よくできまちたあ」

ティア

「ほう…意外だな…まだ戦士としての誇りは失っていないのか…、それとも…」

【ドアの閉まる音】

メリッサ

「くす…自らチャンスを捨てるとは…」

メーテル

「うふふふ。よかったあ。ママ安心。これで坊やのおむちゅチンポはママのものでちゅね？またママを選んでくれてありがとう。私のかわいいおっぱい赤ちゃん？」

勇者

「ああ、あああああ」

勇者

チンチンをバキバキに勃起させながらボクは床に崩れ落ちた。
逃げられない。

この母性からは…絶対に…・

※⑤「陥落」

【登場人物】

語り＝メリッサ、勇者、メーテル、メリッサ、ティア、エリオ

エリオ

「ちゅきい！ママちゅきい！ちゅきいちゅきい！」

←ティア【最後にディープキス・10秒】

ティア

「エリオ！エリオ！ママも大ちゅきでちゅよお！ちゅきいちゅきちゅきいーあむ」

←エリオ【ディープキス・10秒】

エリオ

「ちゅうつむう、えろお、ちゅぷう」

メーテル

「あらあら。お盛んなこと。あんまり激しくしすぎるとベビーベツドが壊れてしまいますよ」

メリッサ

「ティア様ったら…この部屋とっても母乳臭いですね。素晴らしい全自動腰振りおんぎやあプレイです。お母さん専用おキンタマがウンカスこびりついたケツ穴に当たる振動がこちらのベビーベツドまで伝わってきそうです」

ティア

「ぷはあ。すまない…。はあはあ。エリオがさっきのパイオツハイハイで少しレベル…んあアップたみたいで…我慢できなくなつてつい…ん」

エリオ

「ママあ！まんまあ！ばあぶ、あううううう」

ティア

「あーよちよち。おちんちんはおじようじゅ。おちんちんはおじようじゅ。そのままママのまん汁くさくさおまんこに、エリオのレベルを一杯ぴゅっぴゅちゅるんでしゅよお。そちたらまたレベル1のクソザコ赤ちゃんチンポに戻れましゅからねえ」

エリオ

「あうぶううう、おおおお♡おほおお♡」

ティア

「おお♡おお♡チンポっチンポっチンポっオチンポ、チンポっチンポっチンポっオチンポオオオ！」

ティア

「ちんぽおお、ちんぽおおおお、おぢんぽおおおおお
お」

勇者

「ああ…二人とも…家族なのに…どうして…」

メーテル

「いいえ。家族だからこそでちゅよ。家族だから、大人赤ちゃんのチンコキお世話だってちてあげるんでちゅよ」

勇者

「大人赤ちゃん…？ううん違う…そんなの赤ちゃんでもなんでもない…ただの変態だ…」

メーテル

「坊や…例えそれがただの変態さんであってもいいの。例えハイハイでおむちゅチンズリしちゃうような犯罪レベルのト変態チンポしゃんだって立派なママの赤ちゃんでちゅよ」

勇者

「あれは…たまたま…」

メーテル

「いいえいいの。だからいいの。ママはそんなきつついド変態をバブバブ育児ちてあげる。このパイパイでマンマあマンマあさせてあやしてあげるの」

メーテル

「ママが勇者様からド変態母乳バブバブ赤ちゃんにクラスチェンジさせてあげまちゅよお。ほら、私たちもこの規格外ベビーベッドで民衆がドン引きするぐらいの…ド変態乳揺れバブバブ…始めまちゅ…？」

勇者

「いやだ…ボクは勇者なんだ…選ばれし者なんだ…この称号は誰にも譲れないっ」

メーテル

「いいえ。あなたはバブバブあうあうが気持ちいいチンポ赤ちゃんなんでちゅよ。坊やにお似合いのよわあい赤ちゃんクラスにかえるだけ」

メリッサ

「そしてこれも赤ちゃんにお似合いの物の一つ。ですよね魔王様」

勇者

「ああ、それはあ」

メーテル

「うふふ、坊やはハイハイ頑張りまちたからねえ。これはそのご褒美でちゅよお。坊やはガラガラ大ちゅきだよねえ」

勇者

「そんなもの…」

【ガラガラの音】

勇者

「はうっ…」

メリッサ

「あらあら。マンザラでもないみたいでちゅねえ」

【ガラガラの音】

勇者

「はう♡」

メリッサ

「くす。今むれむれおむちゅのお山がぴくんとちまちえんでちゅかあ？」

勇者

「うそだ…そんなはずが…」

メーテル

「いいのでちゅよお坊やあ。赤ちゃんの頃を思いだちたんでちゅよねえ」

メーテル

「爆乳たぶたぶママのドデカスケベパイパイにあやされてた、おっぱいはいな日々のことを身体がおぼえてるんだよねえ。だからいちゅまでたってもガラガラさんがだあいちゅきなんでちゅよねえ」

メリッサ

「くすっ、おちんちんしゃんをおつきおつきさせるくらいガラガラがちゅきなんて特殊すぎまちゅねえ」

メリッサ

「もちかちてベビーグッズで大人チンポを**あうううばうううう**とマジヤコンチンオナヌキヌキしゆるちゅもりでちゅかあ？」

勇者

「ちがう、これは…これは…」

メーテル

「坊やのオチンポはきつとガラガラの音を聞いて**おんぎやあ**赤ちやん返りしちゃったんでちゅねえ。自分ではぴゅっぴゅもできない、赤ちゃんおちんちんしゃんだから**あママーおっぱいまんま**ーっとおつきおきだあだあしゆることで、ママに甘えてるんでちゅねえ」

メリッサ

「あらあ、ご主人ちゃまのチンポはとっても頭がいいでちゅねえ。ちやあんと自分がアンヨ開脚チンオナぴゅっぴゅも一人できにゃい底辺赤ちゃんだってこと分かってるのでちゅねえ」

勇者

「違う…赤ちゃんはそんなことしない…」

メーテル

「坊や…赤ちゃんに年齢は関係ないの。大きくなってもママがいないと、うえんうえんおぎやつちやう子は赤ちゃんなんでちゅよ」

メーテル

「ねえ、もうドデカ赤ちゃんを認めてバブバブデカパイ育児でだ
つだちまちよう？どぴゅどぴゅおちっちから、ぶすぶすぶりゅぶ
りゅうんちまでじえーんぶお世話されてヨチヨチ**おんぎゃあ**管理
されまちよう？」

勇者

「そんなの全部自分でできます…だから母上…どうか…」

メーテル

「うふふ。いいえできないわ。坊やにはにやにもできまちな。
それならほら、ママおっぱい期待してキンタマあがりまくりのそ
のチンピクチンポ、自分でどうにかちてみせなちゃい？」

【ガラガラ】

勇者

「ひゃうん」

メリッサ

「あら、パイパイのちゆぎはガラガラにお熱でちゆか？ご主人ち
やまは**あうあうだだ**あちながらベビーグッズでおむちゆズリコ
キちゆるのちゆきなんでちゆねえ」

メーテル

「あーんいいでちゆよお。大人なのにマジヤコンベীগズマ
ニアな坊や、ママだあいちゆきでちゆからねえ」

メーテル

「ほら、おちんぽしゃんも**おんぎゃああおんぎゃあ**あっておむち
ゆにべつとり種ちゆけしゆる準備万端みたいでちゆよ？そろそろ
こっちにもご褒美あげまちようかあ」

勇者

「ひゃあつ、だ、だめっ、さわらないでえ！」

メーテル

「あらあら。せっかくおぎやおぎやハイハイ頑張ったのに、坊やは爆乳ご褒美いらにやいんでちゅかあ？」

勇者

「そ、そんなの…いらない…」

メーテル

「そっかあ。でもママご褒美あげたいなあ。坊やはそんなにパイパイママたちのことが嫌い？」

メリッサ

「くす。それならいいことを思いつきましたわ魔王様。どうです？ここはかわりにガラガラさんにご褒美をあげるというのは」

勇者

「は？メリッサ、なにをいって…」

メーテル

「あーそれがいいでちゅねえ。ガラガラさんも坊やをあやす為に一杯頑張ってくれたものねえ。ちやあんとガラガラさんにもデカパイむっちゅんちてチンジュリ爆乳ヨチヨチちてあげないといけまちなねえ」

メーテル

「ではまず、んしょ、こうやって、ガラガラさんをママのおっきなPカップパイパイにはちやみこんでえ」

メリッサ

「ああん、ガラガラさんがパイパイに抱っこされちゃいまちたねえ」

メーテル

「こうやってえ、ガラガラさんのかたいあいかたあいギンギンお
ったてボディをママのやわらかあい母乳パイパイにちゅちゅみこ
んでえ、じゅりい、じゅりいじゅりい、だっぽんだっぽんっとパ
イパイをゆさぶるとお、あー、ガラガラさんの嬉しちようなおぎ
やり声が聞こえてくるねえ」

メーテル

「むぎゅううう、むちゅうううう、むっちゅんむっちゅん、だっ
ぽだっぽ、じゅりじゅりいいいいいい」

勇者

「ああ、ああ♡」

メリッサ

「ご主人ちゃんまはこうやってパイパイで大人バブバブ抱っこされ
ておほお♡ほおんぎゃあああああしゅるのもちゅきでちゅよね
え。かたくてぶつといガラガラちゃんが羨まची羨まचीなんじ
やないでちゅかあ?」

勇者

「羨ましくなんて…ん…」

メーテル

「ほおら坊やあ。よくみるんでちゅよお。ぶつといガラガラさ
んがこの汗ばんだむれむれおっぱいのふかあい谷間にはちゃまれ
てえ、いい子おいしい子お」

メーテル

「じゅりゅじゅりゅたぽたぽたじゅりゅじゅりゅたぽたぽお」

メリッサ

「ああ、魔王様のおっぱいがたぶたぶ波打ってまちゅよお、もにゅんと柔らかさそうで思わずキンタマにバブバブママちゅき汁が大量生産されそうでちゅえね。バストH2O越えの爆乳だぶだぶおっぱいにサンドされたらガラガラさんもバブバブ止まらなくなりまちゅよお」

メーテル

「んふ、これが我が家のパイヨチご褒美でちゅよお。カランカラんってガラガラしゃんが喜んでるのがわかりゅよねえ」

勇者

「ん…こんなもの見せたぐらいでボクが屈するはずが…」

メリッサ

「あらあら、そういうわりにはお口からヨダレたらしちやってまちゅよお」

勇者

「なっ…そ…そんな…」

メーテル

「よだれかけちゅけててよかったでちゅねえ。でもどうちたのかにゃあ？もちかちてママの濃厚母乳パイパイ見てたらお腹すいてきちゃったのかにゃあ？」

メリッサ

「あらあ。ほんととはあううう。おっぱいいい、パイパイっ！デカパイママミルクほちい！なんでちゅかあ？」

勇者

「ううう…」

メリッサ

「くす、仕方ありませんね。ではご主人ちゃま、これを…」

勇者

「これって…」

メリッサ

「見たらわかりまちえんか？**お・ちや・ぶ・り**でちゅよ？はい
あーん」

勇者

「んむむうううう」

メリッサ

「いくら抵抗しても無駄でちゅよ？これは魔法のおしゃぶり。
100回ちゅばちゅばするまで自分では外せまちえんよ」

勇者

「んむうううむうう」

メーテル

「あらあ、良かったでちゅねえ。本物のパイパイではないけれど、赤ちゃんプレイマニアさんはそれだけでマジヤコンチンポからオギャ汁ぶっこぬいて大人バブバブアクメできるよねえ」

←勇者**「おしゃぶりを啜えた状態」**

開始

勇者

「んっむっつっつっつ」

メリッサ

「ほおら一杯乳首バキュームちてちゅばちゅばちまちようねえ。
そうなさらないとじゅっとおちやぶりちゅけたままになっちゃい
まちゅよ？頭の中、ママの柔らかくて**おいちいおいちいムツム**
チパイパイで一杯にちて、無力な赤ちゃんみたいにバ力になっちゃい
まちようねえ」

メーテル

「坊やあ、ママのむにゅむにゅパイジュリを見るのも忘れちゃだめでちゅよお。ガラガラさんがパイヨチ爆乳お母さんに躡けられている所ちっかり見て、ずっしりキンタマに**おんぎゃあ**おちっち溜めるのよ」

メリッサ

「クスクス、パイパイさんとガラガラさんはとっても仲良しさんでちゅねえ」

メーテル

「ほら見てくだちあい。ガラガラさんが母乳ぶびゅぶびゅパイパイに飲み込まれてまちゅねえ。こんにゃにかたくて**ぶつ**といオスマラガラさんもママの**むっちむっち**パイパイには勝てないでちゅねえ」

勇者

「んんむううう」

メーテル

「あー怖くないよお。ガラガラさんはバブバブおっぱいバトルに負けちゃったけどとってもちあわちえだよお。ほおらこのままおっぱい**たぶたぶるぶる**させてえカランカラン。おんぎゃつ**おんぎゃ**ってちあわちえそつな赤プレ声が聞こえるよねえ」

勇者

「んむう…」

メリッサ

「まさかガラガラさんと自分を重ね合わせて思わずチンデカおん
ぎゃあしてしまったのでちゅか？」

勇者

「んむううううう」

メーテル

「あらあら。にやんて言ってるのかなあ？ボクにもバブバブおっ
ぱいご褒美くだちやあいつて甘えてるのかにやあ？」

メーテル

「うーん、わかりまちえんねえ。坊やのお口はおちゃぶりママち
ゅっちゅで忙しいみたいだちい、それならおむちゅの中でだっだ
ちてるおチンポチンポしやんに聞いてみまちようねえ」

勇者

「んむううううむうううう」

メーテル

「今おむちゅ開いてあげまちゅからねえ。はあい、よわよわおち
んちんしゃんこんにちわあ」

勇者

「んむうううううううううう、ん、んんんん♡♡♡」

メーテル

「あらあら、くっさあ♡でっかあ♡」

メーテル

「まるでよちよち親子セックス寸前のチンポくささと大きさです
わあ。おおお♡おほおおお♡と思わずこのチンポでドスケベ腰振
りマンズリしたくなりそう♡」

メリッサ

「くすくす。オチンポ育児史上最長記録といったところでしょうか。健康的な赤ちゃんでママうれちいでちゅよ。乳揺れママレイブのしがいがあって素晴らしいです」

勇者

「んふうー♡んふうー♡」

メーテル

「うふふ、赤ちゃんオチンポ、弱あいくちえにこんにゃに背伸びしちやって…。母性本能むき出しレイパーと化したママたちにしちゅけて欲ちく欲ちくてたまらないみたいでちゅねえ」

メリッサ

「あらあら、しかも魔王様見てください。チンカスオチンポのくっさい裏筋にある勇者の印が今にも消えそうになっていますわ」

メーテル

「あらほんと。もうママたちに敗北**んぎゃあ**バブバブしちゃうのお?」

勇者

「んふう、ふうー、ふうー♡」

メリッサ

「くすくす 顔真っ赤でちゅね。でもやはりこんない子にはご褒美がひちゅようではありませんか」

メーテル

「それでちゅねえ。逞しチンポしゃんがお母さんの子宮めがけて胎内回帰願望をこんなにむき出しにちてまちゅからねえ」

メーテル

「じゃ・あ♡ 坊やがきもちよくアンヨばたばた赤ちゃんになれるように『クソデカ赤ちゃん誕生確定のおデカデカパイパイチチおむちゅ』ちてあげる」

メーテル

「ああ、大丈夫でちゅよ？ ガラガラさんといっちょによっちゅのミルクタンクおっぱいちゅかって仲良しおむちゅちてあげまちゅからねえ」

勇者

「んむうううううう♡」

メーテル

「さあ乳奴隷よ。母乳発射寸前のそのパイパイをむにゅんと持ち上げなさい。この子の母性孕ませ汁をヌキヌキちて一緒に坊やの中の勇者ちゃまをナイナイいたしましょう」

メリッサ

「かしこまりました。ママパイおむちゅ奴隷として、勇者どつぴゅんチチズリチンコキに励ませて頂きます」

勇者

「んんんー！」

メーテル

「うふ、ならさっそく…」

メーテル

「おちんちんしゃんないないない」

メリッサ

「おちんちんしゃんないないない」

勇者

「んぎゅううううううううう」

メーテル

「あらあ、坊やの**ばぶばぶ**うんなおちんぽしゃんがデカチチパイパイ沼の中に隠れちゃいまちたねえ。よつちゅの**お乳くっ**ちゃいむれむれあったかパイパイが**むちゅ**うううってくっちゅいてバブオナ中毒チンポをイナイイナイだあ」

メリッサ

「あーほんとでちゅねえ、マジヤコンオチンポしゃまもご主人ちやまと同じではじゅかちがり屋しゃんみたいでちゅねえ」

メリッサ

「腰振り甘え母子交尾のようににおっぱいた**ぼったぼ**おっ**ブルブル**うと揺さぶれば、びっくりちてバブチンポ出てきまちゅかねえ？」

メーテル

「ためしてみまちようかあ？このよつちゅのでかすぎパイパイを小刻みにふるわせてえ、**たっぽたっぽ**お」

メリッサ

「**た**ぽ**た**ぽ**た**ぽお、**た**ぽ**た**ぽ**た**ぽお、**た**ぽ**っ**つ**た**ぽ**っ**つ」

メーテル

「**だ**っ**ぽ**だ**っ**ぽ、**だ**ぽ**だ**ぽ**だ**ぽお、**か**らん**か**らん**っ**か**らん**からあ**ん**」

勇者

「んむうっ」

メーテル

「あーん、坊やのおちんちんしゃんとってもうれちそう。もっとたぽたぽちてヨチヨチしてあげまちゅよお。はあ**いたっ**ぽ**たっ**ぽ。**ぶるぶるぶる**っ」

メリッサ

「おちんちんしゃんいい子いい子お、むちゅっっっ」

勇者

「んふう、ふうふう」

メーテル

「あーガラガラさんとおちんちんしゃんは仲良しさんでちゅね

え。**チンポおぎゃあチンポおぎゃあ**って喜んでるからガラガラさんもカランカランってなってるねえ。爆乳ママパイマニアのお友達みちゅけられてうれちうれちいだあ」

メリッサ

「あらあらあ、お友達が増えてうれちうれちいでちゅねえ。ちよつとたふたふつてするだけで二人ともちゅっごく喜んでくれまちゅよあ」

メーテル

「うふふ、このままこのお友達に**おんぎゃあ赤ちゃん**プレイマニアなのカミングアウトちまちようか？」

メーテル

「『ほんとのボクはベビーグッズ装着ちて大人赤ちゃんスタイルでバブチンポ高速センジュリちゅるのがだあいちゅきでちゅうっつ』」

メリッサ

「『アンヨ大開脚ちて**おんぎゃっほんぎゃああ**あってちえかいーよわいちゅがた晒すのがオスチンポにきくのお。デカパイママのこと考えながらマジヤコンチンポ自分でヨチヨチ大ちゅきでちゅよってしゅるのちゅきっ！足ピンバブバブだいちゅぎい』」

メーテル

「『あーまんまあまんまあちゅきい、マジヤコンおんぎゃあカミングアウトきもひいいい。今度チチデカマンマで、アンヨあうあうバブバブママせんじゅりキめるから、ドデカ赤ちゃんアクメみてくだちゃあい』…なんてね」

勇者

「んむうううう」

メーテル

「あらあら真つ赤なお顔。それではガラガラさんに赤ちゃんカミングアウトちたも同然でちゅね？」

メーテル

「ん、でもおちんちんしゃんまだパイパイからでてきまちなねえ。オチンポしゃん**おんぎゃあ**カミングアウトではじゅかちはじゅかち？それともママたちの乳首ビンビンパイパイがおつきすぎておちんちんしゃん迷子になっちゃたのかにゃあ」

メリッサ

「大変！一人でうえーんうえーんって泣いてまちゆかね？はやくおちんちんしゃんたちちゅけてあげにゃいとでちゅねえ」

メーテル

「ああ大丈夫でちゅよお。今度は爆乳いいないないばあでおぎやりカウパーえんえんちてるバブバブオチンポをたちゅけてあげまちゆからねえ」

メーテル

「もつと激しくパイパイを上下にじゅりじゅりむちゅむちゅむつちゅんちゅればビキビキチンポもママのお顔が見たくなつてばぶうばぶうううううとでてきまちゅからねえ。だから安心ちてねえ」

メリッサ

「あゝよかったでちゅねえ、**よわあい**ご主人ちゃまは**ちゅよ**おい
ママたちに任せていればいちゅでも安心チンズリタイムでちゅね
え」

メーテル

「はあい、いきまちゅよお。乳圧ちゅよめてえ、ほおらいにやあ
いいにやあいばあ」

メリッサ

「いなあいいなあいばあ」

勇者

[illegible]

メーテル

「おちんちんしゃないなあいいなあいばあ」

メリッサ

「おちんちんしゃんいにやいいにやあいばあ」

メートル

「いなあいいなあい・・・・・ばあ」

→メートル【右耳元で囁き】
終了

メリッサ

「いなあいいなあい・・・・・ばあ」

メリッサ

「むにゅむにゅおちゅけて、じゅりじゅりにゅるにゅるってヨ
チヨチちて、また赤ちゃんオチンポチンポに戻りたいでちゅか？
バブバブ子守必須の**ゲキヨワ敗北チンポ**に戻っちゃいまちゅ
か？」

メーテル

「戻りたいでちゅよねえ。おちんちゃんも赤ちゃんに乳児退
行ちてパイパイミルクを**んくう、んくう、ばぶうん**ちたいよね
え。いいでちゅよお。パイパイママたちのコリコリになった巨大
ぼつきん乳首さんをおちんちゃんにじゅりじゅりちて、デカ
パイミルクを**ばにゅっぱにゅっぱしゅしゅうううう**って一杯あ
げようねえ。オギヤオギヤおちんちゃん**はベトベト**にゅるに
ゅるになるのも大ちゅきだから一発チンポKOかもちれまちえん
よ。ほおらじゅりじゅりい」

勇者

「んふ、んふう、んふうっ」

メリッサ

「じゅりじゅりじゅりい。あああん。おちんちゃん**の裏筋**に
ぼっぱ乳首がこすれて母親母乳がびゅぶびゅぶ溢れてきちやい
まちゅねえ。おちんちゃんどうでちゅかあ？ママたちの**濃厚**
ブrendパイパイミルクおいちいでちゅかあ？」

勇者

「んんんん————」

メーテル

「ああー、デカパイ乳首ミルクおいちいの？良かったでちゅねえ。一杯一杯ママたちの赤ちゃんあやしミルクをおちんポしゃんでんくんくちてね」

メーテル

「一杯おっぱいも出ちてあげるからねえ、ほおらぶしゅうううううう、ぶっしゅうううううう」

メリッサ

「あは、やっぱりレベル100のぱっと見最強オチンポちゃまもママぱい**チュパチュパ**がだあいちゅきみたいでちゅねえ。レベル100が聞いて呆れちゃいまちゅよお。どんな屈強な戦士さんの、孕ませ特化型オスマラ神チンポでもホントはヒーリング**おんぎゃ**あちたくてちかたない**マジヤコンよわチンポちゃん**なんでちゅね」

メーテル

「よちよち。でもそれでいいんでちゅよお。坊やはゆっさゆっさパイパイに勝てにやいよわい子。ママはね、坊やにそれを分かつてほちいの。ああ大丈夫でちゅよ。もちろん頭悪すぎ赤ちゃんだから理解するひちゅようなんてないの。だから体にこのデカパイで教え込むの。坊やが**チンポおんぎゃあ**しゅるまで、ママたちが何度でも何度でもこのいきりオスチンポをママちゅき赤ちゃんにちてあげる」

メーテル

「パイヨチママとママのたっぶんパイパイには勝てにやいってこ
とをオチンポしやんに教えこんであげるの。即おぎやおぎやママ
パイアクメきめさせられて、もうデカパイ巨乳ママには勝てまち
えんってわからせるの」

←メーテル「右耳元で囁き」 開始

メーテル

「こーやって何度でも」

←メリッサ「左耳元で囁き」 開始

メリッサ

「はいはいむぎむぎむ」

メーテル

「はいはいたぶたぶ」

メリッサ

「はいはいゆっさゆっさ」

メーテル

「はいはいはいじゅりじゅりい」

勇者

「んむう」

メーテル

「何度でも何度でも何度でも」

メリッサ

「毎日毎日あーあーの赤ちゃんがえり」

メーテル

「毎日毎日敗北だっだあの赤ちゃんバブバブ」

メリッサ

「朝起きたら全裸爆乳お母さんから朝のチュパチュパデカパイミ
ルク授乳」

メーテル

「くっちやいマゾおむちゅかえて、ママのやわパイに顔をうじゅめて朝から本気おんぎゃあ授乳」

メリッサ

「おっぱいっおっぱいっ」

メリッサ

「そのままアンヨ高速おんぎゃあちてドスケベチントレ開始。マジヤコン敗北赤ちゃん言葉でママママ屈服おんぎゃあアクメ」

メーテル

「パイパイっパイパイっ」

メーテル

「乳揺れパイパイに囲まれながら赤ちゃんおもちゃでチンポフリフリおんぎゃあトレーニング」

メリッサ

「あうあうだっだあっおんぎゃっおんぎゃっ」

メリッサ

「昼はご褒美に授乳ヌキヌキチンポ手コキ。デカパイじゅうじゅうつうつとちゅいのばちてバキュームお口交尾ちていいんでちゅよ」

メーテル

「ばぶぶぶぶぶぶばぶぶぶぶぶぶ」

メーテル

「ママたちがおむちゅの上から中から本気チンポ手コキしまちゅからね。おっぱいぶるぶるたため揺らしながら爆乳母乳ミルクプレイでチン負け敗北おむちゅ、交換しまくりでちゅよ」

メリッサ

「おっぱいっいっいっ、ぱいぱいっいっいっ」

メリッサ

「そこからちゃきはママたちのデカパイデカ尻レイプタイム」

メーテル

「デカパイ懇願おまるアクメからのおまるウンチブリブリタイムでケツ穴敗北大公開プレイ。その後は母性ヨチヨチ甘えんぼプレイで安らぎながら**チンポおんぎやあチンポおんぎやあ**」

メリッサ

「デカパイミルクママたちのでかすぎパイパイ抱っこプレイの始まりでちゅね。乳肉閉じ込めぎゅうぎゅう抱っこで、おっぱい揺りかご小刻みどんぶらこ。チンヌキパイパイに埋もれて**おんぎやああち放題**」

メーテル

「**おっぱいいいママおっぱいいい**」

メリッサ

「そして夜になったらあ…ああ♡」

メーテル

「夜になったらそうですわね♡」

メーテル

「**あぶっっっっ、あっっっっ**」

メリッサ

「**はぶはぶはぶはぶ**っっっん」

メーテル

「**あっあっあっっっっっ、あっあっあっ、あぶっっ**」

っ

メリッサ

「ああ、あああああ、だっだあああああ。だっだあ
あああああああ」

メーテル

「**んぎゃあああああおんぎゃあああああ**」

メリッサ

「**おおおお♡おほおおお♡おんぎゃあああああ**」

←メーテル【激しく泣く赤ちゃんの真似】

メーテル

「おぎゃっおぎゃっあんぎゃああああああおぎゃっおぎゃ

っあんぎゃあああああああ

」

←メリッサ【激しく泣く赤ちゃんの真似】

メリッサ

「おぎゃっおぎゃっふんぎゃああああああおぎゃっおぎゃっふ

んぎゃあああああああ

」

メーテル

「ばぶばぶ♡ばぶばぶ♡ばぶばぶ♡ばぶばぶ♡ばぶばぶ♡

メリッサ

「ばぶばぶ♡ばぶばぶ♡ばぶばぶ♡ばぶばぶ♡ばぶばぶ♡

メーテル

「まんまああああママあああああああ

メリッサ

「おぎゃっおぎゃっおんぎゃっおんぎゃっおんぎゃっふんぎゃ

っ

勇者

「んむっんむっんむっんむっんむっんむっん」

メリッサ

「うふふ、バブバブマジヤコンおっぱいせいかちめたのちみでち

ゆねえ」

メーテル

「ママのどたぶんパイパイでちよだてて」

メリッサ

「ママの柔らかパイパイで赤ちゃんにかえます」

メーテル

「何度でも何度でも」

メリッサ

「そちららじゅうつとじゅうつとママたちは爆乳子育てできる
ね」

→メリッサ【左耳元で囁き】 終了

メーテル

「坊やはじゅうつとじゅうつとママたちのドデカ赤ちゃんでいら
れるねえ」

→メーテル【右耳元で囁き】 終了

勇者

「んーん！んーん！」

メリッサ

「くすくす。今のがチンポに効きまちたねえ。ガラガラさんもぶ
つといビキチンオチンポちゃまも**オギヤアオギヤア**と喜んでまち
ゆねえ」

メーテル

「くすくす、ちよんな甘えん坊ちゃんにはもつとじゅりじゅりち
ゆよめてあげまちゆからねえ」

メーテル

「二人の授乳待ち乳首をこすり合わせてえ、お母さんデカパイミ
ルクびゅっぶびゅっぶさせるからね。谷間をぬっちゃぬっちゃに
ちて母乳まみれで**オチンポおんぎやあ**でちゅよお」

←メーテル【右耳元で囁き】 開始

メーテル

「はあいおちんちゃんいないいないばあ」

←メリッサ【左耳元で囁き】 開始

「ガラガラさんもないいなあいばっ」

メーテル

「仲良しさんといないないばあ」

勇者

「んふう、んふう、んんんん」

メーテル

「ウフフ…ねえ坊や…そろそろ負けちゃいまちよう？坊やはもう魔王に勝てにやいのは分かったよね？」

メリッサ

「ちゅらいちゅらあい勇者なんかナイナイちまちよう」

メーテル

「ママがいるなら安心ちて赤ちゃんに**おんぎやあ**クラスチェンジ
できまちゅよお」

メリッサ

「赤ちゃんは奴隷以下のいちばあん**よわあい**クラスでちゅけど、
おっぱい一杯で一ばあんちあわちえなんでちゅよお。よかったで
ちゅねえ」

メーテル

「もうレベルあげもちなくていいの。大丈夫。よわあいよわあいの怖くない怖くない。爆乳子チたぶママたちが守ってあげまぢゅよ」

メリッサ

「一人でにゃんにもできなくてもいーのでちゅよ。こっではじえんぶいい子いい子おっぱいでちゅよ」

メーテル

「**よわあいよわあい**、いい子いい子いい子お」

メリッサ

「お漏らちびゅっぴゅ、いい子いい子いい子お」

メーテル

「一杯おっぱいおむちゅにぴゅっぴゅちていいよ。ママたちの最強つよつよパイパイが坊やのぴゅっぴゅ受け止めてあげまぢゅよ」

メリッサ

「だから…おんぎやあおんぎやああああちてくだちゃい」

メーテル

「あぶううう、ばぶうううとお腰へこへこママパイチュキチュキぴゅっぴゅしちやいまちよう」

勇者

「んふう、ふうふう」

メーテル

「勇者にゃんかナイナイ」

メリッサ

「我慢我慢もうナイナイ」

メーテル

「おいで、ママのもとへ」

メーテル

「ぎゅっっっっっっっっっっっっ」

→メーテル【右耳元で囁き】 終了

メリッサ

「ぎゅっっっっっっっっっっっっ」

→メリッサ【左耳元で囁き】 終了

勇者

「んむっむっっっっっっっっっ」

メーテル

「もう勇者ごっこのお時間はおちまい。そろそろデカパイママたち
に坊やの答えを聞かせてくだちゃい。ほら、おちゃぶり外ちま
ちゅよ？もうとくに100回以上チュパチュパちゅうちゅうちま
ちたよね？」

勇者

「ちゅうぱ、ああ、おちゃぶりい！」

メーテル

「あらあら…おちゃぶり涎で一杯。おちゃぶり取れるようになって
いる事にきぢゅいていた癖に夢中でちゅうちゅうちてまちたも
のね」

メリッサ

「あらあらくすす」

勇者

「ああ、ああ♡ちがつ…いわにやいでえ♡」

メーテル

「んふ♡でもちようがないでちゅよねえ、坊やも甘やかし授乳パ
イパイほちほちだったんだものねえ。おちんちんしゃんだけ巨乳
おっぱいでじゅるいよねえ。坊やもアンヨを赤ちゃんスクワット
させながらパイパイちゅぱちゅぱあ、んんぎゃあ、おんぎゃああ
ちたいでちゅよねえ」

勇者

「あああ、おっぱい…♡ああでもお♡」

メーテル

「坊やあ、もう勇者ナイナイちてデカチンポのちゃきから、噴水みたいにチン汁バブバブじょおじょおちて、あうあう赤ちゃんになりまちょう。爆乳大ちゅきつ大ちゅきって赤ちゃんなのにオスチンポ欲求さらちていいの。ドデカ大人赤ちゃんはチン汁たぎらせて授乳チンポ抜きやヨチヨチあやしプレイを待っていればちよれでいいの」

メーテル

「あなたはママの**とくしゅ赤ちゃん**。ママがじえんぶちてあげるから。ほおら例えばこうやって**むっちゅううううううん**って」

勇者

「んぎゅう、んあ、ああっおっぱいがっ」

メリッサ

「くすくす、やっぱり限界なんでちゅね。またママとママの**ぶるつぷる**パイパイに勇者ちやまが負けちやいまちゅね。勇者ちやまは奴隷にママパイ揺らされただけで負けてしまっ**チンザ**」**おっぱい赤ちゃん**でちゅね？」

メーテル

「でもそれでいいんでちゅよ。想像ちてごらんなちやい？レベル100の**ちゅよ**おおい勇者様がドデカ赤ちゃんの恰好でチンポビンビンにおったてて、爆乳オムチュサンドイッチに**バブーバブー**っ、**おんぎやああああおんぎやああ**と白いおちっこびゅびゅちゅるところを」

勇者

「んあ、やめ、やめて…あう」

メリッサ

「あらあらあ、ちゅよいはじゅの勇者ちゃま、よわよわちゅぎてはじゅかちいでちゅね。みんなのヒーローはじゅ**デカパイおむちゅマニア**の**マジヤコン**さんだったなんて誰にもこんなところ見せられないでちゅね？」

メーテル

「でもね…いいんでちゅよ。ここでは坊やの**おんぎやあ**の全てが許されるの。ううん、ほんとともう既に…じえんが許されてるの」

勇者

「はあはあ、それはどういう…」

メーテル

「坊や…ほんとのこと言うとな、お母さん…じえんが分かっているんでちゅよ？」

勇者

「な、なんの…はなしっ…」

←メーテル【右耳元で囁き】 開始

メーテル

「坊やの…あぶう、ばぶう、ばぶばぶばぶううまんまあああ
まんまあああああな気持ちよ。ママね、マザーサキュバスの
能力で心の声が聞こえるのよ。ママずっとあなたのおんぎゃあ声
聞いてたんでちゅよ」

勇者

「は…？な、なにを…言つて…」

メーテル

「ほら、そのちようこにママが今のあなたの気持ちあててあげ
る。『嘘だ、嘘だ嘘だあ、心が読める…？そんな訳…でももし本
当ならいちゅからばれて…ううん、もしかして今この瞬間にもば
れて…今ちよつとも甘えたら…やば…チンチンたつう、ああ、
こんなの無理…勝てにやい…赤ちゃんなるのお！』」

勇者

「ああ、そんなあ、こんなこと思っていないよお」

メーテル

「『うそですう！思ってますう、この気持ちもばれちゃうのお、
ほんと赤ちゃんりたいのじえんぶばれちゃうつう、おおお、
おほおおお、バブバブばれちゃうつう』」

勇者

「あああ、あああああ」

←メリッサ【左耳元で囁き】 開始

メリッサ

「ああん、勇者ちゃまとあろうお方がそんなことを思ってたんでちゅかあ？弱ちゅぎですう。バブバブ強制力ミングアウト、無能デカチンポにききまちゅねえ。変態ドマゾあうあう勇者ちゃまなのばれるの気持ちいいでちゅねえ？」

メーテル

「ママという存在は**バブバブおんぎ**や**あ**ちか言えない赤ちゃんの事をわかってあげにやいといけないんでちゅよ。だからこの能力こそ最強のママに相応しい力。坊やのおんぎやあデカパイママ願望は最初からじええんぶちゅちゅぬけえでちゅよお♡」

メーテル

「『おっぱい、パイパイ、デカパイちゅきい♡いちゅまけちゃおうかなあ、ここで赤ちゃんなるって言ったらどうなるかなあ？おおお、おほおおおお、負けたい負けたいまけたいつあのでかい爆乳ミルクにおんぎやあ甘えたい、甘えたいっ』」

メーテル

「『勇者なんてゴミクラスやめて、エリオみたいに、みつともなくバブバブちたいでちゅううううう』」

メーテル

「『いやボクは勇者だからもっと耐えてから**おぎやおぎやおんぎやあああ**しちやおう。デカパイ実母ミルク絶対もっとチンポにきくう。だからもっとあやちて、バブバブさせてえ』」

勇者

「おおおお、おほおおおおお、いわなにやいで、いあわにやいでええええええ」

メリッサ

「あらあら、なんて最低な**おんぎやあ**カミングアウトでしょうか。全てはママヨチデカパイミルクパイジュリでキンタマ汁溜め込んで、**お母さん大ちゅき**いittoアンヨばんじやい大噴射するための演技だったんでちゅねえ」

勇者

「やめ・・・て…言わないでえ♡」

メーテル

「『言ってえ、もっと言ってえ、クソザコ赤ちゃんのバブバブおぎやりチンポあやちてえ』」

勇者

「おおおおお、今のきくうっつっつっつ」

メーテル

「『デカチンポおんぎやあおつきんとまらないでちゅうっつ、お

ぎやっおんぎやあああああ』」

勇者

「おおおお、おおお、おおおお」

メリッサ

「くすくす、あと一息でちゅねえ。あと一息でママたちのでっかい**おっぱい赤ちゃん**です」

メーテル

「もういいんでちゅよ。これで最後にちまちょう。おっパイパイでハイスピードたふたふママじゅりちてあげるから、中でキンタマ裏切りミルクぴゅっぴゅなちやい。大丈夫。はじゅかちいはじゅかちい敗北確定パイチュキおちつちはママたちのパイパイおむちゅがじえんぶ受け止めてあげまちゅよ」

メリッサ

「おっぱいおむちゅにマジヤコンバブたんカミングアウトちながらあちゅういおちっこ一杯お下劣しーしーちてくだちゃいねえ。

チチズリおむちゅに爆乳ママちゅきちゅきしーしーできたら自称勇者ちゃまは立派な躰済みママ赤ちゃんになれまちゅからね」

【パイズリス・ブードアップ】

メーテル

「じゅりじゅりだっぽんだっぽんスピードアップ。坊やの初めで、ママの乳庄パイパイおむちゆの中に頂戴」

勇者

「ああ…んあ♡おおお♡」

メーテル

「パイパイ横にゆらちてぶるうんぶるうん」

メリッサ

「乳圧ちゅよめて、じゅるうん、じゅりっいいいいん」

メーテル

「ぱちゅんっ♡ぱちゅんっ♡たぽんっ♡たぽんっ♡」

メリッサ

「乳肉ウエーブでぬっぽぬっぽ、爆乳パイ圧ぎゅうぎゅうっ」

「**いんげん豆**」

メーテル

「ガラガラさんもからんからん」

勇者

「んぎゅうつ、らめえ」

メーテル

「じゅうつとじゅつと我慢ちてきたんだもんね」

メリッサ

「縦に小刻みママパイパイバイブでぶるうんぶるうん」

メーテル

「バブちゃん一杯チンズリおっぱいおむちゅ頑張ったからもうア

ンヨばたばた足ピン赤ちゃんの時間にちまちようねえ」

メーテル

「だから 坊や 私たちのことを呼んで？」

メリッサ

「それは赤ちゃんだけが言える魔法の言葉」

メーテル

「ちあわちえになるための呪文」

メリッサ

「それが勇者の呪いを解く呪文」

メーテル

「赤ちゃんになれる魔法」

メーテル

「ねえ」

メリッサ

「呼んで」

メーテル

「おねだりして」

メリッサ

「私たちの**赤ちゃん**になってくだちゃい？」

勇者

「あ、ああああ…」

メーテル

「よく頑張ったね」

メリッサ

「ちゆらかったよね」

メーテル

「もう大丈夫でちゆからね」

メリッサ

「甘えてもいいんでちゆよ」

メーテル

「ママがちよばにいるからね」

メリッサ

「だから**赤ちゃん**みたいに泣いていいの」

メーテル

「ぴゅっぴゅちてもいいんでちゆよ」

メリッサ

「ゲームオーバーの呪文、ちってるでちよう」

メーテル

「たった一言。マで始まって」

メリッサ

「マで終わる言葉」

メーテル

「坊やの甘えた泣き声…ママたちに聞かせて…」

メリッサ

「バブバブちても大丈夫」

メーテル

「負けてもいいの」

メリッサ

「赤ちゃんでいいの」

勇者

「..おおっお..お♡がでにゃあいいい、がでにゃあいいいよお」

メーテル

「ほおらトドメの**おんぎゃあ**デカパイタイム、スタート♡」

メリッサ

「フルパワーパイチチおむちゅでむぎゅむぎゅ屈服させまぢゅよ

お」

←メーテル「スピードアップ囁きは継続」

開始

メーテル

「『ああいきゅううう、だちまぢゅだちまぢゅううう、赤ちゃんな

りまぢゅううう、チチズリ爆乳おむちゅで**おんぎゃあ**バブチンポ

屈服ドッピュンコさんちまぢゅううう。アンヨあうあうだっださ

せながらチチズリオムチュサンドイッチで**デカパイおんぎゃあ**汁

ぶっこぬきまぢゅううう。みてみてえ、赤ちゃん**おんぎゃあ**あアン

ヨ、おっぴろげバブバブみてえええ』」

メーテル

「『おおお、おおおほおおお、いきまぢゅうう、今ママパイどたん

ぶんのむっちゅり谷間から敗北**おんぎゃあ**あ汁こんにちはバブバ

ブちまぢゅううう。赤ちゃん**おんぎゃあ**プレイで精通ちてバブバ

ブパイパイマニアにそだちまぢゅううう』」

勇者

「おおっ♡おお♡♡じえんぶばれてるっ♡バブバブばれてるっ♡」

メリッサ

「おむちゅ、ベビー帽、よだれかけ、おちゃぶり、ロンパース、おまる、ベビーベッド、オルゴールメリー、哺乳瓶、ガラガラ、ベビーカー、ママ、おっぱい、おつきなパイパイ、デカパイママミルク」

メーテル

「ママ、ママ、ママ、まんまあ、まんまあ、デカパイママ、デカチチお母さん、おっぱいママ、爆乳ママ、パイパイお母さん、お母さん、お母さん、お母さん、お母さん、マンマ、マンマ、マンマ、マンマ、ママあ、ママあ、おっぱいママあ」

メリッサ

「たっばんたっばんたっばんたっばんたっばんたっばんたっばんたっばんたっばんたっばんたっばん」

メリッサ

「たっぶたっぶたっぶたっぶ」

メーテル

「じゅっぶじゅっぶじゅっぶ」

メリッサ

「にゅっぶにゅっぶにゅっぶ」

メーテル

「ぶりゅんぶりゅんぶりゅんぶりゅん」♡

メリッサ

「にゅっぽんにゅっぽんにゅっぽんにゅっぽん」

メートル

「おっきな赤ちゃん、ドデカ赤ちゃん、でかすぎ赤ちゃん、巨大赤ちゃん、規格外赤ちゃん、大人赤ちゃん、赤ちゃんになりたい赤ちゃんになりたい赤ちゃんになりたい赤ちゃんになりたいでちゅっうっうっう、ちゅきいいい。じゅぎいいいい」

勇者

「おおおおお、いぐううぐうう、チンポおぎやるっうっうっう、ばぶばぶじゅるっうっうっう」

メートル

「チンチンにゅぽにゅぽいないないばっ！」

メリッサ

「チンチンにゅぽにゅぽいないないばっ！」

メートル

「赤ちゃんじょうじゅ赤ちゃんはおじょうじゅ」

メリッサ

「バブバブじょうじゅ、バブバブはおじょうじゅ」

メートル

「坊やは赤ちゃん、坊やは巨大赤ちゃん。赤ちゃん赤ちゃん赤ちゃん赤ちゃん」

メリッサ

「ご主人ちゃまは赤ちゃん、ご主人ちゃまはドデカ赤ちゃん。赤ちゃん赤ちゃん赤ちゃん赤ちゃん」

メートル

「よわチンポよわチンポ赤ちゃんチンポお」

メリッサ

「ザコチンポザコチンポバブちゃんチンポお」

メートル

「よわすぎいい♡ぎっこいい♡ちよろおい♡」

メリッサ

「無能で変態♡最低でお下劣♡」

メーテル

「ほおらママの言うこと聞きなちゃい！」

メリッサ

「ほおらママの言うこと聞きなちゃい！」

メーテル

「だあいちゅきでちゅよ。ママのおっきな赤ちゃん？」

メリッサ

「だあいちゅきでちゅよ。ママのおっきな赤ちゃん？」

メーテル

「クソザコ赤ちゃんお誕生日おめでとうう」

メリッサ

「クソザコ赤ちゃんお誕生日おめでとうございますう」

メーテル

「はあい坊やの負・け♡」

→メーテル【右耳元で囁き】 終了

メリッサ

「はあいご主人ちゃまの負・け♡」

→メリッサ【左耳元で囁き】 終了

【絶頂】

勇者

「んあああ…まんまあああああああああああああ♡」

メリッサ

「んああ」

メーテル

「んんん…赤ちゃん坊やあ…最低よわわチンポ、母親パイパイ

に甘えておんぎゃあバブバブアクメちてるのがみえまぢゅよお、

えらいねえ。いい子でぢゅねえ」

勇者

「んんんぎゅうううう、まま、まま、まま、まま、まんま♡んは

あ、んはああああ、おほおおおお」

メーテル

「坊や…坊や…素敵…。ママは見てまちゅよお。坊やのはじゅか
ちい**おんぎ**やあちゅがたじえんぶみてまちゅよお。ママの谷間か
ら、赤ちゃんプレイで精通ぴゅっぴゅぶりゅぶりゅちゅるところ
ママはちゃんとみてまちゅよお」

勇者

「まんまあつまんまつあああ♡おぎゃっおぎゃっおんぎやあ
ああああおんぎやあああああ、あああああ」

メリッサ

「ちゅごい、びゅっぷびゅっぷってパイパイおむちゅの中に溢れ
てきてますう、赤ちゃん**おんぎ**やあでせいちゅうちて、バブオギ
ヤマジャコン性癖がチンポにガッチリ固定されてまちゅよお、お
母さんの前で赤ちゃんの服着て**おんぎ**やあ**アン**ヨちないとおむち
ゅにチンポどっ**っぴゅん**できにやい体に馴染けられていまちゅよ
お」

メーテル

「あくあちゅい…、こんにやにいつぱあい。んぶ、じょうじゅに
せいちゅうできて偉いねえ、しゅごいねえ」

←メーテル【右耳元で囁き】 この台詞のみ

メーテル

「坊やのせいちゅう赤プレ汁、おっぱいおむちゅの中に貰っちゃ
っいまちたあ」

メーテル

「ああ素敵、毎日この息子汁だけでこのデカパイむっちゃんボデ
イを洗いたいぐらいですわあ」

勇者

「おお♡おおお、おほおおおおお、んはあ、まんまつ、ま
んまあ…♡」

メリッサ

「ああん、パイパイの間からまだでできますう。 **おぎゃあおぎゃ**
あと種ぢゅけ失敗ちつこが溢れてきますう」

メーテル

「あーいい子いい子お。大丈夫でちゅよお。最後までママたちが
デカパイ大ちゅきおちつち搾り取ってあげまちゅからねえ」

←メーテル【右耳元で囁き】 開始

メーテル

「むぎゅっっっっっっっっっっっっっっっっ」

←メリッサ【左耳元で囁き】 開始

メリッサ

「むぎゅっっっっっっっっっっっっっっっっ」

勇者

「んほおおっおおおおお、ぱいぱいつ、おっぱいちゅきい
いいっっっっっっっっっっっっ」

勇者

「んああ、あぶう、ぶうっっ、っっっっっっ、ぢゅぎい、い
れだいじゅぎい」

メーテル

「ん…全部だちえたみたいでちゅねえ…うふふ、そのお顔…素敵
だわ…、それこそ私が望んでいたデカパイ赤ちゃんのお顔」

メリッサ

「くすくす。でもまだ終わっていませんよ魔王様。ご主人ちゃまが頑張った証をその目で見てあげなくてはなりません」

メーテル

「ええ、そうですね。じょうじゅに赤ちゃんお漏らち出来たかぶるぶるおっぱいおむちゅの中を見てみまちようねえ、よいちよつとお」

勇者

「んんんほお♡じえんぶみりやれひやう♡」

メーテル

「あくにゆるにゆるのねちよねちよさんだあ。チン汁おちっちくちやくちやくいだねえ。ああ♡素敵い、思わず私も放屁してしまいそうなくさチンポですわあ」

メリッサ

「あー勇者のあかちナイナイできまちたねえ。くっちやくいけど偉いでちゅよお。いい子いい子お。よくできまちたあ。ガラガラさんも母乳とおちっこさんでニユルニユルクちやくちやくいだあ」

メーテル

「あーいいんでちゅよお。赤ちゃんは何でもきちやないきちやないにしちやうものでちゅからねえ。じょうじゅにキンタマ汁ではっちいちゃんにできていい子いい子お」

←勇者【おっぱいをねだるように】

勇者

「ああぶうっ、んんんあ、ママあ…ちゅぱっちゅぱっママあ」

←メーテル【最後にディープキス】

メーテル

「ああそのお顔素敵ですわあ。坊やを見送った時はあんなに勇ましい顔をしていたのに…。えらいねえ。ぱいちゅき赤ちゃんになれていい子だねえ。ご褒美のちゅううう、んむ、んむうじゅううううう」

メリッサ

「ああ魔王様あ。私にも…パイジュリ全裸ママ奴隷めにもお情けベロキスタイムをくださいっ」

メーテル

「ちゅうう、仕方ありませんね、では一緒に…」

←メリッサ【最後にディープキス】

メリッサ

「ああありがとございますう！ちゅううううううううううちゅむうえろお」

←勇者【ディープキス】

勇者

「ちゅうううむう、えろお」

←メーテル【最後にディープキス】

メーテル

「はあああ、もっともったときちゃんないきちゃんないことちてもいいんでちゅよお。もっともったお体よごちて、母子セックスエキス垂らしながらくっさいむっちりエロボディになるの。この、子ちよだて巨乳パイパイ揉みながらあ、ちゅううむう、ママたちとあちよぼうねえ。えろお」

メリッサ

「はあはあ、大丈夫でちゅよおどんなにきちゃなくなっても、マ
マたちが歴戦の種付けオチンポをフェラするかの如く、舌でチュ
ポチュポとベロベロじゅうじゅうちて、キレイキレイちてあげま
ちゅよお」

メーテル

「だから一杯ベトベトさんあちよびちまちようねえ。どんなにき
ちやないオス汁でも、ちゅうううう、ママたちが受け止めてあげ
まちゅよお」

メーテル

「えろお、もつともつとママに坊やのきちゃなくてなちゃけな
い、**おほおほおほママちゅきいいいなおんぎや**あちゅ
がた、ママにみちえてくだちあい」

勇者

「えろお、はあい、ままあ…♡みちえりゅ、ぼく一杯みちえちや
う、おほおほ、おほおほおほ♡」

メーテル

「はう、いいお返事…素敵…。ねえ坊や…もつと呼んで、**ママ**っ
て呼んで」

勇者

「まあ…ままあ♡デカパイマンマあ♡」

メーテル

「はあ…素敵…母性が、子宮が疼いて母乳乳首とクリチンポ勃起
してしまいます…もつと…もつとママって呼んで**おんぎやあ**甘え
ていいんでちゅよ？」

メリッサ

「ああ、ご主人ちやま…私はどうでしょう？こんな乳揺れ全裸奴隷はママにしがたいでちゆか？」

勇者

「あうううう、まんまあ♡おぎゃっおぎゃっ」

メリッサ

「んん…♡全裸奴隷なのに、更にその下でおぎゃってくださるの
でちゆねえ♡ああ♡その甘えたママ声で孕んでしまいそうです」

メーテル

「ああ、だめですわ、こんなんじゃ足りません。坊や…もっとママって呼んで甘えてくだちやい。今度はもっとくっさいアْنَヨを振って…おぎやおぎやバブバブちながらでちゆよ？」

←メーテル【右耳元で囁き】 この台詞のみ

メーテル

「勇者ナイナイちたチン負け哀れバブバブ見せなちやい」

勇者

「ああああ♡ままあ♡ままちゆきい！ママっ♡ママママっ♡ママママっ♡」

♡ママっ♡ママっ♡まんまあああああああ♡♡「

←勇者【泣き叫ぶように】

勇者

「んぎゃっんぎゃっおんぎゃああああああああおんぎゃ

あああああああああ」

勇者

「おお♡ぎべっっっっ、ぐれチンボにぎぎまちゅっっっ」

メーテル

「ああ素敵い。もっとお、もっとママって呼んでえ」

勇者

「んひいいい、まんまあ…♡まんまあああああ」

※⑥—A「母親」

【登場人物】勇者、メーテル、幻影の勇者

勇者 「あぶううまんまあ♡」

メーテル 「ああん。どうちまちたかあ？またお腹がちゅいたのかなあ？ち

やっきのみちたばかりでちょう？」

勇者 「あぶううおっぱいつ、ぱいぱいつ」

メーテル 「あーもうこの子ったら甘えんぼさんでちゅねえ。でもおんぎや

あ汁大噴射できたご褒美は絵本にちようかなあって思っていたの
だけれど」

勇者 「んまつ、絵本つちゅきい、おっぱいちゅきい」

メーテル 「あらあら大人赤ちゃん用絵本も大人赤ちゃん用おっぱいもど
つちもほちいほちいでちゅかあ？うふふ。いいでちゅよお」

←メーテル【耳元で囁き】 この台詞のみ

メーテル 「それなら全裸ドスケベママがパイチュパちゅうちゅう吸わせな
がら読みきかせてあげまちゅよお」

勇者 「まんまあ♡あぶうちゅーぱあちゅーぱあああ」

メーテル

「うふふ ママねえ、坊やの爆乳おっぱいをほちがる、バブバブ
オチンポ声を聞くと授乳用乳首がちゅぐに大きくなってママチチ
ミルクびゅっぶびゅっぶ、ぷしゅううううって溢れてくるの」

勇者

「あぁっおっぱいちゅきい大ちゅきい！ママのぱいぱいほちいの
おー！」

メーテル

「くすくす。せつかちさんの甘えん坊さん。おむちゅにねっとり
おちうちしゆる気まんまんでちゅね？じゃ・あ、今ママがマジャ
コンパイパイあげまちゅからねえ」

勇者

「まんまあ♡パイパイいゝ」

←メーテル【立ち位置・勇者の顔を胸に当てる位置】

メーテル

「あー。いい子いい子お。はあいお口あーんちてくだちゃいね
え。またママのパイパイ一杯飲んで、もっと最低な変態赤ちゃん
に育ちゅんでちゅよお」

←勇者【おっぱい吸い】 開始

勇者

「まんまあ、あむう、ちゅうちゅううう」

メーテル

「ああ、いい子だねえ、いい子でちゅねえ、一杯ちゅうちゅうち
ゅるんでちゅよお」

勇者

「ちゅうちゅぱっ、おいちい、ぱいぱいおいちいつ、ちゅうちゅ」

メーテル

「ちよっかちよっか、ママのチュパチュパイパイおいちいでちゅかあ。坊やの**おんぎやあ**チンポが甘えおったてしやちゅいようにママのパイパイ乳首は哺乳瓶みたいにおっきいからねえ。おまけにパイチュパミルクでバブバブ乳児退行できるように、母性お母さんフェロモンがデカパイたわむ度に**むわっ**と溢れて、チンポに甘えと癒しをぶっかけるの。そちら男の子はアンヨ大開脚ちて**ママちゅきチンポ大公開**。じえんしんあうあう始めておんぎやあタイムしちゃうからねえ」

勇者

「まんまあ♡ちゅうちゅうちゅうちゅおっぱい、パイパイいい、ちゅうちゅ」

メーテル

「うふふ。よちよち。いい子いい子。もうママパイチュパチュパ**おんぎやあ**ループに入ったねえ。そちらそのままちゅうちゅうちていいからねえ。今ママが絵本を読んであげまちゅよお」

メーテル

「これ、ママが坊やの為だけにちゅくったとくべちゅな絵本なんだよお。タイトルはあ『バブバブクエスト』でちゅよお」

勇者

「ちゅっつ。はあはあ。バブバブ、バブバブちゅきい、ま
まあ。はやくう読んでえ♡ちゅっつっつ」

メーテル

「はいはい。いま読んであげまちゅからねえ。はじまりはじまり
く。むかあしむかあし、あるところにとてもちゅよくかつこいい
勇者様がいました」

メーテル

「勇者様は旅立ちの日に自分のお母さんにこう言いました。『必
ずや魔王を倒してみせます』こうして勇者様の冒険がはじまりま
した」

勇者

「ちゅっつ、はあはあ、まま…このおはなち…」

←メーテル【きつめに】この台詞のみ

メーテル

「こおら、めっでちゅよ！今はママのばいばいちゅっちゅっち
ザコチンポおったてタイムちてなきやめっ！ママの言うこと聞き
なちやいー！」

勇者

「っつ…ごめんなちやい…ちゅっちゅっつ」

←メーテル【優しく】

メーテル

「うふふ。いい子いい子。坊やはママの言うことの聞ける偉い子
さんでちゅねえ。じゃあちゅぢゅきを読みまちゅよお。勇者様は
冒険の最中、さらに強くなっていました。ドラゴンを倒し、
人々を助け、勇者様はみんなの憧れの的だったのです」

←メーテル【囁き】 心の台詞のみ

メーテル

「魔王を倒す希望の光。意思が強く、決して負けない、正義のヒ
ーロー。勇者様はみんなの期待を背負って遂に魔王の城までたど
り着きました」

勇者

「ああ…ままあ…だめっ、だめだよお、ちゅううう」

→勇者【おっぱい吸い】 終了

メーテル

「あー大丈夫でちゅよお。こわくないこわくない。ママがい
ちゅだよお。ママがいれば坊やに怖いものなんてにゃんにもナ
イナイなんでちゅよ」

勇者

「でもお」

メーテル

「いいでちゅか坊や。ママといっちょならどんにゃにはじゅかち
いこともちあわちえ無様でチンポにきくうううでちゅよ」

メーテル

「ママの前でチンポおっぴろげて、んぎやつっおんぎやつ、おほおほおっお、チンポっチンポきくううううってバブバブしゅるの。ちょんなはじゅかちくてなちやけなあい変態チンポバブバブをママがカワイイカワイイちてあげるの」

勇者

「かわいいかわいい…チンポかわいいちてくれるの？」

メーテル

「ええ、もちろんでちゅよ…。ほら試しに見てごらん。この絵本にのってる勇者ちゃまでちゅよ」

←勇者「おっぱい吸いながら」 開始

勇者

「ああ…ちゅううぷう、ぼくだあ…まだ大人さんのボクがいまちゅ♡」

メーテル

「そうだねえ。この坊やはまだまともな大人だねえ。このころの坊やはどんなこと言っていたとおもいまちゅかあ？」

勇者

「ああ…♡わかにゃあいよお。ママおちえて♡」

メーテル

「ボクは赤ちゃんなんか絶対ならない…ボクは負けない…ボクがここで負けるわけにはいかない…」

勇者

「ああああああ♡…ちゅごおい…ぼきゅちょんなこといったんだあ♡ちゅううむっ」

メーテル

「あーかっこいいでちゅねえ。とってもちゅよい勇者ちゃまだっ
たんでちゅねえ。どうでちゅかあ？はじゅかちいはじゅかちい？
ちよれともピンピンチンポきくきくしゃん？」

勇者

「ああ♡はじゅかちいけどおにやんだかおちンポがあ、アンヨが
おぎやおぎやし始めてきたあ♡」

メーテル

勇者

「あーいいこお。怖いナイナイできたんでちゅね♡」
「もっとおもっとおちえて♡むかちのぼくのこともっとちりたい
でちゅ♡」

メーテル

「いいでちゅよお。ほおら、ちゅぎのページにも勇者ちゃまの男
らしいちゅがたが一杯のってるよお。『ボクは弱くなんかない！
ボクはレベル100になったんだ！ボクは勇者なんだ！ドラゴンだ
って一人で倒せる』って言ってるねえ」

勇者

「ああああ♡ああああ♡きゅんきゅんちまちゅっつ、ちゅ
っつ。はじゅかちいけどおむちゅデカチンポきゅんきゅんきゅ
んしちやいまちゅっつ、ちゅっつむ」

メーテル

「あらあらあ、この絵本氣にいつてくれまちたかあ。よかったあ。でもねえ、勇者ちやまの冒険はまだちゅぢゅきまちゅよあ。勇者ちやまがこの後どうなったのかちゅぎのページを見てみようねえ」

勇者

「ああっ♡にやにこれえ。ばくが絵本にうちゅってるうううう♡」

メーテル

「ふふふ。あれあれえ、このページ変でちゅねえ。絵の部分が鏡になってまちゅよあ。もちかちてこれが今の勇者ちやまのちゅがたなのかなあ？」

勇者

「ああああ♡ちゅうむう。赤ちゃんになってまちゅううう。大きな大きな赤ちゃんになってりゅうう♡おおおお、おほおおおおおお、ちゅううううううう、」

メーテル

「あー、あんにやにちゅよかった勇者ちやまがおむちゅ履いてムチムチむっちりママに抱っこ抱っこされてまちゅねえ。これじゃあ即墮ち無能勇者ちやまでちゅねえ」

メーテル

「みんなの期待や自分の言葉を裏切っておぎやおぎやバブバブ甘えてまちゅよあ。勇者ちやまは弱いねえ、なちやけないねえ」

勇者

「あああ♡まんまあ♡おぎやつんぎやつ」

メーテル

「あらあら、チンポビンビンでおぎや汁発射準備完了ちてるねえ。坊やのチンポとってもちあわちえそつでちゅよお」

勇者

「あああああ♡ちあわちえでちゅう♡バブバブ赤ちゃんちあわちえなによお。バブバブ大ちゅきなお♡ちゅううう」

メーテル

「いい子いい子お。ちあわちえさんなのえらいえらい。よちよち。よちよちよち。さあ絵本の中の弱すぎおっぱい坊やをもっとみちゅめて、もっとおぎや汁ふりまきバブバブちて絵本を完成させまちよう?」

勇者

「うひい、かんせい…♡」

→勇者「おっぱい吸いながら」 終了

メーテル

「そつでちゅよお。この絵本はまだちゅくりかけなの。だから坊やがバブバブ甘えて台詞をいれることで初めて完成ちゅるんだよお。ほら見てごらん。鏡のところにゃにか書いてあるよお。どれどれ、敗北した赤ちゃん勇者ちやまはちえかいのみんなに謝るようにバブバブしました。だつてえ。坊やならどういう風にバブバブちゅるのかなあ?」

←メーテル【きつく】 しの台詞のみ

メーテル

「ほら…やってみなちゃい！ちえかいのみんなの前で最低でお下劣なバブバブちてみなちゃい！」

勇者

「あああ♡ふわああああ♡ちえかいのみなちやまあを裏切ってちまってごめんなちゃい♡ボクはママに負けてちあわちえマジヤコンバブバブしちやいまちたあ♡」

勇者

「このおったて爆乳大ちゆきチンポ見てくだチャイ♡ほんとのボクはデカパイチュパチュパ赤ちゃんにやるのがだあいちゆきな巨大マジヤコン赤ちゃんでちゆ♡だから魔王にやんで、たおちえまちえん♡」

メーテル

「あーいいこでちゆねえ。とっても敗北バブバブじようじゆだねえ。でもまだ絵本は終わってないでちゆよお。ちゆぢゆき読みまちゆよお。…すると赤ちゃん勇者ちやまはとっておきのバブバブをママに見て貰いました。そのバブバブはまるで本物の赤ちゃんそっくり…なのですが身体の大きさは誤魔化せません。それは異様で最低、ママでなければ思わず卒倒してしまいそうナ変態バブバブでした。って書いてあるねえ」

メーテル

「坊やはじょうじゅにバブバブできるかなあ？」

勇者

「あああああ♡しゅるっ♡バブバブしゅるっ♡♡おぎや
っおぎやっおぎやっおぎやあああ♡」

メーテル

「あくん、ちゅごいよお、あんにやにちゅよかった勇者ちやまが
こんにやになちやけあないマジヤコン赤ちゃんになってまちゅよ
お。えらあいねえ。ママ以外の交尾はお断りでちゅって感じのよ
わチンポがバキバキおつきで最高でちゅよお」

勇者

「ふんぎやああふんぎやっほんぎやああふぎやあああああああ
ああぶあぶううううだっだあああああ♡」

勇者

「んんぎやっんぎやああ♡おおおチンポきくうううううう
っ♡」

勇者

「チンポチンポチンポオ、バブチンポ見てくだちやいつ、あぶう
っっっっあっっっっっっっ」

メーテル

「ああい子いい子よくできまちたあ。じゃあそんない子には
ママがおむちめの上からチンポヨチヨチいい子いい子ちてあげま
ちゅねえ」

メーテル

「おちっこぴゅっぴゅではじゅかちくてなちやけなあい無様バブ
バブを、気持ちいい気持ちいいチンヨチバブバブにかえてあげま
ちゅよお。はあいチンポ手加減よちよち。いい子いい子お」

勇者

「ああぶううう♡もうだめでちゅうううううう♡チンポびゅ
っぴゅしゅるう♡でちゃうのおおおおおお♡♡」

メーテル

「あらあらあ、もうおちっこぴゅっぴゅ寸前でちたかあ？絵本を
読んであげただけなのにこんな風になってしまうなんて…。いい
でちゅよお。このまま絵本チンヌキぴゅっぴゅしちやいなちやあ
い。鏡の奥でちあわちえそうにバブバブしゅる巨大赤ちゃんを見
ながら完敗ママちゅき汁一杯ぴゅっぴゅちまちようねえ」

勇者

「ふんぎやあふんぎやあおぎやつおぎやつおんぎやあああ」

メーテル

「そうでちゅよお、その調子でちゅよお。鏡の向こうの大きな赤
ちゃんが、かつてとつてもちゅよかった勇者ちやまの今のちゅが
たでちゅよ。**あんにやにちゅよかったのに**、アンヨばたつかせて
チンポギンギン大歓迎ちながらおむちゅちゅけてまちゅよお」

メーテル

「ママのドデカスケベおっぱいに負けたよわあいよわあいおんぎ
やあ勇者ちゃまでちゅねえ」

勇者

「んぎゅううう おぎゃっおぎゃっ いきゅううう、チンポいく
ううううおおおおほおおチンポおちんぽおおおおおおお」

勇者

「おぎゃっおぎゃっおぎゃっおんぎやあああ、おんぎやあああ
あああああああああああああああああ」

【絶頂】

メーテル

「ああん、チンポちよろおおおい。でもいい子いい子お、一杯
おむちゅにでてまちゅねえ。おむちゅが**おんぎやあ汁**であちゅく
なっているのがわかりまちゅよお」

勇者

「あああ♡おおお♡あううあぶう♡おぎゃっおぎゃああああ♡で
ちゃったあ。おむちゅおちうちしちやいまちたっ♡」

メーテル

「うふふ。手加減チンヨチでこんなにあっさりピュッピュしちや
うなんて素敵。よちよちよちよち。鏡の向こうの坊やもとっても
ちあわちえちようでちゅよお？」

勇者

「ふぎゅうううちあわちええ♡ほきゅちあわちえでちゅうう
♡おぎゃ♡おぎゃ♡♡」

メーテル

「あーよかったでちゅねえ。赤ちゃん勇者ちやまも、ちあわちえちあわちえでこの絵本もめでたし、めでたしかにやあ？あれれー？でもまだちゅぢゅきがあるみたいでちゅよお？ちゅじゅき、見てみまちょうかあ？」

勇者

「ちゅぢゅき…？ああ…みりゅうみりゅうっ♡」

メーテル

「はいはい。わかりまちたよお。ページをめくってあげまちゅねえ」

メーテル

「あーこの絵はなんでちゅかねえ。赤ちゃん勇者ちやまがママにパイパイ抱っこされてるねえ」

勇者

「あぶう、抱っこお♡パイパイ抱っこちゅきい」

メーテル

「でもこれただの抱っこじゃないねえ。抱っこ紐で爆乳むぎゅむぎゅ抱っこされてまちゅねえ。どれどれえ、なんて書いてあるのかあ？」

メーテル

「えーっと、勇者様はもうダメになっていました。お母さん魔王はそんな勇者様をPカップおっぱいに抱きかかえ、抱っこ紐できつくお互いを縛ると、こう言いました」

メーテル

「『もうじゅっとじゅっとママといっちょでちゅよ』赤ちゃんに甘く愛の言葉を囁くと、今度はお母さん魔王の淫乱おまんこからへその緒のようなものがにゅるにゅると出てきました」

メーテル

「へその緒は触手のように赤ちゃんの肌をつたい、おむつの中に入っていきます。そしてへその緒は赤ちゃんのおちんちんさんに吸いついたのです。『また一つになれまちなね。おかえりなさい。私のかわいい赤ちゃん』お母さん魔王は赤ちゃんをあやすようにゆさぶりました。その時です。大きな赤ちゃんは自分のレベルがどんどん下がっていくことに気づきました。へその緒から魔王に全ての力を吸い取られているのです。勇者の大冒険はここで終わろうとしていました」

勇者

「ああああ♡ママ♡ママあ♡抱っこお、おっぱい抱っこちてえ、もっともっとバブバブちたいでちゅう」

メーテル

「ああ…**いいでちゅよお**。坊やもこの絵本みたいになりたいんでちゅね。今抱っこ紐ちゅけてあげるからねえ。ちよっと待っててねえ」

勇者

「まんまあ♡」

メーテル

「うふふ。これをちゅけるのは何年ぶりかしら…。んしょ、よいしょっと。はあい準備できまちたよお。ママの大人ドデカ赤ちゃん用おっぱいの中に乳圧おほおかえりなちゃいちようねえ」

勇者

「ああ、まあ、はやく♡」

メーテル

「はいはあい、おいで坊や、抱っこ抱っこお、んしょっと」

勇者

「おおおお♡おっぱいにい身体があこちゅれてえ♡おお、おっぱい♡ぱいぱいが一杯でちゅうう」

メーテル

「はあい赤ちゃんがっちり固定ちまちゅよおお。んああ、大きな大きな大人チンポ赤ちゃんでちゅねえ。ママのだつぶんだつぶんぱいぱいもとっても大きいからきちゅきちゅきさんだねえ」

メーテル

「たぽたぽなパイパイがむぎゅむぎゅうう、むちゅちゅちゅううって坊やを閉じ込めパイ圧抱っこちてまちゅよお？きちゅきちゅパイ圧抱っこさんはドマゾオチンポにききまちゅか？」

勇者

「ちゅきい！きちゅきちゅパイパイしやんだあいちゅきい！」

メーテル

「ふふふ。いい子いい子お。そうだよねえ。デカパイきちゅきちゅきさんのちゅきだよねえ。きちゅきちゅきさんで大ちゅき抱っこされてたら、じゅっといっちょにいられるもんねえ」

勇者

「いっちょ♡いっちょちゅき♡じゅっといっちょ大ちゅき♡」

メーテル

「いい子いい子。ママも坊やといっちょにいるのだあいちゅきでちゅよ。あなたはもうお母さんのもの。お母さんと一緒にちゅよ。ほら…ゅーらゅーらゅっさゅっさってチチズリしながらお身体ゆすってあやちてあげる。くっちゃい母乳臭むんむんの柔らかデカパイ谷間に**むっちゅんむっちゅん**って坊や閉じ込めてえ、**たつぶ、たつぶ**ってママパイ揺りかごちてあげる」

勇者

「おお♡おお♡パイパイがあむにゅむにゅこちゅれてえ…♡ああ♡これちゅきい♡だあいちゅきい♡キクウ、バブチンポきくう♡」

メーテル

「うふふ。よかったねえ。いい子いい子。ねえ坊や、感じまちゅか？ママの乳臭いパイパイフェロモン。ママのぬくもり…。ママのあやしパイパイの間、とってもぬくぬくバブバブでちゅう？」

メーテル

「『マンマのヨチヨチおまんこにデカチンポぶっさして母子おんぎゃあ交尾したいよおっ』て思いが溢れると坊やのオチンポ、あちゅくなってくるでちゅう。あれと同じなの。ママ、ママちゅき坊やのことだあいちゅきだからもっとぬくぬくさんにしちゃいまちゅよお。**ぎゅっうっうっ、むっちゅん、むっちゅん**ん」

勇者

「おおおお♡まんまあ♡ぬくぬくさんもぼく大ちゅきい♡」

メーテル

「うふふ。いい子いい子。ママのチチズリパイヌキ抱っこで一杯感じて。このママの交尾誘惑むっちゃんボディはじえんぶ坊やのものでちゅよ」

←メーテル【耳元で囁き】

開始

メーテル

「だから坊や…。坊やのちゅべてもママにちようだい…。心も体もママにちようだい？ぎゅうううううううううう」

勇者

「ああああ…あげりゅ…♡ぼきゅもじえんぶあげまちゅ…」

【触手の音】

メーテル

「坊やあ…じゅっとじゅっとママといっちよだよ。だから坊やにこれをあげる…坊やの大ちゅきなへその緒さん」

勇者

「あああ♡へちよのおきたあ♡ヌメヌメちてるよ♡ぬちゃぬちやちてるの♡」

メーテル

「この触手はまた坊やとひとちゅになる為の抱っこ紐みたいなもの。大丈夫。怖くないよ」

勇者

「んほおっお、おむちゅにいはいつてきたあ♡ああん♡ちんちんにいからみちゅいてえ、あぶう、おほお、きくううう、チンポにママ感じまちゅううう」

メーテル

「ああ大丈夫でちゅよお。まだおちんちにすいちゅいただけでちゅからねえ。レベルナイナイはこれからでちゅよお」

メーテル

「くす、それにまだ特別なゲストもきてないからねえ。ママ、そろそろ呼んじゃおうかなあ？」

→メーテル【耳元で囁き】 終了

勇者

「んあ、はあはあ、げちゅと…？」

メーテル

「そう。坊やまたびつくりちまちゅよお。では呼んでみまちゅう？勇者様あ？入ってきていいでちゅよお？」

【扉の音】

過去勇者

「なんだこれ…どうなっているんだ…」

勇者

「ああああ♡」

メーテル

「うふふふ。驚きまちたか？まさか自分と同じ顔の子が入ってくるとは思ってなかったでちゅよねえ？これはねえ、坊やが勇者だった時の幻影でちゅよお？ママがああ絵本と坊やの心を元にとくべちゅに召喚したのですよ」

過去勇者

「これが本当に未来のボクなのか…？そんな…うそだ…」

勇者

「ああああ♡ぼきゅだあ♡ぼきゅがぼきゅを見てる♡ドデカ赤ちゃんのぼきゅをみくだちてる♡♡」

メーテル

「あー大丈夫でちゅよお。怖くないよお。この子はちゅこち酷いことを言う悪い子さんだけど、所詮はただの幻影でちゅからねえ。この子はね、いわば坊やの中に少しだけ残っている勇者としての坊やなの。だからレブルドレインで勇者をナイナイちゅれば、この子もナイナイできるからねえ。だから大丈夫。やさちい爆乳ママがレブルドレインで坊やを守ってあげる」

勇者

「ああああ♡まんまあ♡」

過去勇者

「これじゃあただの変態じゃないか…！こんなのボクじゃない…」

勇者

「ああああ♡変態…♡ああああ♡いい♡これちゅきい♡ぼきゅにバブバブ見て貰えるの大ちゅきい♡おぎゃ♡おぎゃ♡チンポオ、チンポおんぎゃあしゅるうつつつつ」

メーテル

「うふふ。それでちゅねえ。一杯一杯坊やの大人バブバブちゅるところを見て貰いまちようねえ」

メーテル

「はい**ばぶばぶうつつおんぎゃあ、チンポおんぎゃああ**」

勇者

「んんぎゃっほぎゃ♡見てえ♡もつと見てくだちゃい♡赤ちゃんになったぼきゅを見てくだちゃい♡」

過去勇者

「違う…こんなのボクじゃない…」

勇者

「ああああ♡ほんとうにほきゅなのに…♡ぼくはばぶが大きい
ゆきの巨大赤ちゃんできゅう♡おぎゃっ♡おぎゃっ♡あぶう」

過去勇者

「こんなのがボクだったとしたら…使命はどうなるんだ…」

勇者

「ちめい…♡あぶう、むじゅかちいことば、わかにやいでちゅ
う♡」

メーテル

「そうでちゅよお。この子はチンポヌキとおっぱいママ以外頭には
ないおんぎゃあオバカ赤ちゃんなんでちゅから、変なことおちえ
ないでくだちいねえ。あなたは指をくわえてこの子が足ピンバ
ブバブちゅるところを見ていればいいいでちゅよ？」

過去勇者

「やめてください母上…！こんなのおかしいですよ…！」

メーテル

「うふふ。やめないわ。だってこれは未来のあなたの為でもある
のですよ」

メーテル

「ほら、勇者ちゃまもみなちい？これからママが坊やをデカパ
イ揺りかご抱っこで一杯ゆすって、坊やのレベルおちっこをちゅ
いとってあげまちゅからねえ」

勇者

「まんま♡ママっママっ♡ぼく、ぼくどうなっちゃうのお♡♡」

メーテル

←メーテル【耳元で囁き】 この台詞のみ

「あーよちよち♡大丈夫。レベルドレインちたら坊やが今まで育ててきたステータスはナイナイしゆるけど怖くない怖くないよお。ママがおぎやることちか能がないよわいよわいなチンザ」
「赤ちゃんを守ってあげまちゅからねえ」

勇者

「ああああ♡よわあいよわあい赤ちゃんちゅきい♡」

メーテル

「あーよかったねえ、レベルが0になると坊やの力も弱くなってハイハイだつてできにゃい大きな赤ちゃんになっちゃうけど大丈夫でちゅよお？ママがこの濃厚おんぎゃあおっぱいミルクでチンポおつたてハイハイがまたできるように育ててあげる。大丈夫。大人になんて育てないでちゅよお。いい子に育てて、またレベルがあがってきたなあって思ったらまたママがレベルナイナイちて赤ちゃんに返ちてあげるの」

←メーテル【耳元で囁き】 この台詞のみ

メーテル

「何度でも何度でも。じゅっとじゅつつつと大人赤ちゃんにちてあげまちゅよ。じゅつつとじゅつつと完全母乳育児でおんぎゃあ子育てちてあげるの」

勇者

「ああ♡じゅつつとじゅつつとおちゅきい♡」

過去勇者

「やめろ…やめてくれ…」

メーテル

「うふふ。そちてその度にママは坊やのレベルを吸ってちゅよくなるんでちゅよ？坊やを守る為に…。何もかもをちゅちゅみこめるように…。ちようどほり…こうやってギンギンおむちゅチンポをちゅちゅみこむように…」

【触手吸引音】

勇者

「んぎゅうつうつうつうつんんんんんん」

←メーテル【耳元で囁き】 この台詞のみ

メーテル

「おかあえりなちやい。ママの愛しい赤ちゃん」

勇者

「ああああ♡きちやああああ♡おちんちゅわれてるう♡おぎやつおぎやつ♡」

メーテル

「はあああ、レベル99…98素敵…。触手フェラチオで力が…母性がみなぎってきますわ…。また一つになれまちだね。おかえりなさい。私のかわいい赤ちゃん」

メーテル

「よちよちいい子いい子おぎゅうつうつうつ、パイあちゅじえんしん抱っこおぎゅうつうつうつうつうつ」

勇者

「おおおお♡んはあ、ぼくっぼくっうつ」

過去勇者

「ああ…どうして…」

メーテル

「ああい子。いい子でちゅよお。ちよのままい子でいるんでちゅよお。ママがやさちくゆつくりパイパイぶるんぶるんさせて坊やを揺さぶってあげるからねえ。一杯母乳くっちゃい汗ばみパイパイでぬくぬくを感じてね。ほおら、ゆうら、ゆうら」

勇者

「ああ♡ぱいぱいがこちゅれてえ。たぼたぼじゅりじゅりさんちゆるう。パイパイに埋もれりゅうう」

←メーテル【耳元で囁き】 この台詞のみ

メーテル

「うふふ。これがじえんしんおっぱいおむちゅでちゅよお？」

メーテル

「またママのおっぱいおむちゅで坊やのくっちゃいママ用キンタマから、レベルのちゅまったポコチンミルクさんをどびゅびゅうううぴゅっぴゅうううってママに吐きだちていいでちゅからねえ。ほおらゆっさゆっさ」

勇者

「おぎゃああっおんぎゃあああああ」

←メーテル【キツめに】 開始

メーテル

「ほらほら！抱っこされながらよわよわお手でママにもっとちがみちゅきなちやい！」

メーテル

「おんぎゃあ大ちゅき無能ドデカ赤ちゃんにとってママのおっぱいのおちよとは奈落と同じ。そこには怪獣さんやクソチンポ勇者ちやま、大人赤ちゃんドン引きウンカスまんこ共がわんさかいて坊やを食べちゃうんでちゅよお」

メーテル

「だから必死に肉肉しいおんぎゃあママ肉にバブバブちがみちゅきなちやいーほらほらほら。大ちゅきバブバブホールドで**おんぎゃあ**ちなちやいー！」

→メーテル「キツめに」 終了

勇者

「あああごめんなちやいいいい、ママあああああ、抱っこ抱っこちゅるうのおおおお」

過去勇者

「やめろ…こんなボクの姿見たくない…」

メーテル

「んふう、あらあら、勇者ちやまは驚いてまちゅねえ。でも大人ドデカバブバブしゅるこのちゅがたは紛れもなく坊やの運命なんでちゅよ？」

勇者

「んあ…ままあ♡おんぎゃ…おぎゃ…♡」

過去勇者

「くっ、くそおくそお！」

←メーテル【耳元で囁き】 開始

メーテル

「ふ、バブ堕ち確定のくちえに勇者ちゃまはうるちやいねえ」

過去勇者

「騙されるな！母上は…ううん、そいつは僕の知ってる母上なんかじゃない！そいつはそうやってお前を食らおうとしているんだ

…！」

勇者

「あぶう、まんまあ♡」

過去勇者

「お前は民だけでなく、ボク自身まで裏切るのか！ボクの今までの旅はなんだったんだ！」

メーテル

「うふふ。また勇者ちゃまがなんか言ってるねえ。裏切り…って言ったのかにやあ？うふふ、なら坊や。勇者ちゃまに答えてあげたらどうでちゆかあ？坊やはこの裏切りにちゆいてどう思ってるのかにやあ？」

→メーテル【耳元で囁き】 終了

勇者

「あぶう。はひい」

勇者

「あのね…ごめんね…。ぼきゅはみんなを裏切りまちたあ♡ぼくじちんもうつぎっちゃいまちたあ♡」

過去勇者

「ん…」

勇者

「ぼきゅはおっきな柔らかおっパイパイにはかてまちえんてちた。でも…」

勇者

「ぼきゅはとってもちあわちえでちゅ♡おぎゃ♡おぎゃ♡ってえ、みんなをうらぎって最低チンポバブバブちゆるのおとっても気持ちいいでちゅううう♡おっぱいに勝てないのさいごおおお（最高）♡ねえみてよお勇者ちゃまあ♡赤ちゃんになった自分のちゅがた、赤ちゃん**おんぎゃあ**ブレイでフルボッキちたママちゅきバブバブもつと見てえ♡あぶうぶう、ばぶう、あう♡んぎゃあああああ、おんぎゃあああああ」

過去勇者

「やめろ…やめてくれ…」

メーテル

「うふふふ。今の坊やには過去の自分さえも、坊やをあやすベビ―グッズでしかないようすわ…」

過去勇者

「そんな…これが…未来のボク…そんな…それじゃあボクは何の為に…」

メーテル

「何の為？うふふ。そうねえ。あなたは所詮この子のベビ―グッズ。ですからそこで黙って見てればいいのです。言うこと聞けますわよね？いいえ、あなたは逆らえないですわ。あなたも私が産んだ赤子なのですから」

過去勇者

「ん…うつ、わ、わかり…ました…」

メーテル

「うふふ。それでよろしいですわ。そこでチンポをバキバキに滾らせながら私たちのお下劣バブバブプレイを見てなさい」

勇者

「ああああ♡ねえママぁ♡ぼくちゃんと言えたぁ♡」

メーテル

「あーいい子でちゅねえ。よくできまちたよぉ。えらぁいえらぁい。でも坊や？もう役目も済んだみたいでちゅち大人の言葉もそれでおちまいにちまちようかぁ」

勇者

「あうう？おちまい…？」

メーテル

「だって赤ちゃんはママとパイパイ以外の言葉はいらないでちゅもの。そちたらもっともおばかさんな底辺巨大赤ちゃんになれまちゅよ？」

勇者

「ああ♡でもっ、『ちゅきちゅきい』って言うのもだめでちゅか？ぼくちゅきちゅき言いたいでちゅう♡」

メーテル

「あらあら。坊やは本当にオバカなマジヤコンさんでちゅねえ。坊や？ママはね。ちよんな言葉なんてなくったって坊やの爆乳ミルクちゅきちゅきって気持ちわかるんでちゅよ？だからね。大丈夫、大丈夫う」

勇者

「ああああ♡まんまぁ♡」

メーテル

「うふふ。でも坊やがちょんなに言いたいなら、とくべちゅに今だけはちゅきちゅき言うのゆるちてあげる。今のうちに一杯言うておきまちょうね」

←メーテル【耳元で囁き】 この台詞のみ

メーテル

「でもちよのかわりレベルドレインがちゅんだら坊やは大きな大きな規格外新生児赤ちゃんになるんでちゅよお？おっばいお世話必須のママの愛しい巨大大人赤ちゃん」

勇者

「ああそれちゅきい、まんまあちゅきい♡ちゅきちゅきいいい♡」

メーテル

「あーよちよち。気に入ってくれてママうれちい」

メーテル

「もうちゅぐ、もうちゅぐ坊やのちゅべてをすいとしてあげまちゅからねえ。ママが坊やのちゅべてを支配ちてあげる」

メーテル

「お身体ゆっさゆっさ、ゆっさゆっさ。デカパイおっぱいむにゅんむにゅん、むにゅんむにゅん」

勇者

「んぎゃっ、ちゅきちゅきい、ちゅきちゅきちゅきちゅきい、だあいちゅきい」

メーテル

「うふふ。かわいい。かわいいでちゅよ？どうでちゅか？パイオツ揺れる度にレベルがどんどん下がっていくのがわかりまちゅか？レベル30…29…28…、うふふ止まらないねえ。またママに負けちゃいまちゅねえ。ねえ見てごらん、勇者ちゃまが悔しチンポおつたてて羨ましそうに坊やをみてまちゅよお？坊やはちあわちえものでちゅねえ」

勇者

「おぎゃ…いい。まんま…ちゅきい…だい…ちゅきい…」

過去勇者

「くっ…」

メーテル

「ああ素敵い…坊やが…坊やがわたくしの元に戻ってくる…。ママのお腹の赤ちゃんバブブランドにキンタマ**おんぎゃあ**エキスおかえりなちやいちてまちゅよお」

メーテル

「はあはあ…坊や大ちゅき子宮がキュンキュンして…坊やが愛しくてたまらない…。もっとママに甘えて…ママの愛を感じて…もつとちゅよく抱っこちてあげるから…ぎゅっっっっっっっっっっ」

勇者

「んぎゅっっっっっっっっっ、まんまあ…ちゅきい大ちゅきい」

メーテル

「ああああ♡坊やあ♡ママもちゅきい、ちゅきちゅきちゅきい、大ちゅきよお。いいわ、完熟ママまんこを完全再現したへその緒触手でおちんちんしゃんをもっとちゅよく吸ってあげる」

勇者

「おお♡おぎゃ♡ちゅきい…ママちゅきい…」

メーテル

「17…16…もつちゅぐでちゅよ。昔の自分に見て貰いながらぴゅっぴゅって完敗お漏らちまちようねえ。うふふ。じえんぶぴゅっぴゅできたら坊やはママの一部、ママの永遠のチンポ赤ちゃんでちゅよ？」

メーテル

「おむちゅにぴゅっぴゅちゅるみたいにママのへその緒に**どぴゅぴゅぴゅ、びゅくんびゅくん**ってしーしーちて、ちゅよいのちゅよいの飛んでけえちゅるの。ママがこの抱っこ紐と大きなこちよだてパイパイで坊やをちゅちゅんで守ってあげまちゅからねえ。だからこわくないこわくない」

勇者

「ああ♡ちゅきい、大ちゅきい、じゅぎじゅきい…だあいじゅきい…♡」

メーテル

「はあいレベル11、レベル10、うふふそろそろ本気ドレインしちゃおうかしら、ほおらママ本気パイパイむっちゅん抱っこでおんぎゃあおっぱいしちゃいなちゃい。ぎゅううううううううううう」

「ラストスパート開始」

勇者

「おおおおおおおほおおおおおおおきくうううううううう」

←メーテル「射精までスピードアップ」 開始

メーテル

「んはあ、叫んでも、くるくてもママ止めないでちゅよお！だつて坊やはこれがチンポにきくんですもの。坊やのチンポが最優先」

メーテル

「坊やはママのものなんだから、巨大赤ちゃんは言うこと聞きなちゃい！んんはあ、あとがちゅくほど抱きちめてお母さんのデカパイミルクマーキングを全身にちゅけてあげるう、んはあ」

メーテル

「汗だくパイパイプレスぎゅううううううううううう。大ちゅきマジヤコンホールドぎゅううううううううううう」

勇者

「おほおほっおほおおおおお、ぐるじiiiiiiiiいげどぎもぢiiiiiiiiい」

メーテル

「その勇者ちやまもよく見るんでちゅよお？これが逃れることのできないあなたの運命なのですから」

過去勇者

「だめだ…やめろ…サキュバスなんか…魔王なんかに負けちゃだめだ…」

勇者

「んぎゅうううう、ちゅきiiiiiiii♡」

メーテル

「あは♡もう無理ですわ♡もう私のミチミチやわばい抱っこもこの子の大人ドデカバブバブも止まりません♡もつとぎゅってパイパイで挟み込んで、もつとゆっさゆっさと坊やをあやして、チン汁しぼりってあげまちゅよお」

メーテル

「ほらほらあにゅあちゅもつとちゅよめてえ、じえんしんで子宮外胎内回帰でちゅよお。授乳ミルクとくっさいママ汗汁、ギトギトぬるぬるにさせながら、育成失敗大人赤ちゃんを閉じ込めパワ―デカパイレイプウ。小刻みにたぽたぽな振動を与えて、バブ汁誘発パイパイ抱っこでちゅきちゅき最強ホールドお。むぎゅうううううううううう、ほおら生まれたての赤ちゃんみたい
に泣き叫びなちゃあい！」

勇者

「おんぎゃっおんぎゃっおんぎゃああああああ、おんぎゃああああああ、あああああふんぎゃあああああ、あああ
あ」

過去勇者

「やめろ…負けるな…負けちゃだめだ…」

勇者

「おおお♡んぎゃっんぎゃっんぎゅうう、ちゅきいちゅき
いー」

メーテル

「はぁいい子いい子。坊やはママのもの。ママの赤ちゃん、ママのドデカ抱っこ紐赤ちゃん、**離さない。もう離さない**いいい、**しゅきしゅきしゅきしゅつきい**、ママのドデカあかちゃんしゅき
いいいい、あなたはもうじゅっと抱っこ紐赤ちゃん。脱出不能
のおっぱい閉じ込めプレイで生涯**おんぎゃあ宣言**でちゅよお」

過去勇者

「負けるな…負けちゃだめだ！そいつは世界を支配しようとして
いるんだ！お前は世界を裏切るのか！」

メーテル

「かわいいかわいいでちゅよお、ママいじめたくなっちゃう
ほどかわいいよお。ちよんな子はイタイタイの飛んでけえじゃ
なくていたいいの気持ちいい、マゾチンポきくきくうにちて
あげまちゅよお」

メーテル

「オラおぎゃれおぎゃれっ、産声あげろ！ママのどたぶんチチデカボディプレスでだきちゅきアンヨピン立ちアクメ見せなちゃい！」

勇者

「おほおおおおお♡おぎゃっおぎゃっああああ♡」

メーテル

「もうちゅこち…もうちゅこちでレベルじえろの、取り返しのちゅかない**おんぎ**や**あ**赤ちゃんタイムでちゅからね。にゃんにもできにゃいビッグサイズ大人赤ちゃん。ママに甘える事ちかできにゃい、おむちゅはきはき**おんぎ**や**あ**男になるんでちゅよ」

メーテル

「ちよんな最低最悪のマジャコンむちゅこの母子交尾大ちゅきオスマラチンポをママは受け入れてるんでちゅよ。よかったねえ。そんな最強爆乳ママともうちゅこちで身も心もいつちよになれるんでちゅよ」

勇者

「あう、ままちゅきいいいい…♡おっばいじゅぎいいいいいいい」

メーテル

「ああ、ちゅきい、大ちゅき、坊や大ちゅきい、**ぎゅ**ううううううううう、**むっちゅ**うううううううん。勇者ちゃまにママたちのへその緒爆乳母子セックスをみせちゅけてあげまちようねえ」

勇者

「ぐるじいじいじいじい、ママちゅきいじゅきじゅきじゅき
じゅきい。がでにやいいいいいい、ママにがでにやいの大じゅき
いいいい」

過去勇者

「負けちゃだめだ、負けるな、自分に負けるな…！」

メーテル

「レベル5、レベル4、んはあ、そろそろガツチリデカチチパイ
パイで固めてキンタマおんぎやあアクメいきまちゅよお。ママも
おかえりなちやい汁受け入れ準備かんりよおおう。よわよわパ
イパイ赤ちゃん完成はもうちゅぐでちゅよお。最強ママ子宮によ
わよわキンタマじゃくしぶりぶりおんぎやあ大噴射タイムう始め
え。おっぱいはぶう、おっぱいはぶう、おっぱいおんぎやあ、お
っぱいおんぎやあ。レベル3、2、1」

←過去勇者【崩れ落ちるように】

過去勇者

「負け…るな…」

←メーテル【泣き叫ぶように】 この台詞のみ

メーテル

「ゼ・ロ♡はああいおんぎやああああああおんぎやああ
ああああああああ」

→メーテル【スピードアップ】 終了

【絶頂】

過去勇者

「ああ…そんな…」

メーテル

「うふふふ。えらあいえらあい。一杯でたねえ。よく頑張りまたねえ。いいいいいこお。じょうじゅにおぎや汁びっぴできまたあ。ご褒美に爆乳ムレムレ乳抱っこは暫く解かないであげまぢゅよお。だからもっと…**味わいなちやいつ!!**」

勇者

「おおおおおおおおおおお、ままああああああ」

メーテル

「はあはあ、うふふ。坊やとまたひとちゅになれてママうれちい。もうじえったいはなちまちえんよつ。へその緒だってもう外ちまちえんつ」

メーテル

「坊やは抱っこ紐赤ちゃんになるの。ママの呪い装備になるの。だって坊やはママのもの…。大ちゆき…大ちゆきでちゅよ…愛しのドデカ赤ちゃん…ちゅ」

勇者

「まんまあ…おぎやつ、あぶう」

メーテル

「うふふ。もうにゃんにも心配ないでいいでちゅからねえ。ママ、坊やから貰った力でまたパワーアップちまちたからこの抱っこもさっきのよりも**ぐるぐるくてんぎもち**いい抱っこにちまちゅから、**ねえ!**」

勇者

「おおおおおおおおおお」

メーテル

「うふふ。この力で坊やをこの爆乳抱っこ紐でちよだてて、坊やがちあわちえにバブバブできるちえかいをちゅくつてあげる…。食事からチンポまで何もかもをデカパイミルクママが支配ちてあげまちゅからねえ」

勇者

「おぎやつ」

過去勇者

「うそだ…これは夢だ…あああ…あああああ…」

【放尿音】

メーテル

「あら…そこのお方はまだいたのですか…？うふふ、あらあら、あなたもお漏らししちゃってしまったんですね。でも坊やとのお下劣抱っこ紐プレイを邪魔しないで頂けますか。あなたのベビーグッズとしての役目はもう終わったのですよ」

【指パッチン】

過去勇者

「ああ、体が…そんな…消えていく…ボクは結局何も…」

メーテル

「うふふふ。ごめんなさいね…。私にはおっぱい赤ちゃんでない坊やなんて認められないの。おむつを履いて幸せそうな顔をするこの子以外は…」

メーテル

「はい坊やあ。お世話になった勇者ちゃまにばあいばあいちまちようねえ。ばあいばあい」

勇者

「おぎゃ…ふぎゅ…」

メーテル

「あらあら…。そうでしたわ。この子はもう言葉をナイナイしたのでしたね。ごめんなちゃいねえ。できにゃいんだねえ。レベルじえろだからにゃんにもできにゃいんでちゅよねえ。うふふふ。いい子いい子お。大丈夫でちゅよお。デカパイママが代わりにバイバイちといてあげるからねえ」

過去勇者

「あああ…そんな…あああ…」

メーテル

「ばあいばあい♡機会があればまたベビーグッズとして呼んでさしあげないこともないですわあ」

勇者

「うふう、あぶう」

【消滅する音】

←メーテル【耳元で囁き】

開始 章終わりまで

メーテル

「うふふ。これでまた二人きりでちゅね？私のかわいい赤ちゃん。むゅうううううううう」

メーテル

「おかえりなちゃあい。ママの赤ちゃん。ずううつとずっとママのパイパイの間で爆乳こちよだてちてあげる。坊やは抱っこ紐の中でちゅきちゅき大ちゅきいって、じゅっとデカパイおっぱい揉みこね続けるの。だから…ずうつと、ずつといっちよでちゅよ？ずうつとずっとママといっちよ。ずうつと大きな赤ちゃん…永遠に…」

※⑥ーB「奴隷」

【登場人物】勇者、メリッサ

メリッサ

「失礼いたします。本日もデカパイデカケツの全裸奴隷ママが高速授乳チンポコキに参りました。どうかこのチンポマニアのママ肉に甘えてオギャリチンザコバブバブアクメをおきめくださいませ」

勇者

「ああああおぎゃああおぎゃあ、まんまあああああ、あぶう」

メリッサ

「ああ、このような他人奴隷ママに、早速ママ呼びおぎゃりバブバブでちゅか？母親でもないムチムチ底辺奴隷をドスケベ肉感とパイパイサイズだけでママ認定して大人ドデカバブバブしゅるとは…。最低過ぎて、アナルプラグをぶっさしたケツまんこがひくひくしてしまいまちゅよ」

勇者

「ああママああああママああああああああ」

メリッサ

「あら、ほんとにどっちたんでちゅかそんなに慌てて？さっそくおっぱいおっぱいタイムでちゅか？ああん」

←勇者【指フェラ】 開始

勇者

「ママあああああ、ちゅっっっっっじゅっっっっ、おええっ、ぶじゅっっっっっ、ちゅきいっ」

メリッサ

←メリッサ「立ち位置・上方・少しだけ離れて」

「ああ、ご主人ちゃまそこはパイオツではなく、ママのアンヨでしゅよ？ ちょんなにデカパイェカップが恋しいのか、はたまた頭悪すぎで区別がついてないのか。どちらにせよ、一か月母乳風呂にしか入っていないゲキ臭アンヨ指をフェラチオだなんて、変態赤ちゃんにも限度がありまぢゅよお」

勇者

「ママあ、じゅうつうつ、くっさいけどおいちいよおじゅぽお
おおおじゅぽじゅぽじゅぽおおおおマンママあマン
マあ、じゅうつうつ」

メリッサ

「ああ、ひどい有様。そうやって他人デカパイ女ををママ扱いちてバブバブちめることであつたかおんぎゃあミルクをキンタマチヤージちてるのでちゅね。しかも人間以下の全裸奴隷という遥かなる格下相手におんぎゃあマニア大公開。それでチンマゾママちゅきアピールのちゅもりでちゅか？ 最低です。その指舐めは本来私の仕事でちゅよ？ まったく…私以下のよわよわザコバブちゃんの存在は正直認めがたいものがありますが…それなら…」

←メリッサ【あくまで母親的にきつく】 1つの台詞のみ

メリッサ

「おり、くっさいママアーン」舐めろザ」チンポ。パイパイデカパイバキュームするように奴隷お母さんの、足指チュパフェラでぽんぽん一杯にちておんぎゃあ赤ちゃんしろ！」

勇者

「んんんん、じゅうううううう、マンマあ、えろお、れろ

お」

メリッサ

「あら申し訳ございまちえん。奴隷をママ呼びする底辺赤ちゃんをわからせてやろうと思い、つい汚い言葉が出てしまいまちたね。ですがちゅべてはご主人ちやまの**チンポ**の為。ご理解いただけますと幸いです」

勇者

「ママあ…じゅううううう」

メリッサ

「くす、ですがいいのでしゅか？こうちてくっちやい両足の裏を主の顔にこすりつけるのも素敵ですが、やはり**たっぱんたっぱん**マニアのご主人ちやまはパイパイババブの方がいいのではないでちゅか？ママ、**たっぱん**ミルクタンクにチュパチュパ母乳をたくさん溜め込んできたのでちゅよ」

→勇者【指フェラ】 終了

メリッサ

「やはり巨大赤ちゃんには巨大オッパイと相場が決まっております。それに本日は魔王様からとくべちゅなおっぱいママプレイの許可を頂いているのです。ですからほら 私のぶつとももに顔を乗せ、アンヨをおんぎゃあ大開脚ちてバブバブ授乳手コキスタイルをおとりくだчайい」

←メリッサ【キック】 この台詞のみ

メリッサ

「ほら遅いー早くおんぎゃあしなчайい！ママを待たせない！」

勇者

「ああ、マンマあ、ママあ、おっぱい！パイパイほちいい！」

←メリッサ【立ち位置・上方・近づく】

メリッサ

「ああ、そうでしゅよ。いい子いい子よちよち。やはり我が主は奴隷以下のおっぱい赤ちゃんでちゅね。そう、そうやってママのお膝に来て…はあいアンヨばんじゃあああい」

勇者

「ばんじゃあああい」

メリッサ

「ああなんてなちゃけないアンヨ大開脚でちよう？高速ママチンシ」欲しさにそんなにオスマラチンポおむちゅに突き立てて…」

勇者

「あつうつつばぶうつつうつ」

メリッサ

「ああ、今度はアンヨもあうあうバブバブと動き始めました。ママになってくだちいと頼んだ爆乳奴隷にちゅべてのママパイ欲求を大公開中ですわ。ああよちよち。マジヤコンなんでちゅねえ。パイパイお母さんプレイでないとチンポ汁**おんぎやあ**できないのでちゅねえ」

勇者

「まんまあ♡まんあま！ああああ、おっぱいいいいいい」

メリッサ

「あらあら、今度はドデカチンポおったてなきむちでバブバブプレイでちゅか？うふふ、そんなんじやたりまちえんよ。もっともっと他人ムチムチデカ女をママ呼びママおっぱい連呼ちなちゃい？ド変態おっぱいママ認定プレイでご主人ちゃまのチンポとママの子宮をあったためバブバブしちやいなちゃい。そちらら授乳デカパイんちゅんちゅちゅうちゅうさせてあげまちゅよ？」

メリッサ

「ほら早く！ママの言うこときなちゃい！」

勇者

「あああ、ママあー！ママっママっママっママっママっママっママっママっママっママあー！まんまああああおっぱいママあああああ、おっぱいいいいいいおっぱいおっぱいおっぱいパイパイパイパイパイパイいいいいまんまあまんまあ、おぎゃっんんぎゃっあああああ」

メリッサ

「おお♡おほお♡ドデカおっぱい赤ちゃんのマンマ呼び子宮にくる♡んふう、はあはあ、よちよち。いい子お、いい子お。よくできまちなね。あまりの変態ぶりに子宮が赤ちゃんチンポ受け入れ準備始めそうになりまちなよ。んふ、ちようがありまちなね。いい子にはムチムチ奴隷ママが今、濃厚母乳びゅしゅうつとひねりだちてたつぶんパイパイミルクあげまちなよ。当然その間は、くっちゃいむれむれおむちゅの中に手を突っ込んで高速ママ手コキでチンポにわからせてあげまちなからねえ」

←メリッサ【しゅってのみ耳元で囁き】 っの台詞のみ

メリッサ

「はあいご主人ちゃまあ、全裸授乳プレイのお時間でちゅよお、一杯一杯、お口でパイパイ…しゅっ・てえ」

←勇者【おっぱい吸いながら】 開始

勇者

「ああ、まんまあ。じゅっっっっっっっっっっっっっっっ」

メリッサ

「おほ♡いい子いい子。もっとしゅって、もっとしゅいちゅきな
ちやあい。あなたをちよだてた覚えなんてじえんじえないデカ授乳乳首を咥えこんでパイ肉を口の中でむちゅうつと絞ると、たぶたぶ母乳おっぱい汁がぶしゅぶしゅ溢れてきまちなからねえ」

メリッサ

「おっお♡チンポのバキバキ感最高でしゅよお。いい子いい子お。んふ、いいこでちゅねえ。全裸デカパイ授乳きもちいいでちゅねえ。ママ達今、どこからどう見ても本当の親子でちゅよお。こんなに**デッカ**イド変態ベビー服赤ちゃんに授乳しながらチンポのお世話するなんて、ガチ母性ママにちかできにやいでちゅものねえ。生半可な爆乳他人お母さんではこんなパイパイ赤ちゃんプレイ無理でちゅよお」

メリッサ

「ほらほらあ、チンヨチママプレイ気持ちいいねえ？デカパイ授乳女にママになって貰えてうれちいでちゅねえ？マジヤ**コンおんぎ**ゃあ欲求、他人の母性にぶちゅけられてよかったねえ。ほおら

ちんちんちんちんちんちん」

勇者

メリッサ

「ああん、ヨチヨチちゅきいじゅつつむ」
「くすくす、チンポきくねえ。チンポききまちゅねえ。いい子いい子。ご主人ちやまはおんぎゃあおっぱいちゅることちか能のなイドスケベ奴隷赤ちゃんだと今日はおチンポしまにたつくつちやんわからせてあげまちゅよ？自分の奴隷に赤ちゃん言葉で授乳をされて**おっぱいちゅきちゅき敗北**ちまちょうね」

←メリッサ【耳元で囁き】 この台詞のみ

メリッサ

「ほおら変態変態変態変態！変態赤ちゃん変態赤ちゃん変態赤ちゃん変態赤ちゃん変態大人赤ちゃん変態ドデカ赤ちゃん」

勇者

「んむううう、んちゅううううう」

メリッサ

「ああん、分からせ希望のチンビキきまちたあ。私奴隷ですのに元勇者ちゃまにおっぱいママ認定されてますう。アンヨだあだあも始まって**ばぶうばぶう**と本格**おんぎゃあ**開始でちゅねえ？ああ、ですがご主人ちゃま？ちよんなママちゅきおっぱい赤ちゃんに朗報がございまちゅよ？」

メリッサ

「ミルクおっぱいチュパチュパしながらお聞きください。じちゅは魔王様から許可を頂いたママプレイとはおんぎゃあ胎内回歸プレイなのです。ドデカ赤ちゃんにわかりまちゅか？胎内回歸とはご主人ちゃまを私のお腹に返して妊娠するということでちゅよ?。」

勇者

「んちゅうううう、ちゅううむ」

メリッサ

「マザーサキュバスの秘術で性奴隷他人マンマを本当の母子マンマにできるのです。チンポをママまんこに**ズボズボ**はめて奴隷遺伝子とちゆなげることで、最低おんぎゃあ赤ちゃんをバブバブ出産ブレイできるんでちゅよ」

メリッサ

「ああ♡説明だけで興奮してお母さん穴がひくひくちてきまちたよお。まさかご主人ちゃまを孕める時が来るとは夢にも思いませんでした」

勇者

「ちゅぱあ、あつつママあつつ♡ママアあああ♡ふんぎゃああ、ふんぎゃあああああ」

メリッサ

「ああよちよち、ご主人ちゃまも早くお母さんのお腹の中にチンポねじ込んで**お帰りなちや**いちたいのでちゅね。でちゅが待ってくだちやい。この授乳チンヨチはその為の前戯なのでちゅよ。しっかりとぶしゅぶしゅママミルクエキスで体を母体に馴染ませ、マチゅき精子をおキンタマに溜め込ませるのです。ちよのあとはベロチュウヨチヨチながらの濃厚チンジュボ母子交尾でおかえりなちやいミルクをおまんこおまるに**どくどくどつびゅん**しゆるだけで胎内回帰は完了です」

メリッサ

「アヘアパイ揉みママチュキピストンをちてる間に、ご主人ちやまの身体はチン汁となって奴隷ママの子宮にナイナイされます。そこから一日、胎児とちて子宮であつたかバブバブタイムをお楽しみになった後、翌日にはまんこひりだし出産**おんぎゃあ**ブレイとなります」

メリッサ

「勿論その後のことが心配でしょうが大丈夫でちゅよ？一週間ほどで今の記憶を保持したドデカ赤ちゃんに戻りますからね。これから羞恥の**ドデカ**大人ボディで大人**おんぎゃあ**ブレイは可能でちゅよ。ああよかったでちゅえ？サイズ不一致のベビーグッズを使つての大人背徳バブバブほどチンポにくるものはないでちゅからねえ」

勇者

メリッサ

「ああああ。おおお♡しよれいい♡ちゅううううう」
「ん、興奮ちてるのですね。チンポのあちゅさでママにもわかりまちゅよ。でちゅがご主人ちやまはわかりまちゅか？あれほどの魔王様がなぜ私の妊娠を許可したか」

メリッサ

「全ては魔王様の計画です。今魔王様はママキンタイムで授乳を
禁じ母性を限界まで滾らせております。そしてこのタイミングで
ご主人ちゃまを奴隷の赤ん坊というウンカスのような底辺バブち
やんに作りかえる。それはきつと究極の母性調教を施す為です」

メリッサ

「魔王様はこう仰っております。ご主人ちゃまが元の大人バブ
バブ状態に戻るやいなや、魔王様は私の乳首とまんこを拘束し
て、私の前で自らご主人ちゃまとわからせ胎内回帰プレイするお
つもりだと。ご主人ちゃまと汗だく爆乳交尾チンポを三日三晩続
け、最後はせいちゅうミルクでおまんこ**おんぎゃあ**させるおつも
りです」

メリッサ

「ご主人ちゃまは誰のドデカ赤ちゃんなのかしっかり奴隷とご主
人ちゃまにわからせる、ということなのでしょう。そしてその後、
出産の為、魔王様は私に分娩台になれと仰りました。そしてその
後の私の仕事はおむつ交換台だとも」

メリッサ

「私の腹の上に股を開き、私のデカパイめがけてご主人ちゃまを
出産するからしっかり赤ちゃん飛び出しギチギチママまんこを見
てるがいいと、そう仰いました。私…そんなこと言われたらもう
…」

メリッサ

「ああああああ考えるだけで最高ですううううう、流石魔王様あああ。それこそさいごうの奉仕ですううううう。奉仕、奉仕、奉仕いいいい」

メリッサ

「はあはあご主人ちゃまわかりまちゅかあ？今のあなた様はこんな奉仕奴隷まんこに赤ちゃんママプレイでミチミチチンポ、バブバブさせてるんでちゅよ？魔王様のコマとして使われ、快感を得る変態奉仕バブちゃんマニアに授乳ヨワチンポ、チュコチュココキコキされてるんでちゅよお」

←メリッサ【耳元で囁き】

この台詞のみ

メリッサ

「そんな奴隷をパイパイサイズだけでママ認定するだなんてざっこおいでちゅねえ。ドマゾ変態赤ちゃんでちゅねえ、あなた様は奴隷の奴隷、最底辺のおっぱい奴隷でちゅよ。底辺全裸奴隷マンマにチンポも食事もおっぱい授乳手コキで管理されてみじめでちゅねえ。魔王様の母性刺激用無能赤ちゃん奴隷弱すぎですう。バブバブおっぱい赤ちゃん、弱すぎて逆に愛しいですう」

メリッサ

「はあはあ、こんな私でもチンイキバブさせられるヨワチンボ赤ちゃん早く出産してみたいです。お腹を痛めて産んだ無能赤ちゃんをおしおきがたらにケツ叩きまくって、マゾチンポどびゅどびゅさせてあげたいです」

勇者

「おおおお、それちてえドマゾチンポにそれちてえ」

メリッサ

「こらー！おっぱい奴隷の癖に、パイチュパ止めるんじゃないません！ちっかりパイチュパ赤ちゃんしなちゃい！ちかもこんなにチンピクさせてママのお腹に帰りたいアピールでちゅか？」

メリッサ

「まったく。ちょんなよわ赤ちゃんかわいすぎてママいじめたくなっちゃいまちたよお。だからあ、オラ、イケ！チンカスヨワチンポイケ！ヨワヨワマジヤコンチンポで授乳おんぎゃあチュパチュパクメきめろ！」

勇者

「おおおおおお〃お〃お〃お〃んおおおおおお、ちゅつつつむずじゅつつつつつ」

メリッサ

「ああいい子お。いい子お。くっちゃいチンポにママ言葉がクリティカルヒットちまちたねえ。大丈夫、大丈夫でちゅよ。これも愛しているが故なんでちゅよ？」

メリッサ

「ほら、お詫びにデカパイむっちゃんデカ乳首をふたちゅ同時に口
口にねじこみまちゅから、ダブルパイパイ授乳で授乳手コキはラ
ストスパートにちまちょうねえ？」

メリッサ

「はあいもつとお口開けてくだちゃあい、ふたちゅのおっきなパ
イパイの先端をお、こっやって乳首同時ずり合わせながらお口に
い、ああじようじゅ、おっぱいじようじゅにちゅえたねえ、偉い
でちゅねえ」

勇者

「んじゅうううううう、んじゅうううううううううううううう」

メリッサ

「んほお♡胎児**おんぎゃあ**確定のドデカ赤ちゃんにデカ乳首同時
にちゅい伸ばされてますう。ママの**たっぷんぽにゅぽにゅミルク**
と乳肉パイパイが同時にお口に溢れてママパイ天国でちゅねえ。
もつともつとお乳変形しゅるほど乳首さんすい伸ばちていいでち
ゅからねえ。大人赤ちゃんパワーでおっぱいゴクゴクパワープレ
イチていいのでちゅよお」

メリッサ

「でないと授乳ママのズリチンポヨチヨチに耐えられないでちゅ
からねえ？はあいではこちらは、ほかほかおむちゅの中で皮ズリ
強制**おんぎゃあ**開始でえす」

←メリッサ「スピードアップ」 開始

メリッサ

「ほおら IPPAI 甘えていいでちゅからねえ」

メリッサ

「他人お母さんのボインボインパイパイに甘えられるのは今だけ
かもちれまちなよお。だって私たちはパイパイだぶんだぶん揺
らしながら母子相姦するチンパコおっぱい親子になるのでちゅか
ら」

メリッサ

「だから今だけはホントはお母さんでもなんでもないスケベ女
に、マンマあマンマあ、バブバブウとチンポおったてて甘えな
ちやい。ほおらよちよちいい、いい子いい子お、おっぱいちゅ
うのじょうじゅだねえ？ほおらチンポもズリズリズリズリズリズ
リズリィ」

メリッサ

「プルプルデカパイママに授乳されてえ、おむちゅの布に白いお
ちっこぴゅっぴゅっぴゅっ。本当は黄色いおちっこがちえん
もんのおむちゅの布に**びゅっぴゅっぶおぎやあおぎやあ**と白い
おちっこをぶちまけてちみこませまちなよおねえ？」

メリッサ

「おむちゅさんもびっくりでちゅよねえ。自分を履いてるのは赤ちゃんだと思っていたら、**でっかい変態大人赤ちゃんなんでちゅもの**。赤ちゃんを黄色いおちっこから守る神聖な布が大人ドデカ赤ちゃんのくちやいくちやあいなた**つぶ**りおちっこでバブバブおんぎやあレイプされてちまうのでちゅからねえ？」

メリッサ

「それってとつても、**へ・ん・た・い**・でちゅねえ」

勇者

「ちゅううう、んんん、ああん、ままあ、ぼく、ぼくも

うー」

メリッサ

「ああいいでちゅよお、クソデカ授乳パイオツとドデカオムチュ
「**コキで変態おんぎやあ**ちまちようねえ。ママカウントダウンちてあげるからねえ」

←メリッサ【左耳元で囁き】

メリッサ

「5」

←メリッサ【右耳元で囁き】 開始

メリッサ

「おっぱいちゅってえ、おっぱいちゅってえ、マンマのデカパイ
もじゅうううう**ちゅいのばちて**、もつとちゅよく、ちゅうちゅ
うちゅって、どたぶんパイパイ**ちゅってえちゅってちゅってちゅ**

つてえ、おっぱいハムハムからのお、おっぱいバキュームじゅう
つてちてえ」

メリッサ

「4」

→メリッサ【右耳元で囁き】 終了

←メリッサ【左耳元で囁き】 開始

メリッサ

「チンポいってえ、びゅつぶびゅつぶだちてえ、マジヤコンおん
ぎゃあミルク、おむちゅにとつぶいどつぶいどぶちまけてえ」

メリッサ

「イキリビチンポオムチュとママのやさちいお手手の中でバブ
バブ甘えおちーちだちてえ、バブバブどつぶいどつぶいだちてえ」

メリッサ

「3」

→メリッサ【左耳元で囁き】 終了

←メリッサ【右耳元で囁き】 開始

メリッサ

「オラ、イケ！イケ！ママチンポアクメきめろ！授乳パイパイア
クメでチンイキバブバイケ！母乳ミルクでマジヤコンキンタ
マ、おんぎゃあアクメきめろ！おっぱい奴隷赤ちゃんアクメキメ

□！イケ！イケ！イケッッ！」

メリッサ

「2」

→メリッサ【右耳元で囁き】 終了

←メリッサ【左耳元で囁き】 開始

メリッサ

「はあいよちよち。いい子いい子お。おっぱいちゅうちゅうおっ
きな赤ちゃんじょうじゅだねえ。たつぶんパイパイおいちいね
え。えらいでちゅねえ。いい子だねえ。オチンポバブバブもじょ
うじゅだねえ」

メリッサ

「1」

→メリッサ【左耳元で囁き】 終了

メリッサ

←メリッサ【右耳元で囁き】 この台詞のみ

「1」

メリッサ

←メリッサ【左耳元で囁き】 この台詞のみ

「いーっち♡」

勇者

「ちゅっつっつっつんん」

メリッサ

「はあいストップっつっつっつ。残念でちたあ、まだびゅっぴゅ
はナイナイでちゅよおおおお、チンポぎゅっつっつっつっつ」

勇者

「チュパあ、おおおお、おほおおおお、おほおおおんマあ
んマあ、どっちてえ」

→勇者 【おっぱいを吸いながら】 終了

メリッサ

「くす、奴隷底辺赤ちゃんはオバカでちゅねえ、先ほどもお話し
た通り、このバブバブ授乳手コキは前座なのでちゅよ？オチンポ
オンギャオンギャアミルクはママのくっちゃいお母さん穴に注
いで貰わないと」

勇者

「おおお、だからってこのタイミングはあ…おおおお、ふううう
ううううふううううう」

メリッサ

「くす、チンポひくひくかわいいでちゅねえ？いちゅでもおまん
こジユボらせ準備完了でドキドキします。ゲキよわ即又キチンポ
に射精禁止の呪いを施しておいて正解でしたわ」

勇者

「おおおおお、チンポおおおおチンポいぎだいいいいぴゅつぴ
ゅちたいでちゅううううう」

勇者

「バブバブじゅるがらあ、おねがiiiiiiii」

勇者

「あぶうううう、あうううう、マンマあああマンマああああ
あ、チンポおおおチンポオオオ、ああう、だああっだあああん
ぎゃああああおんぎゃあああ」

メリッサ

←メリッサ【最後にディープキス・立ち位置を正面に移動】

「クスクス、あうあうチンポおねだり素敵でちゅねえ？こんな最低なドデカおっぱい赤ちゃんがママの初めてのむちゅことしてまんこ穴から**おんぎ**やあしゆるなんて、保護欲求が高まって仕方ありませんわ。ですが主人ちゃまあ、そんなバブバブうなご主人ちゃまがママはちゅきでちゅよお。ちゅううむう」

←勇者【ディープキス10秒】

勇者

「んちゅうう、ちゅうう、えろおちゅううう」

メリッサ

「ちゅむう、えろお、ドスケベチンジュボママ交尾の前には、ちゅうう、えろお、こうやってママラブパイ揉みぶちゅんキスちゅるんでちゅよお、だから今はこれで我慢。ちゅううむう、んむう」

メリッサ

「ほら、もっとドデカパイパイ揉んでくだちゃあい、乳首ぎゅっぎゅってちゅまんで交尾用母乳ミルク溢れさせてえ、ちゅうううううううう、うう、ちゅっむ、えろお」

勇者

「まんまあ、ちゅううううう」

メリッサ

「んんんんむうう、えろお、奴隷お母さんママとおデカパイベロベロキシユううううう。ああ、母乳パイパイミルクでべとべとれろれおなお口いおいちいでちゅよお。乳揺れ交尾用のマおっぱいを**じゅんちゅんちゅ**飲んでくれたお口い、たっくちゃん舌でいい子いい子ヨチヨチちてあげまちゅよお、んちゅううう、ちゅううむう。んじゅううううううう、あはあ、**くっちやい**母乳汁ベトベトで気持ちいいでちゅねえ、ちゅううううう、もっとおじゅううう、もっとおっぱいキスちてえ、ちゅむうれるお、じゅうううううううううう」

メリッサ

「んぷはああああ、はあはあ、よちよち。よくできまちたあ。ではおちゅぎはあママが赤ちゃんのドデカおむちゅはじゅちてあげまちゅねえ。ほらびりってえはがちてゲキクサ交尾チンポお、

大ごうかあい」

勇者

「んはあ、はあはあ…ママあ…マンマあ…おんぎやつおんぎやつああ！んぎゃああああああああ」

メリッサ

「はあはあ、しゅっぐいでちゅねえ、アンヨバタバタさせながらマジヤコンキンタマもうあがってきてまちゅよお。お母さんまんにジユボジユボ希望のデカチンポしゃんはあ、くっさいチン汁垂らしてマンマあ、マンマア！お母さんの中にかえりたいでちゅー！お母さんから産まれたいでちゅうって、最低おっぱい赤ちゃんちながら腰振りエアチンジユボ始めてまちゅねえ」

勇者

「ああ、マンマあ、おまんこおおおチンポジユボジユボさせてええ」

メリッサ

「ああいいでちゅよお、いい子いい子お。ママが今、ご主人ちゃまのくっちゃいおんぎやあアンヨ掴んで、チングリ返し状態でえ、逆種付けプレスいたちまちゅよ。おんぎやあ胎内回帰はすぐそこでちゅからねえ」

メリッサ

「ほおら見てくだちゃあい。ここがご主人ちゃまが産まれてくることになる、マン汁ぬとぬとのお熟メスおんぎやあ用オメコ穴でちゅよお」

メリッサ

「ここでご主人チンポぶっさしおかえりなちゃいちてえ、乳揺れパイパイぶるんぶるんって高速ヨチヨチピストンちまちゅからねえ」

メリッサ

「はい赤ちゃんご主人ちやまあ♡おかえりなちやあい
いい、んおおおおお“お“お“お”

勇者

「んおおおおおおお、まんまあああああああ

メリッサ

「おほおおお、バキバキブンポキクゥ♡根元までえ、ム
レムレホカホカお母さん穴にい**注入**ううううお“お“お”

勇者

「おおおお“お“お、ブンポおーブンポおー！

メリッサ

「んはああ、ああい子いい子お。ママでちゅよお、未来のマ
マがチンポいい子いい子ちてるよお。だから大丈夫う大丈夫でち
ゅからねえ。ほおら今からマン肉でマンキツチンポおいでおいで
ピストンちまちゅからあ、お母さんといっちょに腰振り大ちゅき
体操ちまちゅねえ」

メリッサ

「ほおら、デカ尻**たぶたぶ**振りまくってえ、チンポいい子いい子
お、いないないばあああああいないないばあああああ
あああああ」

勇者

「おおおおお、マンマあああああああおぎゃっ、おぎゃ
っおんぎゃあんぎゃあああああああああ」

メリッサ

「ああ、赤ちゃんアンヨ暴れてるう。チンビキオムチュ赤ちゃん
とデカパイだっふんだっふんお母さんが、親子プレイで母子交尾
デカパイチンハメちてまちゅよお。ご主人ちやまを妊娠しゅるた
めにお母さんの子宮にチンポ甘えてマンヨチいい子ちてるんでち
ゅよお。わがままドデカ赤ちゃんチンポ、じゅぼらせバブバブい
い子いい子お」

メリッサ

「ちかも足ピンアンヨバブバブで甘えんぼ大開脚のはじゅかちい
格好で杭打ちチンポピストンですう♡でっかい大人赤ちゃん用お
むちゅを交換する時の赤ちゃんバブバブポーズでちゅよお。巨大
赤ちゃんちえんのようなバブバブママ交尾でうれちいねえ。赤ち
ゃんは**おんぎやあ**せつくしゅの時も赤ちゃんなんでしゅねえ。マ
マ、この体勢、母性疼いてパイパイ揺れまくってちまいまちゅよ
お」

勇者

「これいいいいいい、バブバブマンマンマながら、マ
ンジユボできるのお」

メリッサ

「ああ、そんなオギャ声だたらママあ、デカパイお母さん汁たくちゃんでちやいますう。**ぶしゅつぶしゅ**うと母乳汁がとびだちて、大きな**おんぎ**や赤ちゃんの身体にパイ汁ぶっかけまくってまちゅよお。いい子いい子お、乳くさあいべとべと**おんぎ**や赤ちゃんはいい子いい子お。まるで羊水まみれの赤ちゃんみたいで。子宮回帰準備バッチリでちゅねえ」

勇者

「あぶう、あったかあい…パイパイもチンポもあったかいでちゅううううううう」

メリッサ

「はあああ、あーまんまんもあったかいでちゅかあ？よかったでちゅねえ。ご主人ちやまは暫くこのおまんこお肉の中でバブバブしゅることになるのでちゅから今の内にこのあったかママ子宮になれておきまちゅねえ」

メリッサ

「ほおらもっと吸い付きお母さん穴でママ汁一杯ジュボジュボさせながら、マン肉締め上げバキュームちまちゅからねえ。弱すぎ種ぢゅけチンポ、奥の赤ちゃん**おんぎ**や**あルーム**にご招待します」

メリッサ

「こうちておんぎゃあバブちゃんキンタマをおんぎゃあママアナ
ルにうちつけるようにい、いい子お、いい子いい子おいしい子お。
じゅっぼじゅっぼお」

勇者

「おおおおマンマああああああ」

メリッサ

「おお♡母性の象徴の柔らかか**たつぶん**パイパイがバルンバルンと
揺れてドデカ赤ちゃんあやしてまちゅよお、**たっぱん、たっぱん**
と柔らか乳揺れしまくって赤ちゃんが大ちゅきな安心しゆる揺ら
ぎを与えていますう」

メリッサ

「よく見てるんでちゅよ？これがご主人ちゃまのお母さんになる
女のムチムチ汗だくおんぎゃあ特化ボディでちゅからねえ。パイ
肉も腹肉も**プルプルブルブル**なデカケツまで肉汁たつぷりで
す。巨大おんぎゃあ赤ちゃん用にチューニングされている変態マ
マボディでちゅからねえ。腰ふりデカケツセックス可能なデカパ
イお母さんにご主人ちゃまは産んでもらってすくすくちよだてて
ほちいでちゅよね？」

勇者

「おおお産んでえええママボクを産んでええええええ」

メリッサ

「おお、はいいかちこまりまちたあ、奴隷ママはあ、んは、ドデ
カパイちゅき赤ちゃんの実母ママになりまちゅよお」

メリッサ

「くっちゃんいおんぎやあお母さん穴から、変態マジヤコンバブちゃんひねりだちて出産ご奉仕アクメきめちゃいまあす」

メリッサ

「だからご主人ちゃまも最後の大人バブバブちてくだちゃんい。でつかい赤ちゃんにちかできない、変態赤ちゃん言葉連発の最低ドデカおんぎやあでバブ汁キンタマあっためプレイしゆるのでちゅよ。これからご主人ちゃまが産まれ変わる、本物の甘えんぼ赤ちゃんを見様見真似で完コピおんぎやあでちゅからね」

勇者

「ああああ、あぶううううう、だっだああああだっだあああああああうううううううううう」

メリッサ

「おおおお、もう大人おんぎやあきたあ。ママのバブバブベビールームでご主人ちゃまのミチミチバキチンポコもおんぎやあおんぎやつとあうあうだっだちて暴れてまちゅよお。まん肉ぎゅうぎゅう抱っこでチンジュボいい子ちても、ママあママあとビキビキドクドク震えて、お母さん孕ませ願望大公開中ですう。いくらなんでも変態すぎでちゅよお」

メリッサ

「ああ、ちよんな無能パイパイ赤ちゃんはママの子宮からやりなおしてちゅよお。犯罪級の変態オチンポしゃんはママのお家まんこに閉じ込めまあす」

勇者

「あつうううう、ぶううう、あつぶうううううううマッ
マああああああああ」

メリッサ

「ああ、わかりまちゅよう。赤ちゃんの言葉ママわかりまちゅ
よ。ヨフチンポ保護ちてえって、ママのお腹でボクを守ってえっ
て最弱奴隷赤ちゃん甘えてるう。おっぱいぶるぶるママはちょん
なよわダメダメ赤ちゃんをチンポと身体まとめてじえんし保護ち
てあげまちゅよお、赤ちゃんお腹でぎゅうぎゅう抱っこおおお
おお、チンヨチぶりぶりおちっこ、おまんこおまるプレスに**おん
ぎゃあ**」

勇者

「おおおおぶうううううう、バブバブじゅるう、おんぎゃあ
ああおんぎゃあああああああああ」

メリッサ

「ああそんなじゃメツメツですう！もっと赤ちゃんバブバブぢ
なぢゃい！赤ちゃんもドン引きのバブバブおんぎゃあぢなぢゃ
い！」

メリッサ

「んはあ、こうちてケツ振りのリジウムに合わちてえ、**オギヤッ
オギヤッオギヤッオギヤッ！オギヤッオギヤッオギヤッオギヤッ
ッ！**」

勇者

「オギヤッオギヤッオギヤッオギヤッ！」

勇者

「おぎゃっんぎゃっふんぎゃあ、おんぎゃあおんぎゃああああ
ああああ、ふんぎゃあああああああああああああ」

メリッサ

「おおおい子おい子お、きくうう、バブバブ確定チンポき
くうう」

メリッサ

「ああいでちゅよお、このままママまんこ穴の一番奥にどっぴ
ゅうとオギャ汁突っ込んで**チンポおんぎゃあ**しちやいなちやい。

奴隷お母さん大ちゅきカミングアウトしながら母性に敗北**おんぎ**

ゃあしちやいまちようねえ、ママ、お母さん臭**キツ**イたふたふ

デカケツ杭打ちピストンで一杯振ってあげるから最後は**ばぶうば**

ぶううとチンジュボママちゅき阿克メきめてくだちやあい。子宮

チンポバキュームで変態スケベお母さんの一部になって**おんぎゃ**

あハッピーエンドにむかいまちよう」

勇者

「ばぶっ、ばぶっ、ばぶっばぶっうー！ばぶっつっつっつ。ばぶっ
つっ。ばぶばぶっつっつばぶばぶっつっつばぶっつっつつっつつ

つっつっつっつ」

「ラストスパート」

メリッサ

「ご主人チンポ、いないないばああ！よわよわチンポいないないばあ！いないいなあいばあ！いないないばあ！いにやいにやいばあ！」

勇者

「マあママっママっママっママあああママあああああマ
ンマアあああマンま、マンマあああああああああ」

勇者

「ママっママっママっママあママっママっママっママあああ！」

←メリッサ「スピードアップ」 開始

メリッサ

「ああ、ご主人ちゃま、ママでちゅよお、デカパイ乳揺れママはここにいまちゅよお、ママが坊やの奴隷お母さんでちゅからねっ！奴隷おっぱいマンマがバブちゃん産んであげまちゅからねっ」

メリッサ

「おいでおいでっ、ママの中においでっ。まんこ穴通っておっぱいママの中においでっ産まれる穴からお帰りチンポっ！」

メリッサ

「ママ産むからあ！みつともない赤ちゃん産むからあ！パイちゅきマジヤコン赤ちゃんちよだててあげるからあ！だから大丈夫う、甘えチンポぶっさして大丈夫う」

メリッサ

「母乳ぶっしゅっっっ、デカパイミルクぶっしゅっっっ、ぽにゅぽにゅミルクぶっしゅっっっ」

メリッサ

「おおおおあがじゃん孕むっっっっっ、ぐじゅんじゃ
ままだいぐべるっっっっっおほおおおおおおお」

メリッサ

「おお、んおおお、すごい量のお、おんぎゃあジャーメンが
あ、まんどおにいいいいいい、ぐるっぐるっっっっっ
う」

メリッサ

「おおおお、んほおおおおおおお」

メリッサ

「んおおおおお、お腹ふくらむっっ、ドデカあがじゃん妊娠
じゅるっっ、おお、あゝあゝぎべっっ、母性まんどぎべ
っっ」

メリッサ

「はあはあ、んあ、じえんぶ入りまぢたがあ、えらあい、えゝら
あいい子ゝあいい子ゝお」

メリッサ

「おゝおゝおゝおゝお、おほお、おおおおおんほおお
おおおばぶじゃん…わたぐちのあがじゃん…、奴隷あがじゃ
ん」

メリッサ

「おほお♡もつおながげつでまずっっっ、中でバブバブお
んぎゃあプレイのちゅちゅき始めてますっっ、おおおおま
だだいぐっっ、妊娠アグメいぐっ」

メリッサ

「おほおおおおお、ぎゅぎゅですぅぅぅ、妊娠っほっごい
じゅですぅぅぅぅぅ」

メリッサ

「んはあ、はやぐ産みたいですぅぅぅ、おっばい赤ちゃんぶり
ぶりちたいいいい」

メリッサ

「あああ、んはあ。ああ、元気なあがじゃん産んでさしげまじゅ
よお。だから一杯おんぎゃああおんぎゃああちてくだじゃい
ね。わだぐちの赤ちゃんっ、ママの本当のあがじゃん…。」